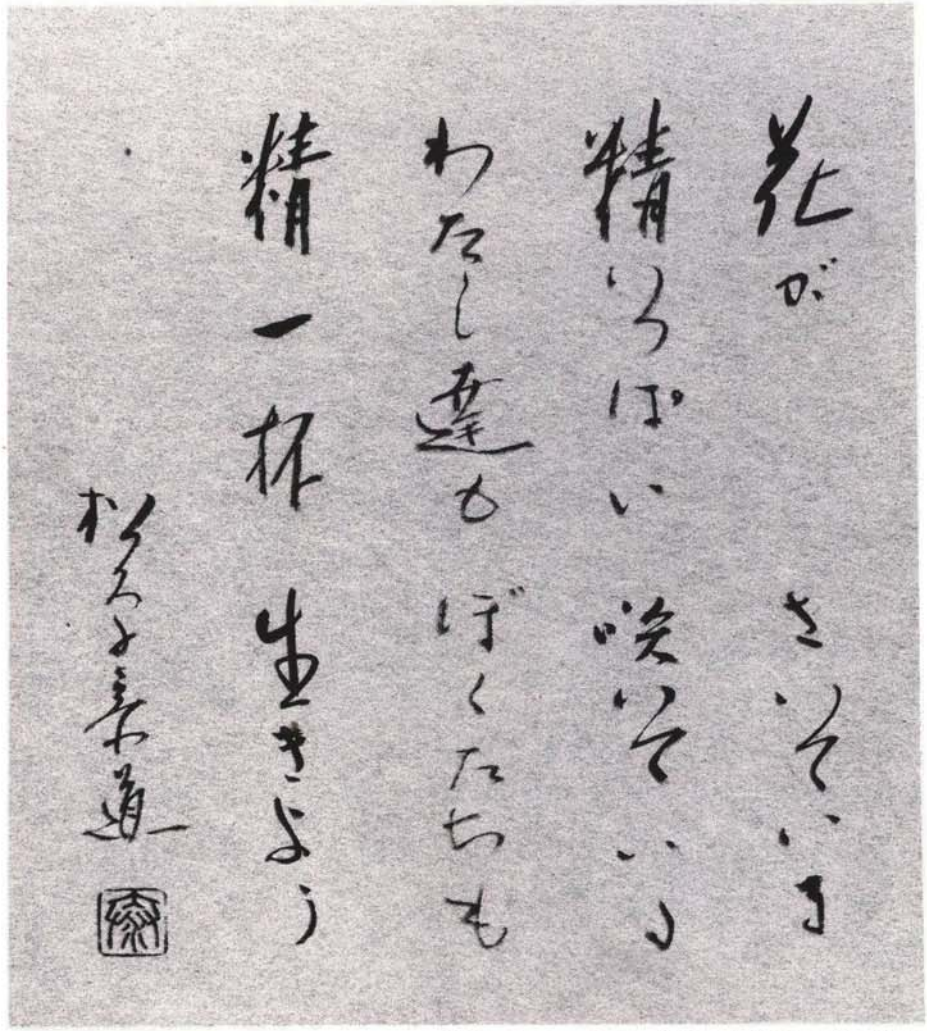
R．I 第268・267地区

第9回RYLAセミナー報告



RYLAセミナーに参加された時の書である

ROTARY BRINGS HOPE

1987年4月2日～5日

RYLA運営委員会

開催地　西日本青少年野外活動センター
（神戸YMCA余島センター）

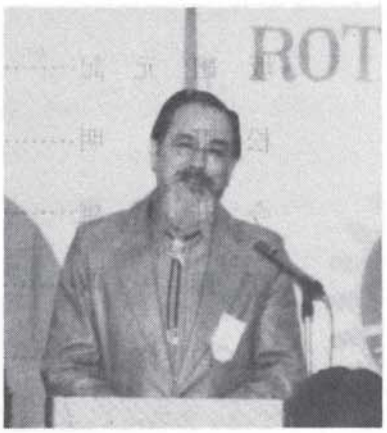
もくじ

ごあいさつ　坂田元記……1
松野　明……4
今井鎮雄……5
ディーンより一言　江藤一明……11
谷口修平……13
セミナースケジュール　15

講演（テーマ）自己を見つめる　日本を見つめる　世界を見つめる
もう一人の自分の発見　松原泰道……18
心の角度をかえて日本を見る　萩原茂裕……44
宇宙的規模・地球的規模より見た21世紀の世界の動き　奈良　毅……94

参加者感想文……122
AA'グループ……123
BB'グループ……137
CC'グループ……149
DD'グループ……161
参加者名簿……171

御　挨　拶



ＲＩ第268地区ガバナー

坂　田　元　記

ロータリーとは、奉仕の理想を目標としまして、心をあわせている人達の集いでございます。ロータリーは、４つの奉仕部門を持っています。

１つはクラブ奉仕、自分達のクラブをいかに良くするか。２番めは社会奉仕、地域社会、地元の社会に対する奉仕。３番めに職業奉仕、自分の職業を通じて社会に奉仕する。４番めに国際奉仕、国際的な理解を深め、親善を広め平和を保つということ。そういうことがロータリーの活動でございます。

ロータリーは、ロータリアン、世界中の会員がお金を出しあって、ロータリー財団というものを持っています。そのロータリー財団、いろんな仕事をやっておりますが、一番大きな仕事は留学生を送り出すことです。みなさんも、どうぞ留学される時は、ロータリー財団奨学生をふるって希望していただいて、ご参加いただくようにお願いしたいと思います。それから日本のロータリアンだけで米山奨学会というのを持っておりまして、海外からの留学生の学費を出してお世話しています。そういうこととか、各地区単位で海外との青少年の交歓、国内でも青少年の交歓をやっております。長期は１年、短期は１ケ月くらいでございますが、青少年のみなさんと一緒にやろうと励んでおります。

それから、大学へ入る前４年間、14才から18才の人達を集めて、インターアクトクラブというのをやっております。このクラブが世界中１５，０００ございます。ざっと10万のインターアクターがロータリアンと心をあわせて地域社会に対する奉仕、国際理解を努めております。さらに、18才から28才までのヤングアダルトを対象にしまして、ローターアクトクラブを作っております。これも世界中に、ざっと5,000ございまして11万人くらいの人がおります。その他今年から新しくできましたロータリービレッジコープス、ロータリーボランティアコープスというのがございますが、これは年令とか性別

関係なしに、どなたでも入れる組織です。

ＲＶＣ、日本ではこの間神戸南ＲＶＣというのが初めて誕生したところであります。そういうふうにロータリーはいろんな形で若いみなさんと心を同じくして、その地域を良くしよう。そして、みなさんとともに歩んでいこうと考えております。

みなさん、この20世紀の歴史をずっとふり返ってみて特長ってなんでしょう。

私なんか技術屋ですから一番先に挙げたいのは科学と技術の進歩、飛躍的な進歩があると思います。しかし、これはいろんな意味で、経済の拡大、従来社会組織の崩壊ということからいろんな意味の闘争を生んでおります。今日本は経済戦争ということで、世界に対して非常に苦しい立場に立っています。それから、第二の特長として挙げられるのは、いろんなイズム、なんとかイズムっていうのがたくさん出てまいりましたね。そういうイデオロギーが次々に生まれた世紀であった。そして、イデオロギーとイデオロギーの間の闘争が非常にさかんに行われた。三番めは、19世紀までの植民地政策から民族国家主義、民族が独立しようという非常に激しい時代であった。これは当然戦争という形で、今だにいろんな所で続いております。考えてみると、20世紀の特長は、科学技術の進歩、イデオロギーの発展、民族主義の発展、これが全部結果として現れたのは闘争ではなかったか。闘争の社会は20世紀で終えなければならない。21世紀は闘争のない相互依存ていいますか。みんなで助け合う社会、それが一番大切でないかと考えています。

この21世紀という舞台、晴れの舞台だと思うんです。この舞台で主役を演じられるのは、ちようどここにお集まりのみなさん方です。みなさん方は、21世紀の主役ですね。21世紀の舞台の上で活動していただけるみなさんが、いいリーダーシップとどうやって持っていただくかということが、私達の非常に大切な１つの役割を考えています。みなさん方がいいリーダーシップを持っている。ここにお集まりの方は、みなさん、充分なリーダーシップをすでにお持ちの方のお集まりだと考えております。ですから、ライラでは先生ってものはないわけです。ある問題提起をする方が次々出て来ます。それから各キャビンにはカウンセラーという方がいらっしゃいます。この方々は、カウンセリングされる方でございますから、リーダーではない。あなた方を引っぱろうという気持ちあなた方の手助けをする方とお考えいただきたい。みなさん、リーダーは参加されるみなさん方なんです。みなさん方により良いリーダーシップを身につけていただく。これが我々の目標でございます。私、神戸に住んでおりますが、みなさん神戸といってパッと思い出されるのは、なんとか組。こういうことを思い出されると思います。あれ、なんとか組の組長さんだって、リーダーシップを持ってるわけですよ。だからあんな組織が出来るんだ。しかし、それは誰からも喜ばれないリーダーシップだと考えます。だか

ら、リーダーシップにもいろんな質があるんだ。良質のリーダーシップを持つこと。

それからみなさん、21世紀を開いてくださるみなさん。世界のために尽くしてくださるみなさん、自分のことだけでなく、人のことを考え、人に尽くしてくださるみなさん、そういうみなさんになっていただきたい。みなさんが、あくまでこの3泊4日の間を主役でとおされる。そうして、21世紀のみなさんが支配すると言ったら大げさでありますが、主役として演じられる21世紀をいかにいい世の中にするか。これが、みなさまの肩の上に乗っている重荷かもしれませんが、ぜひこれはやりとげていただきたい。20世紀の闘争の世紀を早く人類は飛び出さなければいけません。これが私のお願いであります。みなさんどうぞ決してむずかしい議論をするのではなく、それから学理の研究をするわけでもございません。ざっくばらんにみなさまが、裸の気持ちになって、心と心をふれあっていただく。そうして切瑳琢磨、みなさん同志でいいものを作りあげていただくということをぜひお願いしたいと思います。

どうもありがとうございました。

ライラセミナーを終えて

ＲＩ第267地区ガバナー

松　野　　明

今年のライラ・セミナーは、４月２日から５日まで、例年の如く、小豆島、余島で無事その日程を終了いたしました。

「見つめよう」というテーマで「自己」「日本」「世界」と三日にわたり参加の若い皆様は熱心に討議、研究を重ねられ、又それぞれのテーマに、すぐれた講師をお招きすることができて、まことに感激的な三泊四日のプログラムでありました。

今井、辻、牟礼、梶浦、各顧問の先生方も全員ご出席をいただき、江藤ディーンのもと、カウンセラーの方々の献身的なご指導、ご奉仕は、特に初参加でありました私共夫婦にとって、目をみはるようなすばらしいものでありました。そして、そのような成功も、地区青少年活動委員長の谷口さん、ライラ委員長の平地さんの一年にわたる周到なご準備と、坂田ガバナーはじめ多くの第268地区の方々のご協力のおかげでございます。

昨年の国際協議会の分科会で、アジア地区において、もっとも成功しているライラ・プログラムとして、268－267地区が話題になり、私に説明を求められて、うれしいやら、同時に勉強不足のためにとまどったことがございました。今回実際に参加して、そのすばらしさがよくわかりました。

青年達が、この余島で、何かを考え、何かを生みだし、何かをもちかえる、このライラセミナーは、まさに今年度ＲＩテーマ「Rotary brings hope」にもっともふさわしく、ロータリーが、青年達に提供できる最高のプログラムであると思います。

いよいよ来年は、10周年であります。地元クラブとして、その間、まさに縁の下の力持ちとしてライラをささえて下さった小豆島ロータリークラブ及び会員の方々に心からの敬意と感謝の拍手をおくるものであります。

有難うございました。又明年お会いすることを楽しみにいたしております。

第９回ＲＹＬＡセミナーにあたって

ＲＩ第268 地区ＲＹＬＡ顧問

今　井　鎮　雄

今井でございます。私がまだ若い頃に、このキャンプサイトを見つけてまいりまして、戦争直後でありますから、キャンプするなんてことは大変なことでしたけれども、ぜひ青少年の諸君達とキャンプをしたい。

私は神戸に住んでおりますけれども、神戸、兵庫県をあちこち捜しましたけど、いい所がないんです。40年も昔でしたからね。山もありましたし、まだ誰もいない所もたくさんあったんです。しかし、ずるずるとそれを捜して本当にいい所ないだろうか。今日は、諸君達はリーダーですから、自分で考えてみて下さい。一体、キャンプをするのにはどういう所がいいのかと考えてみる。これも一つここでやっている理由なんですね。そうした時に、やってる間中、だれにも妨げられないで自然とふれる場所がないだろうか。ここでやってたら隣りの方から暴走族がとんで来るようでは、 落ちついてキャンプもできないじゃないか。ということになったら、そこはあまり具合いがよくない。あるいはそこにあったら、虫もよう出てきて、蚊も出てきて、そういうふうになっても具合いが悪い。

自然と人間とがふれあう場所、どこかないだろうかと捜した時に、先ほどの話ではありませんけど、ここにやってまいりました。この島がまだ40年前ですから、何もない所にまいりましたらね、上陸用舟艇と言いまして、昔戦争が初まった時にそこから船が出て、敵に攻めていくという、そのような船がここに置いてあるんですね。そういう現場でありました。

そういうことで、青年諸君達と仕事をしたいと思ってやって来たことを思い出しております。今日、私はみなさん方と、もしお話しできるならいろんなことを考えたい。ということは、先ほどからガバナーの先生方がいろいろお話しをしてくださって、みなさ

ん方への大変大きな期待があります。20世紀の中ではみなさん方も、ずいぶん苦しんでおられるだろう。そして、何を自分でもって選んでよいかわからないということもあるかもしれません。不安の時代と言われるような時代の中を生きている私達は、私達もどうしていいかわからないということもあるんです。また同時に、私達が預かっている青少年のことを考えた時に、あの人達をどんな形に育てたらよいかという夢を持つということにも、むつかしいことがあるかもしれません。しかし、そんな中で私達は真剣に、次の時代をどんなものにするかということについての考えをまともにぶつかって考えていきたいと願ってます。先ほどから何度も、リーダーはいないんだと申しました。

しかし、問題は提起しよう。同時に諸君達が持っている問題を、本当に真剣に一緒に考える。あるいは、私達自身が、ある種の目的をここでもって見い出して、あるいはこのことのためにどうしたらいいかっていう考える場所にしてもらいたいと、このように考えながら、この小さな会を9年間続けてきたということであります。ですから、ここでもって集まった諸君達は、ここでもって一回の講習を受けているんではない。ここで一つの出会いの場を持ってるんだ。それは、何も私とあなた方が出会うわけではない。ロータリアンとあなた方が出会うだけではない。あなた方とお隣りのお友達同志の間で出会いがある。そして、お隣りの友達が、もしも高知でこういう仕事をしているんだ。香川県でこういう仕事をしてるんだ。ということがわかって、お互い連絡しあって励ましあってくれたらそれもいいじゃないか。あるいは篠山から来ている人もいるでしようし、伯馬から来ている人もいるでしようし、淡路島から来ている人もいるでしようし、その人達が、お互いの状況を交換しあいながら、実は私達はどうして生きたらよいのかということを考えることに、真剣にならなくちゃいけないんじゃないか。

私達、今21世紀を迎える時に一番大事なことは、真剣にどんな視野を持って考えるかということです。先ほどからロータリーが松野先生のお話にもありましたように、160ケ国に広がってきている。私達は、兵庫県のロータリーとか、あるいは四国のロータリーとか言われないんです。268地区とか、267地区のロータリーとこう言います。この番号はどこについているかというと、世界中についているんです。世界中についてますから、アメリカのように大きな所にはたくさんあります。あそこは、500何地区ですね。500何地区がたくさんあるんですね。ところが私、昔ベトナムに行きました。ベトナムは今はロータリーはないんですけども、かつて最後になりました時、私が応援にまいりました時に、ベトナムの地区はベトナムとカンボジアとラオスとマレーシアとタイとが一緒になって、それが一地区なんです。ちようど四国四県の一地区、兵庫県の一地区と同じであります。それは、クラブの数であります。みんな自分の国を代表するのでなくて、世界のそれぞれの地域に属している人が、それぞれの番号で呼ばれながら、私達は

地域主義ではなくて世界がどうなるかということを考えていくことのために、それぞれ与えられた役割を持って、その地域に住んでるんだということです。

今、貿易摩擦が大変になってきた。円ドルレートがどうなるかわからない。世界は大変な激動期にあるということは、さきほどからたびたび言われることですね。そういう激動期にある時に、一体何を私達はどうして考えたらいいのかという時に、経済の世界の中の一つの大きな問題は、経済は日本だけで考えることはできない。

牛肉の問題とオレンジと、なんとかカバーしようやと一生懸命考えることは、なるほど日本の状況の中では大変だけども、世界の状況から考えたら、オレンジ、牛肉は輸入しないけれども、私達はカラーテレビだけは買ってもらわなくちゃならないというような言い方はできなくなってきた。カラーテレビも買ってもらう代わりに、時には牛肉も買ってあげなければならないという、世界を一つの舞台にして、世界経済が動かなければならない時代になってきたというふうに言われております。ある人が、こんなことを言いました。三菱総合研究所という大きな経済研究所がありまして、世界の状況を分析しながら、どういうことをしたら世界全体の人達が豊かになっていくだろうかということを考えようと、一生懸命考えている。その結果ね、三菱総合研究所の中島さんという人が、あるプロジェクトを12出しました。世界大の視野で考えるプロジェクトだ。全部言うようなわけにはいきませんけど、「ヒマラヤの雪を全部解かして、そこで水力発電をしたならば、その電気というものは、世界中をカバーすることができるだろう。」

今私達が使っている化石燃料、いわゆる石油は、いろんな計算の仕方もありますし、これからまだ埋蔵されているものを発見することもあるかもしれないし、ある時には、もう少し科学技術が進んで、もっと深い所から石油を掘り出すことができて、海の中から石油を掘り出すことができるようになったらわかりませんけど、今の状況から言うとだいたい2,300年頃には石油が失くなる。化石燃料という石油は失くなってしまう。その後、いったい燃料、エネルギーはどうするんだというようなことをいろいろ考えていくと大変なことです。その時にその中島さんはね、「ヒマラヤの雪を解かして、そこで水力発電機を作ろうじゃないか。マレー半島に50万トンのタンカーが通るような道を作るならば、東と西との交流が自由にできるじゃないか。砂漠を全部あそこに灌漑用水を通して、そこを緑色にするならば、私達はもっと多くの食糧を売ることができるじゃないか。こういうようなことは、プロジェクトを出して、それに要するお金が約2,000億ドルだっていうんです。20年間に2,000億ドル使ったら、そういうことがみんなできますよと計算しました。2,000億ドルって言ったら、まるでもって夢のような金額なんですが、もう一つ違った視点から言うと、それは世界中が軍備に使っている一年間のお金は2,000億ドルです。言い変えたら、世界中の国が、軍備に使っているお金の20分の1

づつ毎年出したならば、20年間に2,000億ドルのことができて、しかもそのような大きな世界大のプロジェクトができ、そのことによって先ほどの話じゃないけど、東と西の格差が失くなるし、東西の問題もみんな失くなるだろうから、それやろうじゃないか。そして、地球をもっと人間に住みやすいような場所を作ろうじゃないかと、ポンとうちあげたんです。そしたらね、そのことを聞いた時に関心を持ったのは、世界のいろんな国のそういうことを研究している機関だったそうです。「中島さん、あんたの話、もういっぺん聞かせてくれ。大変壮大な話であるけれどもできない話じゃなさそうだから、一つ聞かせてくれ。」と言って、みんなが聞きにきたというんです。講演も頼みにきたというんです。ところがね、日本の大臣にその話をしたら、日本の大臣がなんて言ったか。「それで中島さん、日本いくら儲かるんですか？」そして、その後のコメントにね、そのことを報告した人が、「なんと貧しい発想ですね。日本の大臣がそんな貧しい発想をしている間は、世界のために役に立つ日本ということはなかなかできませんよ。」でも、日本の大臣達は、おそらく、日本の国のことばかり視野を考えていると、焦点をあわせていると、そういうことになったのかもしれない。だから、私はその日本の大臣がもっと違った大きな視野を持てるようにならなくちゃいけないと思いますが、その後にこんなことがついています。そのことを聞いた時、土光さんだとか、斉藤さんだとかいうような日本の一流の実業家の人達は、「おもしろい。やろうじゃないか。」と言ったというんです。中島さんはね、あえてドンキホーテと言われても、そのようなことをやることによって私達や世界の人と手をつないで、新しい21世紀に世界が豊かになる方法が考えられないかどうか、もう一ぺんやってみたい。私のお願いしたいことは、ここから帰ってくる時に、諸君達の視野を変えていただきたい。21世紀に生きる時の青年として、あるいはもう大人として、どんな視野を持って私達の世界をもういっぺんに持ってあなた方は行くのかということを私は問いたいんです。なるほど、日本は一生懸命努力してきた。私は戦争に行ってきたし、戦争を苦労しながら育ててきました。日本をりっぱにするため努力してまいりました。みなさんの前におられる先輩は、日本を立派にするため努力してまいりました。そして今や日本は、世界で最も豊かであり、最も秩序のある、最も安全な若王子さんが解放されましたけれども、おそらく、あんな事件が日本だったら、たちどころに見つかるでしょう。警察があり、治安がいき届いているから、そして考えた時に、私達は日本を最も豊かなものにし、最も治安の優れたものにし、最も知的レベルの高いものに育ててまいりました。しかし、これからは私達は世界と共に最も豊かな世界、最も治安のいい、最も平和なです。そういう世界にするためには、どんな視野を持たなきゃならないか。ロータリーはそのことを願いながら、いろんなことをしております。例えば、ポリオプラスというようなプロジェクトが今、出発致しまし

た。それは、世界中の中でポリオ小児まひですね。小児まひとか、はしかとか、百日ぜきというようなものは、あるビールスによって病気になるのだから、ビールスを全部つぶしたらちょうど疱瘡、種痘のようにそのようなことで、子供達は救われるだろう。そしたら世界中の子供達から、小児まひから世界中の子供達を守るためにみんなでワクチンを作って世界中に配ろうじゃないか。世界のロータリアンは、今そのような形をしてここにおられるロータリアンの人達は、毎年お金を出してワクチンを買って第三世界に送って、第三世界のロータリーの人達が、自分の子供達に渡して、早く世界中からそのようなビールスによる子供の病気をなくそうと努力しているのもその一つであります。しかし、それは具体的な例、あるいは先ほど奨学生の問題が出ました。今、世界中で最も大きい奨学生の団体はロータリーであります。世界中で毎日千何百人の青年達が世界中のAの国からBの国へ、Bの国からCの国に、Dの国からAの国へというふうに留学生を一年間往復の旅費も、生活費も、そして勉強する費用も全部ロータリーが出して、そこに派遣しております。私達の 268 地区は毎年15〜16人行ってんでしょ。今年は何人ですかね。10人くらいですね。そういうふうな人達がみんな行ってます。

その人達が世界的な視野を持って、世界の人達と友情をもって、そのような世界を作ってほしいと願います。みなさんどうですか。ここに来られるみなさん方、自分のお金を払った人少ないと思います。各ロータリーがみなさん方の全部、ここに住んでもらう、ここで生活してもらう費用は全部出していただいたと思います。そこまでして私達は、みなさん方に何をお願いするのか。私は、どうもロータリーあむないなあ。思っておられる方がおられるでしょう。私達の注文はたった一つ。

あなた方が新しい世界を作るために、あなた方が日頃まじわっている青少年に、どのような幻と夢を与えるリーダーになってくれますか。もしも、そのような人達が育ってくださるならば、私達の次の時代を本当に世界が一つになるような世界になれるだろう。私達ロータリアンは、そのことを願って、今日ここに来て、みなさんと一緒にこうして交わっていきたいと願っているんです。どうぞ一つこの時間を、あなた方の若い人生の中の大事な一コマにしていただきたい。先ほどからいわれるように、ここには何にも規則をもうけない。なぜかって、あなた方がリーダーなんです。判断もあなた方がするんです。あらゆるものを私達はこうしてもらったら困る。こうしてくれなきゃいけません。朝は何時に起きて下さいなんて言いません。でも朝9時から授業が始まるのなら、授業の前に出てきて並んでいるのが、人間としての礼儀でしょうね。わざわざ東京からきてくださる先生のために、ちゃんとおられるのが人間としての礼儀だろう。人間としての礼儀ということを知っているのは、みなさんなんだから私達が朝9時5分前からここに並んで下さいという必要ないんですね。これは迷惑になるか、ならないか。いやこうだ

やってくれと言わなくたって、みなさん自分で決める。そのようなかっこうの中であなた方の夢と、これからの時代にかける一つの意識としっかり持って帰っていただくために、ここに、おられる方々はね、ご存知ですか。お仕事をされているみんな会社の社長さん達はね、頭の中で四月一日、二日の忙しい時に自分の店がどうなるかと思ってらっしゃる方もいるかもしれない。でもその人達が、しばらく、その一年間の内の最初のところを犠牲にして、私の他にも見てた人がいるかもしれません。来た中で、4月1日本当ならみんなを集めて辞令を渡すんです。「なんとかに命ずる」というのね。その辞令を渡すことができないもんだから、道のところで「はい、あんた今年もがんばってよ。」それよりも会社で辞令を渡すよりも、今諸君とこう話し合ってね、そして本当に一緒に夢をもとうや、ぼくらが生きる世界を本当にいいものにするため夢もとうや、ごくろうさんだけど一緒に力を合わせてやろうや。

このことを真正面にぶつかってゆきたいため、私達ロータリアンも来てるんです。私達はこうして3日間、4日間を私達にも実りのあるものにして下さい。

来てよかったなあ。あんな青年達を見つけた。その喜びをもって帰れるようにして頂きたい。しばらくの時を、どうぞ大事に考えながらやっていただきたいということをお願いしたい。どうもありがとうございました。

ディーンより

第9回ライラセミナー　ディーン

江　藤　一　明

第9回ＲＹＬＡセミナーを振り返り感じたことを申し述べて見たいと思います。

青少年と共に

ロータリーでは青少年活動奉仕には青少年と共にということが強く要求されています。今回のライラーセミナーではロータリアンの皆様はＡＡ′ ＢＢ′ ＣＣ′ ＤＤ′の各キャビンを分担されて受講者の諸君と共に語り心を拓いて話し合い一緒になって学び合っていただきました。

就中 267 地区松野ガバナー御夫妻、梶浦パストガバナー、牟礼パストガバナー、268 地区辻パストガバナー、小松島ＲＣ杉山ロータリアンは３泊４日の全日程、全行事を最後まで青少年と共に過ごされたことは特筆すべきことである。

テーマと講義について

今回のテーマーと講師の選定については、ハイレベルとは知識か、感動かと仲々議論もあったが、結局見つめようというメーンテーマに落ちついた。

昨年のメーンテーマは"現在から未来へ"であった。講師とテーマは

第１日　日本、世界の食料、農業問題とバイオテクノロジー神戸大学山本教授

第２日　転換期の地域社会

—国際化、情報化、活性化—　　甲南大学　高寄教授

第３日　高令化とこれからの社会

267 地区Ｐ.Ｇ. 森　滋郎先生

そして今回は

第１日　自己を見つめる　もう１人の自分の発見

南無の会会長　松原泰道師

第２日　心の角度を変えて日本を見る

—町作りは　人作り—

日本ふるさと塾主宰　　萩原茂裕氏

第３日　宇宙的規模、地球的規模より見た21世紀の世界の動き

東京外国語大学　　奈良教授

松原先生は81才の御高令を感じさせぬ若々しさで難解な佛語を平易に判り易く心の問題を説き感動を与え、萩原、奈良先生は３時間を情熱溢れる熱弁で聴者の心を揺り動かし、深い感銘を我々は受けた。

キャビンタイム

ガバナー、パストガバナー、ロータリアン、カウンセラー、受講者一体となり心を拓いた打ち解けた対話は青少年リーダー達に強い意識が出来たことを喜びたい。

キャンプファイヤー

ここ２、３年は各キャビンのスタンツがなかったが、今回は直前に親睦と融合の強化を目的として取入れることを提言したが、流石にリーダーの集団丈あって練習しなくとも立派にスタンツを取り入れ親睦の輪を深め広げ、ライラー独特のムードのあるキャンプファイヤーに一同感激した。

例年の如くディーンからテーマを出す予定であったが、バズはバズらしくやり、その中からおのずからテーマーは生ずる。それに基づき討論するというフォーラム型式を篠原先生から御提言があり、これを取り入れて行った。

記念植樹

今回も小豆島ＲＣの大変な御好意によりオリーブの大樹を、各ＡＡ′ＢＢ′ＣＣ′ＤＤ′班毎に植樹して４月５日午後１時30分３泊４日の第９回ＲＹＬＡセミナー終った。

センターの桜も始めは２分咲き位であったが、余島を去る時には満開寸前となりＲＹＬＡの皆さんさようならと云ってくれている様であった。一同無言の桜に手を振り顔を振り返りして別れを告げた。

第９回ＲＹＬＡセミナーが受講生にやる気を与え、

人と出合い　神と交わり　愛の灯の　燃えるところ

必ずやこの灯は兵庫、四国四県の各地に於いて燃え続けるであろうことを信じています。

最後に谷口 267 地区青少年委員長さんには、このライラーの立案計画交渉実施と全てに亘り心血をそそいでの御苦労に対しては只々感謝の他御座居ません。有難うございました。

両地区ガバナー、パストガバナーＲＹＬＡ運営委員、カウンセラー、参加ロータリアンのライラーについての御理解御熱意の賜として終了することが出来ました。心から厚く御礼を申し上げます。

ご　あ　い　さ　つ

第９回ライラ運営委員長

谷　口　修　平

今回のライラについて、最初に考えたこと、又、終始考え続けたことは、どうすれば若い人達に感動を喚び起すことが出来るのか、そしてその感動を思索に迄拡げてもらうことが出来るのだろうかと言うことでありました。

遠くギリシャの昔から、年配者はその時代の若者の将来を危惧し、慨嘆する習いがあり、又それは多くの場合、特に日本について言えば、杞憂に過ぎぬとも言われています。只、余りにも情報過多の現代では、若者のみならず、私ども年配の者にとっても、真実を見出すこと、物事の実相・実態を究めることは大変難かしく、ましてや本物を期する自己研讃は、より一層困難な時代であると申せましょう。

私自身のことで恐縮なのですが、ここ数年にしてやっと、このような人をこそ本物というべきではないのかと思う方々と邂逅することを得、世事万般や生きざま等、それぞれに御教示を賜わることが叶い、大変嬉しく、人生の有難さをしみじみとかみ締めるようになりました。そしてそれは同時に、自らの今迄の努力の集積とでも言ったらよいのでしょうか、「自分の物差し」の大小・良否に応じて、人との交りで得るものも、又世事万般を計り対応することも決るのだと言うことの発見でありました。

今回のライラに参加して頂いた若い方々が、三人の講師のお話を通して、常に真実を求め続ける努力 ― 大変難かしいことではありますが ― そのような生活態度を生涯自らに課して頂く、一時期は中断しても、又思い出して下さる、そんなことになればと念じています。

短綆不可汲深井　　（准　南　子）

「短かい釣瓶の紐では深い井戸の水を汲むことは出来ない。転じて短かい物差しでは深井に湛えられたような真理を解することが出来ない。だから自分の固有の物差しを

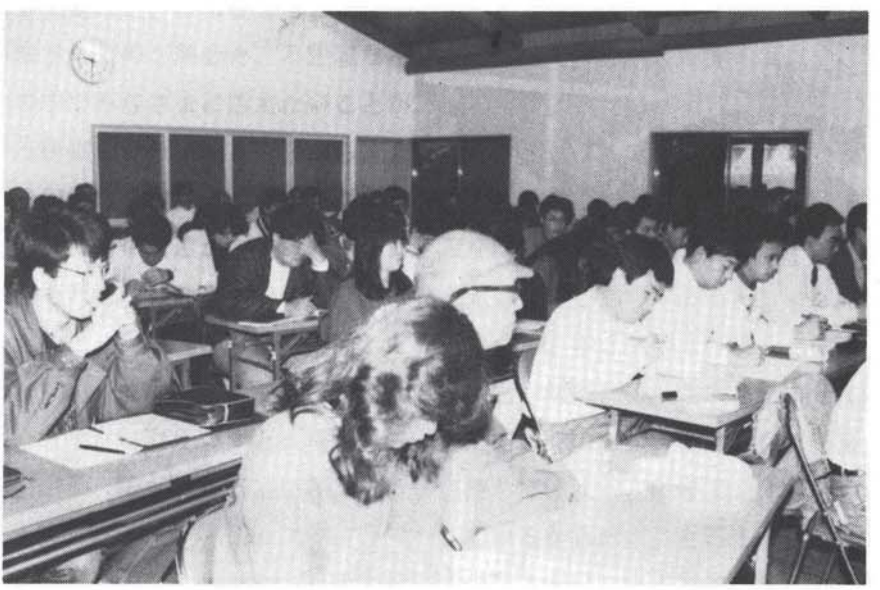
長く良くするよう勉学努力しよう。との意」私の好きな格言をお賜わりして御挨拶と致します。

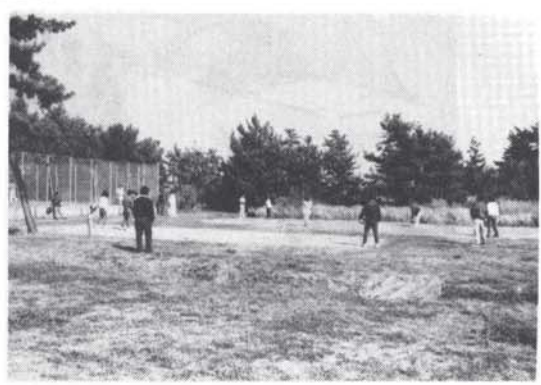
〈セミナースケジュール〉

	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日
8				
9		講　演 自己を見つめる 松原　泰道氏	講　演 日本を見つめる 萩原　茂裕氏	講　演 世界を見つめる 奈良　毅氏
10				
11				
12		昼　食	昼　食	昼　食
1		思索の時間	思索の時間	記念植樹 離　島
2		レクリエーション (ヨット・テニス等)	バズセッション	
3	開　校　式 オリエンテーション			
4				
5				
6	夕　食 (オープニングパーティ)	夕　食	夕　食	
7		キャンプファイアー 親睦の夕	フォーラム	
8	キャビンタイム			
9				
10				

講　演

自己を見つめる
日本を見つめる
世界を見つめる





もう一人の自分の発見

南無の会会長

松　原　泰　道

私は、この小豆島に初めてまいりまして、この島を地図の上で見まして「あずき島」と呼んでおりまして、ぜひ一度と思い、船を降りた時に、二十四の瞳を見て、はっといろいろ思い出しました。そういう所で、初めてお目にかかるのでございますが、こういう集いができるのは、さまざまな縁が熟しませんとできないものなのですね。主催者のさまざまな企画と、みなさま方のご熱心、そういうものが集まっての出会いでございます。みなさま方のご熱心と、不思議な不思議な出会いにお礼を申し上げます。

笑いの中でみなさまに訴えたいことがあるんです。今、情報漬けになっております。こういう研修という情報も一面から言えば過剰だと思うんですね。ところが寝てしまったら、後何も残らないような情報が多すぎるんじゃないでしょうか。それは、どこにあるのか。今、若い人達が、生命の尊さ、自殺を防止したいということで一生懸命でありますが、それも情報のさ中の時点で、どこか欠けているものがあるんじゃないかと、ふと思ったのは、私は孫と一緒に生活しておりますが、中３、中２、小５、そろそろ自殺希望の年であります。そこで、できるだけ子供と一緒に、めったにありませんが、おふろに入ります。はだかですと、非常に話が進んでいくのです。私は、孫に命を大事にしてもらいたいと思って、非常にシリアスな気持ちで、「君、生きるとはどういうことだ。」と聞いたら、いとも簡単に、「息をしているからだ。」と答えました。子供の単純な教えの中から、私は教わったんです。「生きるとは、息をしている。」逆も成り立つ。アクセントは違うけれども、息と生き、長生きということは、貝原益軒によれば、やはり、長い呼吸をすることだと言われています。なるほど意味はある。「どこで呼吸をしているんだ。」と聞いたら、「決まっているじゃないか、鼻と口だよ。」「僕、それだけでは生きておれないんだよ。鼻と口だけの呼吸では生きておれないんだよ。」

孫、習ったんでしようが、「知らない。」と言う。そこで、私はこういうことは、体験で教えるのがいいと思って、幸い湯舟が静かだから、「そうっと体をつけてごらん、体をつけたら、今湯につかっている君の体、足や手の所を見てごらん。たくさんのあわが出てるだろう？」「うん、出てる、出てる。」「それだよ、それを皮膚呼吸っていうんだ。皮膚呼吸と、鼻と口の呼吸となって、君の言う完全に息が出来て、生きてられるんだ。」この皮膚呼吸は、みなさんご承知のように、わずか10％ですね。そして、鼻としての呼吸が90％なんです。でも、その10％の呼吸ができなかったら、人間は死んでしまいます。

何年前でありましたか、どこかの農村の青年が鬼になって、身体中かなり密度の濃い塗料を塗って、裸になって舞台に出た。その真に迫ったメイキャップに拍手喝采、終わるか終わらないうちに、悶死しているんですね。その診断結果が、呼吸困難による窒息死とあったという。現代人、こういうポカを時々やるのです。こと生命に関しますと、笑い話ではすまない。だから、知識もやっぱりそうじゃないでしようか。情報というのも。

戦前に天童へ講演にまいりまして、当時ふたみ館、今はホテルになっております。戦前でありますから、そんなりっぱなホテルはないのですが、木造の新築の旅館でありました。２月の頃で、雪が降りしきる中です。朝起きまして、今のようにバス、トイレつきということはありませんから、部屋の一隅にある洗面所で、洗面を終えてもどってきますと、真新しい廊下に白い粉末が見えます。むこうから来るきれいな女中さんに「何かこぼれてますよ。塩か砂糖でしよう。」その女中さんがふと見て、ていねいにおじぎをして、「ありがとうございますが、塩でも砂糖でもございません。」「何です？」「吹雪でございます。」サッシはないんですが、それなりに新しい障子ガラスが立てている中で、雪のまいこむ余地はないはずなんです。女中さんが重ねて、「私が子供の頃から親に言われておりました。真心と吹雪は、どのように閉ざしても、どこからか入ってくるものでございます。」当時、なんとも思わなかったのですが、この頃情報過度の時代になりますと、ふっとこの事を思い出すんですね。もちろん非合理な話かもしれませんが、この非合理ということも後にお話申し上げますけれども、私達は非合理ということを簡単にかたづけているのです。しかし、一度は非合理というものを的確に学びませんと、合理的な生活もできないのではないだろうか。毛穴から入る情報を勉強しようではありませんか。それは、目、鼻等の五感を越えた体験であり、しかし、その毛穴から入る情報徴収の体験がひるがえって、五感の認識というものを、一段と深めていくものなんだ。こういうことになるわけです。この命を粗末にするということも、根本的に言いますと、今日のテーマであります「自己を見つめる」という、そういう観念的な知

識じゃなしに、毛穴から入る認識というもの、これを怠っているんです。基本を怠っているんです。私は時間が惜しいものでありますから、テレビはあまり見ません。ニュースは見ておりますけど、演劇物はあまり見ませんので、芸能人の名前は、ほとんど知らないのです。この1～2年、いろいろな企画がありまして、若い芸能人、特に若い女性との対談が続きますので、私も非常に若返ってきたのですが、名前を知りませんので、全く時代遅れです。我々、化石時代に入るのでありましようが、私は化石を越えて、「かんおけ人類だ。」と呼んだ方がいいのではないか。今日は、かんおけから出てまいりました。ですから、アグネス・チャンさんあたりは知っておりましたけれど、ジョン・シェパードさんとの対談と電話で言われてびっくりしてしまいました。「あの2匹の犬と対談するんですか？」と言ったもんですから、むこうがびっくりしてしまってね。「なんです。犬って？」「ジョン・シェパード」「いや、それは犬じゃないんです。」大変失礼で、ご本人にお詫びをしたんでありますけれども。

昨年、岡田有希子さんという10代の若いアイドル歌手が、ビルから飛び降りたんですね。亡くなりましたね。あの時、東京あたりは非常に大変だったんです。それからそれへと自殺が続きまして、世界の記録を作った。学者によりますと、これを、有名な人が亡くなって、後追い心中していくのを、「ウェルテル現象」とか言ってるそうですね。お読みになったと思いますが、ゲーテの「若きウェルテルの悩み」私達、学生の時よく読んだものですが、その後、ドイツの若い学生が、異常に後を追って死んだ。ウェルテル現象だそうですがね。ウェルテルと岡田有希子さんと較べるのは、ちょっとお気の毒です。ゲーテの方がね。そんなことつい忘れておりまして、数日後タクシーでそこを通りました。現場でしたんですが、非常に渋滞しております。異常な渋滞なので、運転手さんに聞いたら、「このビルですよ。」と言うので、「このりっぱなビルが売り物に出たのか。」と言いますと、「困るねえ。勘の悪いお客さんだ。」と岡田有希子さんのファンなんでしようね。「この窓から飛び降りたんですよ。」「だれが？」「だれがって困るんだよね。ほれ、ほれ。」運転手さんも興奮して、名前を忘れているくらいです。「どうして人が集まるんだね。」と見たら、その飛び降りた現場だそうですが、美しいきれいな花が、山のように積まれているんです。ファンが来て悲しんで、泣きの涙で、その一輪の花を置いていく。それを野次馬が見ているんです。交通渋滞で、おまわりさんが出ている。えらいもんですね。18才で亡くなって、あれだけの花があるんですよ。私、うらやましくなりました。私がビルから飛び降りたら、みなさん花持って、東京まで来てくれますか。おそらくゼロでしようね。うーん、おしいなあ。「どういう原因なんだろう。」私は口走って、「失恋だろうか。」とこう言ったら、運転手が、「違います。」「なんだ？」「シツコイです。」とこう言うんです。聞いたこともない言葉です。

「シツレンじゃないのか。」「ええ、お客さん、シツレンというのは、二人が恋愛が成りたってどちらかが破れたのがシツレンです。」運転手さん一流の恋愛哲学です。「君の言うシツコイは？」「片方が一生懸命でありましたが、片方がそれほどじゃなかった。」「そりゃ君、片思いって言うんだろう？」「いいえ、シツコイです。」どこまでも、しつこいんですね。しかし、この自殺というのは、人間が成長していくうえにおいて通過しなければならない通過駅なんです。もし、みなさんの中で、今まで一度も自殺を考えたことがないという方があったら、私はむしろ異常だと思いますよ。真剣に生きていけば、いきづまりを感じるんです。問題は、通過駅だということです。通過駅だから、通過しなければいけないけれども、それまでのエネルギーが蓄えてありませんと、そこで不時停車してダウンということになるんです。一休さんでも自殺をはかったんです。意外でしょう。一休さんは、シツコイではありませんので、親以上に慕っていた恩師が亡くなった。それを悲しんで、琵琶湖へ身を投げようとする。それを助けたのが、お母さんだったんですね。一休さんでもということになれば、私達も当然だと思うでありましょうが、私もシツコイではありませんが、自殺を考えたことがあります。その追加駅を無事に乗り越えていく。そこには、本当の基本的な勉強をしておりませんと、ダウンしてしまうんですね。そこで、今日お手元のはさみましたことについて、お話を進めてみることに致します。

みるということを、3通りに分けてみました。

初めは、見の目であります。常識でありますが、下に肉眼と書いてありますが、この古代インドの思想では、見るということは、私達が現在言っているような、常識でこの目で見るという意味じゃありません。古代インドで「見る」というのは、きわめて哲学的で、知る、学ぶ、考える、哲学する。こういう深い意味を持っていたのですね。そこで「正見」ということが仏教用語でございます。正しく見、正しく知り、正しく考え、正しく哲学をしていく。この正しいという意味を説明しないといけませんが、これも常識的ではなくて、仏教思想では正しいということは、物事の因果関係を言うわけですね。原因があって、必らず結果があるんだ。この因果関係に沿うのを正しいといい、因果関係に背くのを過ちだと言っております。神によって作られたのではないから、すべてが原因があって結果が生まれてくる。なぜこういう結果になったのか。こういう原因は、何を招来することであろうかと。こういうことを正しく見、考えていくのが、正見ということですね。そういう意味で会うことを書いてありますが、会うことを「相見」と言っておるんです。相い見る。これは、弾の方では、弟子と師匠とが一体となる出会いを「相見」と言っております。よく見つめるという言葉がございますね。見つめるということは、二人が、特に愛人同志が、目と目を合わせる、見つめるだけ。これも一つの愛

の姿でありましようが、私はもう一つ高い愛人の目があっていいと思うんです。それはお互いに見つめるだけではなくて、お互い共通してより高い目標を仰いでみる。共同の目標を仰いでみる。それを考え、学んでいくという。こういう時代になりますとね、人間に失望する人が多いんです。そりゃそうでしよう。後から後からとんでもない事故が起こりますと。しかし、今こそ私達は、人間が人間を信用しないといけないと思うんですよ。なぜなら、人間が本当に人間として救われていくのは、オールマイティの力ではなくして、人間が人間であるということを自覚することによって、初めて救われていくはずでしよう。人間を救うのも、人間の自覚以外にないんです。ですから、どこまでも私達は人間を信じていきましよう。うわべの現象だけで、本質を見誤まってはならないと存じます。

そこで、イの「まのあたり先師をみる」有名なお話でありますが、道元が中国へ弾を求めていきました。その時に、良き師の如浄という験僧に会うんですが、この良き師に巡り会ったのが、道元が26才の時なんですね。みなさん、ご自分の年を引き合わせてみて下さい。まのあたり先師をみる。その先師如浄も初めて道元をみる。こういうすばらしい言葉で、道元は二人の出会いを書いております。私は本当に良き師に出会った。その良き師も私に出会ったという。千両役者同志の出会いということでありましよう。この自分というものを、私達は見るということになりますと、どうしても自分の顔を自分で見るわけにはいきません。どうも私の鼻の頭が赤くなっているということは、鏡を見なければ見ることができないんです。なんでもないことですけどね。私は深い思いをこめて申します。鏡を見ることは、真実に自分に出会うことなんです。鏡を見なければ、自分に会うことはできません。鏡を見ると言うけれど、私達はガラスを見るのが目的じゃなくて、鏡に写る自分の姿を見るのが最高の目的でしよう。だから鏡を見るということは、ガラスを見るのではなくて、自分を見つめることであり、本当に自分に出会うことなんです。鏡を見ることは、自分を見る。この頃、若い男の方も化粧をするそうですから、鏡をご覧になると思いますが、よそへ行く時だけじゃないんですね。若い女性は人に会う時に、お化粧をなさるために鏡をご覧になる。みなさん、今朝、鏡をご覧になった若い方は、私に会うために鏡をご覧いただいたこととお礼を申しあげておきますけど、そういう時だけじゃなくて、自分の感情の激した時に、いてもたってもいられない時に、ちょっと鏡をご覧いただけたら、私はすばらしいと思うんです。思索の時間に、よく場所によって鏡と見会わせるのですが、鏡をじーと見ておりますと、自分が見えてまいりますね。悲しい時、腹の立つ時見てまいりますと、自分で気がついてふっとにっこりするんです。別にスペアのいい顔を持っているわけじゃありませんが、その好ましくない感情の泣いたり、怒ったりする。これを自我、エゴと言いますね。今日、私達は

自分だと言いますと、このエゴを自分だと間違えて言ってるんです。泣いたり笑ったり、本能のまにまに動いたりしていく。そういう瞬間の安定をしていない変化を続けていく、それを自分だと思いこんでいるから、話が違ってくるのです。この変わりずめに変わっていく。泣いたり、笑ったり、怒ったりする。変わりずめに変わっていく自我の現象を、「おまえ、そのへんで怒るのやめとけ、かっこわるいぞ。」と、そう言って、自分を引き戻してくれるもう一人の自分が出てくるから、この自我の顔が、本来の姿に戻るんです。これを、自己、セルフと申します。自分の中にいるもう一人の自分、感情のまにまに動いている自我のそこに、それをじーと見つめているもう一人の自分に出会うことが、鏡を見ることです。ですから、今では伝説的でありましようが、昔は古事記という日本最古の歴史書がありまして、日本建国の、その時分は神話と言っておりました。天照大御神が、お孫さんのにいみの命に鏡を与えて、「鏡を見ること、我を見るがごとくせよ。」と。日本の古代史学者は、この我は天照大御神、皇祖皇宗だと教えられておりますが、もっと広い宗教考えからいけば、何も皇祖皇宗に変わることはない。私達の鏡を見る。鏡を見ること、我を見るがごとくせよですね。鏡を見たことが、本当に、もう一人の自己に巡り会うことのできるために、鏡を見るんだ。だから、私は鏡を見るということに深い思いをこめて、と申します。

ロの「初秋や見入る鏡に親の顔」俳句という、後に申し上げますが、やはり一つの非合理的な姿であります。

書いてあります村上鬼城、1933年に亡くなりましたホトトギス派の初期の代表作家であります。先年、この人が最後におりました群馬県の高崎で、繁華街を歩いておりましたところ、ふっと家の角にこの句碑を見つけたのです。初秋は季題でありますから訳さなくていいんですが、鏡に写る顔を自分の顔だと若い時は思っていた。ところが、だんだん経ってきますと、鏡に写る親の顔がそこに見えてくるんですね。私が子供の頃に歌ったいい童謡があります。「おうちのぼうやはかわいいな、ほっぺはバラ色母さんに、お話するときゃ父さんに、ほんとにほんとによく似てる。」こういう童謡は、今のコマーシャルソングより、よっぽど品がございますね。どうですか、みなさん、鏡を見てください。そして、遠く離れている親の顔が見えてきたら、まず、これがもう一人の自分に出会うことでありましよう。だから、鏡を見ることが、私が言いたい、えらそうに鏡を見ると言うんだけれども、鏡から見られているのが自分だということになるんですね。鏡を見るということから、鏡に見られているんです。見られているから見るんです。

ハはその鏡を上に持っていきます。南原繁さん、時の吉田総理と激論をかわしました。講和問題で。硬骨の学者でありますが、この南原繁先生は、讃岐にお生まれになった方です。お家が複雑だったんでしようね、お母さんが、ある夜、幼い南原繁さんを背中に

背おってうつむいたまま、ご自分の里に帰っていくんです。母親は泣いているんでありましょうが、背中にいる南原繁さん、そんなことわからない。ただおんぶされて、私も覚えがありますが、空を見ている。そして、「お母さん、お月さまがじーと見ていてくれてるよ。」と言うんですね。お母さんがはっと気がついて、「そうだ。天には見る目、聴く耳があるんだね。」と言う。このやりとりを、南原先生は大人になっても忘れなかったそうです。そして自分を支えた言葉だそうです。お月さまが見ていてくれる。私流に言うならば、お月さまに見られている。そして、大人の言葉で、天には見る目、聴く耳があるんだということになる。ということになると、私達、胸の中が広くなってまいります。この間も、ある女性が身の上相談の手紙をよこされました。よほど、学問のあるお方の手紙で、私は読めなかったんですね。「私は、男にだまされましたので、これから私の生涯をあげて、私はその男に復習致します。」と、こういう字（復習）が書いてあったので、私はわからなくなったんですね。「復習」どういうことかと思ったら、かたきうちのこと（復讐）なんですね。私はこの時、手紙に南原さんの話を書きまして「天には見る目、聴く耳がある。だから、あなたは復讐しようと、人相が悪くなるよりも、復讐は天におまかせなさい。復讐を天におまかせしている間に、あなたは自分のベストを尽くしなさい。」ということを、わかりやすくくだいたのでありますが、この見るが、見るから見られているということがわかりますと、胸幅が広くなってまいりましょう。

そこで、次は同じみるでありますが、観の字でございます。そこに書いてございますが、観察眼ですね。肉眼で見えないものが見えるということでありますが、この観察。科学的な観察はみなさんお手のものでありまして、例えば、ここにマイクがございます。マイクを観察するということになってくると、観察をします松原と観察をされますマイク、つまり主体と客体と相体的に考えて、初めて科学的な観察ができるんです。こういう観察の仕方は、みなさまよく知っていらっしゃるんですが、そこで終わっているから皮膚呼吸ができなくなってくるんで、この皮膚呼吸の観察というものを少し考えてみたい。今申し上げるように肉眼で見えないものが見える。この「ともしびを見れば風あり夜の雪」嵐雪、芭蕉十哲の一人であります。芸術的な鑑賞はしばらくおきまして、今日は自己をみつめるという点での教材で学びたいのです。夜の雪というのは、俳句の季題でございます。ともしびは目に見えるもの、風は目に見えないものですね。風を見ようたって見ることはできないんです。しかし、ともしびが揺れているのを見ると、そこに風があるということがわかります。これを私はこう表現します。目に見えない風のむきは、目に見えるともしびに表現されているんだ。目に見えない真実が、目に見える現象で現われてくる。科学の世界で申し上げたらよくわかるでしょうが、引力というものは

目に見えないものです。しかし、物が上から下に落ちる。この目に見える現象によって、目に見えない引力というものを、私達は観察することができるんですね。このことを唱えておいでになりますと、見えないものが目に見えるもので象徴されているんです。人生論になりますが、私の会によく来る若いママさんがいます。子供から教わったと言う。その人のお姑さんが亡くなって間もなくのこと、子供が幼稚園に行ってたんですね。作品を持って帰ってきて、おばあちゃんに見てもらうから灯をつけてくれ、と言う。そこでお仏間に灯をつけて、若い母親は台所で清掃をしていたら、子供が息せききってやってきて、「お母さん、おばあちゃんがあんなに喜んでいるから、早く見に来て。」と言って、服を引っぱるんだそうです。子供でもおばあちゃんの死んだことはよく知っているのに、おばあちゃんが喜こぶってどういうことと不審に思ったが、とにかく早くおばあちゃんが喜こんでいるから見にこいと言う。母親が部屋へ入っていったら、ふすまをきちんとしめているにもかかわらず、おばあちゃんの前のろうそくの灯がたゆたうんですね。大人の観察で言えば、すきま風でしよう。しかし、その子供にとっては、風で揺らぐんではなくて、おばあちゃんの喜こぶ姿が灯に見えたんですね。若い母親は偉かったと思います。「これ、すきま風よ。」という観察眼でなしに、子供の気持ちになって「本当、おばあちゃん喜こんでくれてありがとう。」と母親も手をあわせたというんですが、ほほえましい話ですね。子供への教育の持っていき方が非常にデリケートなんです。せっかく目ざめかかった敬虔な気持ちを、大人が合意的に抹殺してしまったら、その子供の将来は不幸でしようね。非合理だとわかりながら、そこに目に見えないものが目に見える姿に現われているんだという、こういううなずき方を私達はすっかり忘れてしまっているんです。これは、私は現代人の窓息と申し上げたい。

俳句のことをたびたび申し上げるんですが、俳句というのは、きわめて短い詩でございます。この短いポエムに、さまざまな思想を思い浮かべることができるんです。短歌でもよろしいんですが、俳句は字数が少ないから作りやすいので、みなさんにお勧め申し上げております。そうすると、世の中の見方が変わってくるから。24人ほど入る会場で「俳句を作りなさい。」と申し上げて、それから講演が終わって、聴衆の中を戻って行きますと、一人中年の人が私をつかまえて、「松原さん、俳句を作ったから見てくれ。」と言うんです。「前に俳句を作ったことがあるんですか。」と言うと、初めてだと言う。初めてで、2時間で俳句ができるというのはすばらしい天才か、全くその反対の人かどちらかなんです。「拝見しましよう。」と、私は複雑な気持ちでいただきましたら、プログラムの隅に、悪いけどあんまり上手な字じゃないんです。ボールペンでこう書いてあった。「このがけに登るべからず警視庁」これ俳句になりますか。字数が並んでいるだけなんです。少しも思想がないんです。目に見えないものを、目に見えるも

ので表わそうという気持ちは少しもない。

これいかがですか。「うどん供えて、母よ私もいただきます」ちょっと違いますね。どこが違うんでしょう。それもそのはず、種田山頭火の句なんです。種田山頭火は松山に生まれて、子供の時に母親が家庭の不和で井戸に身を投げて死んだ。その悲惨な姿を見て、子供ながらに感じたんでしょう。私の先輩になりますが、早稲田大学を途中で終わって、新しいリズムの作風に入ります。子供の時に亡くしたお母さん。法名を書いたお位牌を自分の背中に背おって、放浪の旅を続ける。母親の37年の法要の時に、放浪先でいただきました干しうどんをゆでてもらい、お醤油をいただいて、路傍の木かげの下の石の上に、膚身離さずおぶっていたお母さんのお位牌を下ろして、うどんを供えて、般若心経を一回読んで、この句が生まれたんです。死んだ母にうどんを食べてもらえるはずはない。しかし、その非合理というものが、どうしても供えずにおれないんだという非合理な受けとめ方が、転じて多くの人々への奉仕ということになってくるんでしょう。

一昨年でありましたか、毎日新聞に毎年一回、小、中、高校生の若者達に読書を勧めるために、読書コンクールを催しております。自分が読んだ本の感想を作文で募って、優秀作品に皇太子様から賞がさがるという。私は、それを読んでますと今時の若い人達は読書をしないと言いますけれど、コンクールに載っているのを見ますと、みんなすばらしい作品を持っているんですね。小学校の子供さんで、こんな本を読んだのか。私は読書はずいぶん好きでありますが、私が読んでいない本を小学生が読んでいるのを見てびっくりして、本屋さんに頼んで読んで、やっと子供さんに追いつくという、私にとっても読書を進めるいい時なんです。その時に、小学校６年生の女の子で、東京の子ではございません。地方なのです。歳事記を読んでるんです。歳事記というのは、俳句のテキストなんです。俳句の季とか、いろんな俳句の作例を載せてあります。いろいろの歳事記がございます。しかし、俳句を作るような人でなければ名前を知らないような本なんです。それを小学６年生の女の子が読んだんだから、びっくり致しました。

やはり土壌が大切なんですね。親が読書しませんと子供が読書なんかしっこないようです。おやじさんがビールを飲んでテレビを見ながら、子供に「勉強しろ。」て言ったって無理ですよ。お母さんが、俳句を作る。それで、歳事記というものが机の上のどこかにあったんでしょう。小学校６年生の女の子が、それを見てびっくりするんです。歳事記を読んだ感想で、この女の子が「風光る」こんなきれいな言葉があると言います。６年生の子供さんでも、むずかしい論理的な展開をしているんです。風というのは肌で感じる。触覚で感じるもので目に見えないものなんだ。その触覚でしか感じることのできない風というものを、見るという視覚に訴えることによって、触覚で得た以上の大き

な感動が生まれてくるのではありませんか。ここに俳句のよさというのがある。この子供さんあげております。

さっきの風や夜の雪ではありませんが、香を聞く。香は鼻でかぐ。臭覚で訴えるべきものを、聞くという聴覚に転移した時に、それ以上の大きな認識というものが生まれてくるんですね。これを非合理の世界と言います。非合理と不合理は似ておりまして、非常に違います。不合理も非合理も道理に合わないということは本当なんです。非合理というのは、哲学、宗教、芸術的な用語でありまして、非合理な表現以外に表現のしようがないような心理ですね。つまり、合理的な論理では表現のできない別次元の論理というもの。今申し上げました光も風も視覚で訴えているようなこの非合理。そういう認識があって初めて合理的に光とか風とか香とかいう以上に、私達に深い認識が得られてきます。これが五感を越えるものですから、私が言う皮膚呼吸ということになってまいりますね。

ホに千手千眼の観世音菩薩と出ておりますが、この観音さまという仏教の仏さまです。私、時々質問いただきます。キリスト教は神様お一人なのに、なぜ仏教はたくさんの仏さまの名前があるんですか。これは素朴だけれど本当に大事な質問です。キリスト教はご承知のように、オールマイティな創造の主の神様がいるからお一人でいいんです。創造の神があまりたくさんいますと、これはメーカーのけんかになってしまいますから、神様お一人の方がよろしいでしょう。しかし、仏教の場合には、オールマイティな仏さまというのは、全知全能ではないのです。人間が修業して本当の人間になったんです。この本当の人間というのを仏と言っております。神の子じゃないんです。人間の子に生まれた。だから欠点だらけなんです。全知全能ではないんです。だから、全知全能ではない仏さまに「どうぞ宝くじが当たりますように。」とお祈りする方が無理なんです。だから当たらないんですよ。でも特別損害賠償をしないところをみると、全知全能じゃなかったと後で気がつくんでしようけど。おさい銭まるまる損をなさったことになるのです。釈尊の言葉で非常に好きな言葉がございます。「私は人間に生まれて、人間に成長して、人間に仏を得た。」こういうんですね。平凡な人間に生まれて、人間的に成長して、最後に本当の人間になった。この本当の人間になったということをわかりやすい言葉で言えば、弾の方では真人（しんにん）と言っており、浄土系の方でも同じく真人ですけれども、にごってしんじんと言っております。それと、新人類と音が似てきて好ましいようであります。新人類という言葉が問題になっておりますけど、私は新人類というのは別にあるわけじゃなし、石器時代の人達のむしろうらやむ言葉だと思うんですよ。自分は若くありませんからね。

旧人類から、かんおけ人類になりますと、若さがうらやましくなってきてるんであり

ましよう。だから私はうらやましいと思うだけ、まだその人に若さが残っているから結構だと思うんです。新人類の人達は物事を憶せず言うという特長があります。美徳ですね。しかし憶せず言うという美徳のままでおりますと、世の中破綻をきたすわけです。ですから、一度私に申し上げれば、自己否定ということが必要なんです。この自分で何もかもできるんだと思っている、それを否定します。もう一度否定するんです。私、般若心経入門の中に書いておきましたけど、とつレンズを一つで見ますと、物がさかさまに見えます。もう一つとつレンズを重ねますと、元の位置に戻るんです。しかし、二つのレンズ、否定の否定を重ねているのと重ねていないのとでは、見た目は同じでありますが、大変に違ってくるんですね。新人類という気持ちは昔も今もあったものです。昔、尾崎行雄という憲政の神様と言われたすばらしい政治家がいました。安政5年に生まれて、昭和27年に97才で亡くなった。明治23年の第一回の衆議院議員に当選して以来、選挙のたびに当選して議席をまっとうした。亡くなる2年前には落選されたんですが。そういうすばらしい人ですから、自他ともに、第一人者として選んだんでしよう。言うなれば新人類です。この人の歌の中に、「あめつちの中に一人の我と思いたる、若きおのれかな」という歌があるのですが、この天地の中に一人一人の我あり、何事もできていると思ったんでしようが、それがふとまちがいだったということに気がついた。吉川英治さんの同じような句に、「あめつちの中に我あり一人あり」30才代の句であります。この吉川さんの句は尾崎行雄さんのような孤高とか思いあがりというのはない。これはあの人の数寄な運命が、そうさせたんでしようけれど、吉川英治さんの場合は、おれ一人の力で生きているんではなくて、生きるということはどういうことであるか。その生きることへの確認から生まれた言葉が、自分一人の力ではなくて、多くの力で支えられて生きているという。そういう自分を見直した時の驚きの句なんです。だから、新人類と言われている人達も、もう一度、もう一度否定をしておいでになりますと、そこに本当に豊かな人柄ができてると思います。だから、新人類というのは、別に私は気にしておりません。

この間、ある会社に行きましたら、社長ご機嫌が悪いんです。入社試験をした。一人有望な青年がいるので、ぜひ採用したいと思って戸籍を見たら、他に兄弟がいないから東京勤めにしてやらないとかわいそうかなという。本当に思いやりの気持ちで、社長がその青年に、「君、一人っ子なんだね。」と聞いたそうです。社長としてみれば、「はい。」と答えるだろうと思っていたら、そういう答は帰って来ない。「ピンポーン」と答えたそうです。社長はびっくりした。そばの重役を振り返ったら、みんなポーンとした顔をしていた。さかんに憤慨するから、「社長、それはあんたうらやましがってる。あんたも私も若い者の前で思いきったことを言いたいと思っても、なかなかできないけ

ども、今の人はピンポーンと私達にやれないことをやってくれるんだから、うらやましがる必要ないじゃないか。」と言ったら、「でもなあ」と言うんですね。

私自身もある大学の文化祭から、講師に頼まれました。幹事さんが手紙をくれました。悪意でないということはよくわかるんだけれども、ちょっと私のカンにさわったのは、「見識のない松原さんにお願いするのは大変に失礼でございますが。」て言うんですね。頭にきましたよね。見識がないのに、なぜ講師に頼むんだろう。でも、ていねいに書いてあるから悪意はないのだろう。どういう意味かと思ったら、こちらの学問不足でございました。私は、松原さんを一度も見かけたことがなければ、知りあったこともございません。という意味だったのですね。言われてみれば、なるほどそういうことにもなるのかと、いい勉強になりましたけど。

そういう意味で、さまざまに観察していくんです。その観察の仕方が、さっきのように科学的な観察と違ってまいりますことは、主体と客体とが別にならずに一体になることなんですね。そこが芸術の世界です。芸術の世界で花が咲いていれば、私は花を見ますと言うのでは、傑作は生まれないんです。

私がつるを描いていますと言って、そういう相体的な考えがあったら、名作は生まれないんです。岡山の雪舟という絵のうまい人がいました。この人がつるを描くというので、人々が画室をのぞいてみたら、すばらしい伝説であります。のぞいてみたら、画室の中に雪舟はいなかった。あるのはつるだけだった。こういう観察ですね。これを弾の上で、私はつるを描く。つるになりきるということを、こう表現します。つる、つる、つる、つる、つる、つる、つる、つる、つる。相体的な考えが、全部一つにとけこんでしまうんです。これ非合理の世界でしよう。しかし、非合理の世界をといてこないと、合理的な人間が納得のできるようなつるを描くことができない。

私の寺は、ちっぽけな寺でありますが、東京のまんまん中です。家内も私も花好きですので、たまに寺に来た人が心なごむようにと、年間を通して花を絶やさないようにしています。小さな玄関の前には茶花が植えてあるんです。年間いつも何かが咲いているんです。それを見て、きれいだとわかる人とわからない人があって、いきなり土足で飛び込むものですから、家内は悲しんで、ちょうど30cmくらいの木に、「私がここにいます。」と立てたんですね。これのわかる人とわからない人がいます。ご覧いただけましたか。先年、日曜日の「お元気ですか」という高齢者で現役でやっている人を訪問してくれる鈴木健二さんが、やっぱりこれを見まして「いいですねえ。」と言って、特に写真に撮ってくれたんですが、わからない人になりますと、一生懸命のぞいているんです。私がここにいます？　だれもいないじゃないの。これは合理的にはわかるけれど、非合理のものを見ていないから人間関係がうまくいかないんですね。キリスト教で言うなら

ば、バイヤンという非常に貧しい人が道端で仕事をしていると、そこを刑務所から囚人がつながれて出ていくんです。人々は指をさして軽蔑する。ところがバイヤンは、笑うどころか泣くんです。もし、私が神の教えを信ずることがなかったら、あの中に私がいるんだ。今つながれているあの囚人の一人が私なんだ。こういう観察の仕方なんです。ここに非合理の世界が出てきます。これをみなさんや私達の福祉の仕事の上から申し上げていくと、この非合理の体験が非常に大事なんですね。

日本に、こういうすばらしい観察の言葉があります。「子供しかるな、来た道じゃ。年寄り笑うな行く道じゃ。」泥くさいんですが、すばらしい哲理を含んでいるんです。子供をしかっちゃいけないというんじゃないんです。子供だ、おれは大人だという相体的な関係じゃなしに、あの小さい子供の時代が、私にもあったんだという、こういう非合理の認識です。すると子供達のすることは、私が子供の時にしたこと、しないと言うのは忘れているだけのことで、おれが子供の時にしたことを、今子供がして見せてくれているんだ。あれはおれだ。とこう受け止めてくると、小言の言い方が違ってくるんです。完全無欠の親じゃなくて、小言を言う値うちはないけれど、小言を言わなきゃならないんだ。許してくれよといういたみの気持ちが出てくるから相手に通じる。これはこっちへ取っておくべきで、口に出さなくていいんですよ。「おまえのおやじになる値うちはないんだけどね。やむなくおまえのおやじになったからなぐるんだけど、悪く思うなよ、ばか。」これではだめなんですよ。だまって心の中で泣きながらです。例えば、芥川龍之助の「或阿呆の一生」の中で、隆一さんですかね。生まれてきた時に、「俺のようなものを親にして、このみじめな娑婆に生まれてくる阿呆なやつめ。」という有名な言葉があります。このあほうというのは、いわゆるfoolishという意味じゃなしに、いたみの気持ちですね。かわいそうだなあ、すまんなあという、こういう気持ちです。子供しかるな来た道じゃ、それを完全無欠だと思うからトラブルが起きる。よく年寄りが言います。孫に「あんた学校から帰るとすぐに遊びに行きますね、おばあちゃん、すぐに勉強しましたよ。」これ何十分の一の心理かしれません。大部分忘れてるんですよ、おばあちゃん。そこで止めときゃよかったのに、「おばあちゃんはね、学校から帰って来るとすぐに勉強したので、テレビなんか見ませんでしたよ。」と言ったら、孫が吹き出して「や〜い、ばれたばれた、全部うそだ。おばあちゃんの年にテレビなんかあるわけないじゃないか。」全部ダメになるんですね。子供しかるな来た道じゃ。あれは私の世界なんだ。年寄り笑うな行く道じゃ。うちのおばあさんぼけてきたなと思いなさんな。何十年かたったら、あなたがああいう年になるんだということですね。だから、私に言わせれば、自分より年令の下の者を見たら、自分の過去の姿がそこにあり、自分より年令の上の者を見たら、自分の本来の姿がそこにあるんだ。二人称、三人称ではなくて、

すべて第一人称で、私だと受けとめていくところに、すばらしい人生観が生まれてくるんじゃないですか。これ福祉の仕事の上でもそうだと思いますね。

しかし、めいめい一人一人が自分がかわいいということがよくわかりましても、私はここで、もう一度考えてみたい。仮に、ここにAという人がいるとします。私がAに絶大な愛を注ぎ、できるだけ大事にしていきます。けれども考えてみましょう。私がどんなにこの人に奉仕をしてみても、この人が自分を大事にすること以上に、私がこの人を大事にしてあげることは絶対にできないはずでしょう。いくら尽くしてみても、親子の中でもそうですよ。自分がかわいい、自分を大事にしようという本人以上に、私達は手のほどこしようがないんです。すると、そこに思い上がった気持ちも出てまいりません。謙虚な気持ちですね。これだけ尽くしてみても、まだまだ足りないんだという恩にきせることも、押し売りすることもできない。そういう観察。

話を元にもどしますが、仏教にはたくさんの仏さまの名前がありますが、はっきり申しますと、実在の方は釈尊、お釈迦さま一人だけです。後の観音さまも阿彌陀さまも全部実在ではありません。という意味でフィクションです。けれども単なる偶像でもないんです。では、どういうことであろうか。如来と菩薩と違いますが、ひとまとめにして仏教と言っておきましょう。たくさんの観音さまとか、阿彌陀さまとか、お地蔵さまという名前は実在でもない。フィクションでもない。偶像でもない。何か？　釈尊が悟りましたさまざまの悟りの内容、あるいは釈尊がさまざまな修業をしました。その修業の内容を名付けたのが仏の名である。一応、こうおさえていけばよくわかると思います。

例えば、阿彌陀さまというのは、実在でも偶像でもフィクションでもありません。原語はアミターバとかアミタールとか言いまして、永遠の命ということです。ですから、釈尊の悟った永遠の命を簡約しまして阿彌陀仏と言い、その永遠の命を象徴するにふさわしい姿を表したのが、お仏像とか絵です。ですから、偶像でないということがよくおわかりでしょう。観音さまの観は、今申し上げております観察、釈尊がされました観察の修業の深さです。人を見たらみんな自分の延長だと見ていく、あるいは私の姿だ。ここに私はボランティアの精神の一番のもとがあるように受けとめたいんです。あれは私の姿なんだ。その観音さま、音を観るという字が、これまた非合理ですね。音は聴覚で聞くべきものを視覚で訴えているところに、世間の欲求がよくわかってくるでありましょう。

千手千眼の観音さま、後に申しますが、たくさんの手がありますが遊んでいる手は一本もないんですよ。みんな働いています。これは私達の姿です。私達は２本しか手がありませんが、その２本の手が生涯の間に、のべ何本になっているかということが問われているんです。私は朝起きますと顔を洗います。２本の手がいる。この頃は、男の方で

も頭の毛が長いのでブラシをかける。2本の手がいる。私は、こういう頭ですから、ブラシをかけるとけがしますからブラシはかけませんが、時には頭をすります。女性ならば化粧をする。男ならひげをそる。炊事をする。清掃をする。かばんを持って出かける。いかがですか、みなさん。この時点まで、今朝からのべ100本や200本じゃないでしょうね。さあ、その2本の手が福祉的に、ボランティア的に動いているか、自分だけのことに動いているかということを、まず問うてみたいんです。人間は進歩するものでありますけど、みなさん、私達が今どのへんにいるのかという座標をはっきり窮めるということが大事でしょうね。それぞれ個人差がありましょうけど、成長していく自分が、今どのへんにあるのか。観音さまが、それを示す無数の手が、今それぞれ仕事をしているということなんですね。このてのひらに一つづつ目がついております。これは後に申し上げます。

へに、「仏身を観るをもってのゆえに、また仏心に見ゆ」観無量寿経でありますが、ここに①の見るという字と②の観の字をまとめて、観音無寿経の言葉で大経しています。「仏身」仏の姿ですね。これは木造でも絵でもいいんです。それを観る。今申し上げましたように、深い観察の目を持って見ていくならば、「また仏心に見ゆ」仏の心に巡り会うことができるんだということでありました。①のロの「初秋や見入る鏡に観の顔」本当に親の顔が見えてくれば、親の心に通じることができると言うことでしょう。

その次に、同じみるでありますが、看の目です。自己を体験する目。ということは、相手そのものに同化をして見ていくということです。

③のイに「看下を看よ」という字があがっております。これは弾の言葉で有名な言葉でありますが、よく玄関に「看脚下」という字が書いてありますので、はきものをそろえてぬぐことだ。これはまちがいではありませんが、そういう事実、エチケットやマナーではありませんので。看脚下ということは、一口に申し上げると、自分の足もとでありますから、自分を見つめようということなんです。自己を見つめよという今日のテーマになります。脚下を看よ、五祖（山）と書いてありますが、五祖山という中国の山に住んでいた法演、12世紀の初唐の弾の高僧でありますが、3人の弟子をつれて夜道を戻ってくるんです。12世紀の頃ですから、当時の照明具というのは懐中電灯ではありません。たいまつですね。松をよく干して先端の油の所に火をつけて、先頭のお弟子が持って帰って来るんです。風が吹いて火が消え、あたりがまっ暗になった。みんな呆然とするんです。弾の教育というのはみなすばらしくて、すぐれた弾の先生になりますと、その時のハプニングが全部教材になるんです。ですから、特別に教案を持っていないんです。私は大学を出まして、2年程現在の女子高でしょう。高等女学校の先生をしたことがあります。30才になるかならない頃の私を想像して下さい。眉目秀麗の青年だったん

ですね。ずいぶんもてましたよ。これは本当のことですから。ところが、前の晩から時には徹夜で、カリキュラムを作るんです。翌日、教頭先生に見ていただいて、新米の先生だからかたっぱしから直されまして、それによって講義をするんですから、もう死んでるんですね。ところが、弾の場合はできた先生は、手ぶらで教案も教材も持っていない。自分が充実していますから、目も耳も充実してくるわけです。見るもの聞くもの、ことごとく教材なんです。この間、長野県で先生の講習会で「森羅万象ことごとく教材なんです。」と言ったら、おわかりいただけた先生はきわめて少なかったようですね。

有名な歌手で淡谷のり子さん。私は、あのいじっぱりが大好きなんですが、あの人がこういうことを書いておりました。音楽学校の時代に、「よい音楽を聞きなさい。」とカセットを教えられたり、レコードを見せられたり、楽譜を教えてくれる先生はたくさんおりました。けれど、「風のせせらぎ、他人の声もすばらしい音楽だと聞こえてくる。そういう耳を養いなさい。」と教えてくれた先生は、たった1人だった。この良き師に巡り会えたことを非常に喜んでいらっしゃるんですね。これでおわかりでしょう。言うならば、真剣に求めていくならば、先生でないものは何一つないんですよ。だれの目の前でも、物は上から下に落ちるんです。だれの目の前でも、時代は変わりましても、水は100℃に熱せられれば、湯沸器のふたを持ち上げるんです。宇宙の引力と常力のエネルギーはだれの前にも与えられているけれど、おしいかな、これを見る目も聞く耳も持っていなかったということなんですね。それを観音さまが象徴されているんです。この看脚下、足もとを見よ。はきものをそろえてぬぐというのも大事なことですから、こういう研修会で実行していきましょう。なかなかできませんよ。はきものをそろえてぬぐっていうこと。でもね、私はこう申します。はきものをそろえてぬごう。心が落ちつく、やってごらんなさい。心を落ちつけようと思ったら、はきものをそろえてぬぐことです。それができたら、奉仕に、ご恩返しに、はきものが乱れていたら、そっとそろえてあげよう。みんなの心が落ちつく。私はこう申します。目だたぬように、きわだたぬようにさりげなく。これが奉仕の一番の心でしようね。自己紹介や自主性ではだめなんです。何年前にあなたのはきものをそろえたのは私なんですとか、お礼を言ってもらおうと思って、せつない気持ちで名刺を細かく折ってね、相手のくつの奥の方にそらせて置くなんていう気持ちがあってもいけません。さりげなく、だれがしたかわからない。これも大きな奉仕ですよ。もしみなさんがそれに感ずられて、社会人になってなにかの宴会においでになった時、はきものをそろえてぬいで、スリッパをそろえてごらんなさい。宿の職員達は、お客さまの足もとを見ています。「ああ、今日のお客さんはスリッパが、ちゃんとそろっている。どこのお客さんだろう。」と思ってフロントで聞いてみると、62年4月3日、小豆島で松原さんの講義を聞いたことのある人だとわかると、まぐろの

刺身が一きれ余計増えるかもわかりませんね。とにかく、目だたぬように、きわだたぬようにさりげなくしていくということ。もっと言うならば、人生論的に申し上げれば、脚下を看よということは、今自分はここで何をなすべきか。現時点で、自分に問題を持てということなんですね。今、自分は何をなすべきか。これが脚下を看よということなんです。奉仕とは何だ。福祉とは何だなんて、遠い先を思えずに自分の足もとを見て、今自分ですべきは何であるのか。この法演の問いは省略致しますが、答の方が大事ですから。弟子の仏果の「道は脚下にあり」今、自分はここで何をなすべきなのか。

有名なアメリカのある経済学者が、「経済とは何か。」「人のために良くすることであります。」「そうか、今ここへ来る途中、道端に大きな石があったが、あれをどけたらどうだ。」「そうですね。早速やりましょう。」といった話がありますけれど、本当にむずかしい論理ではなく、今自分はここで何をなすべきか。それをすぐに実行していくということが、看脚下ということになります。

私は奉仕ということを3つに分けまして、人への奉仕、所への奉仕、時間への奉仕と考えております。人への奉仕はやめておきましょう。みなさんご存知の通り。

時への奉仕でありますが、時間は再び戻ってこないんです。今、私にとって何が一番欲しいかと言えば、時間なんですね。やりたい仕事がたくさんあるんですよ。ですから本当に時間を惜しんで、夜も自慢じゃないですけど孫より早く寝ます。年をとってますから5時間も寝れば御の字なんですね。ですから、夜中の遅くとも2時には起きて仕事をします。夕べも9時に寝て、今朝3時40分には起きました。みなさん方、まだ議論の最中だったのか、あるいは昏睡状態だったのか、それは存じませんけど。目覚まし時計がない場合は、老眼鏡を私の部屋のお仏間に置いて、「起こしておくれよ。」と、こう言うんです。私は非合理を信じます。目が覚めたら、孫が起こしてくれているんです。ですから、今朝も、はいと言って起きました。眠かったですよ、それから洗面器の中で20数えてまばたきを致します。そして目薬をさすと、やっとこさ一人前になるんですけどね。本当に時間に奉仕していきたいんです。これ以外ないんですよ。私には。

もう一つは、所への奉仕でございます。本当に足もとにあるんですね。一昨年の夏、雲仙で九州地区のオーナーの研修会がありました。雲仙の温泉ホテルなんです。私は温泉が好きなものですから、朝早く起きて、あまり人のいないうちに浴室へ入って、のうのうとつかっていたのです。そろそろ出ようかなと思って、ひょいと洗い場を見ますと数少ないお客さんの中で、小学校6年生か中学校1年生くらいの男の子が、自分の使った石ケンとか手おけとか足かけを、小さな子だから一度には運べない。2回に分けて、ちゃんと元の位置に起きました。ここからですよ。理屈を言う前に、まず場に奉仕して、後の人のために気持ちいい場所を提供しようじゃありませんか。

鳥取の砂丘に、青年会議所の札が立っていました。「帰る時、来た時よりも美しく」いいですね。あなたがおいでになった時は、帰る時以上にきれいにして下さいよ。これができたら奉仕でありましょう。私はこういう言葉が好きだから、ほうぼう捜して歩きます。武州、関東の御岳山に「山には足跡だけ残そう」という言葉がありました。一番皮肉なのが、日光のいろは坂で、「あなたが来るまで、ここはきれいだったと言われないように」どうぞ、みなさんも帰られる時、来た時よりも美しく場に奉仕していこうじゃありませんか。後の方が喜ぶように。

話をもとに戻します。ことなげもしない旅館の浴室の道具を、あえてきちんと片付けていく珍しい子供さんだ。どんな親ごさんが、しつけをしているんだろう。守る子供さんも偉いんだなと、私はその子の後ろ姿を見て思わず息をのんだんです。肌色でわかりました。日本人ではないんです。黄色人種でも、白色人種でもない。発展途上国の肌の色です。まいったなあと思いましたね。おふろから出てきて、食事のバイキングにまいりました。立ったまま何も食べれないでいると、にこにこして私にお皿とフォークとスプーンを持ってきてくれたのが、なんとさっきの子供さんです。「ありがとう。どこから来たの？」と日本語で聞いたら、言葉が通じません。真赤な顔をしている。悪いことしたなあと思ったら、ボーイさんが来て私に小声で「一昨日から泊まってらっしゃる台湾の観光団のお客さまのお子さんでございます。」まいったなあと思いましたね。足もとを見ましょうよ。今、自分がどこで何をするべきか。これをきちんとしていくところに、大きな波紋が広がってくるんです。

ロの、「弾とは看るものなり」西田哲学の西田幾太郎先生です。

今、自分はここで何をなすべきかという人生論から、自分そのものを見つめていくということであります。この看の字が、看護婦さんの看の字で思い出されるんですが、この字、中国の漢字は、みな思想を持っております。会意文字ですね。手の下に目があるんです。逆に言えば、目の上に手があるんですから、こうやって手をあげて見るのが看の字であります。それから、中国には六書と書いて、りくしょと言いますけど、漢字の勉強が6通りに分けてされるんです。今の象形文字がそうですが、この字は、また会意文字というんです。二字以上の違った文字を集めて、新字のつくり、新しい意味をつけるのが会意文字なんです。手という字と目という字、違った字をあわせて看るという字を作ります。これは体験を表す字ですね。もう少し言うならば、手が目の働きをするという非合理な考え方なんです。たなごころというのは手の心です。

ハの「何にても置きつけかえる手ばなれは、恋しき 人にわかると知れ」お茶をなさる方はご承知でありましょうが、千利久のお茶の道歌の一つであります。とかくそそうが多いのでありますが、道具を持つ時は気をつけて持ちます。お茶わんでも茶釜でも。お

ろす時がそそうが多いから、おろす時に気をつけなさいという。私はこういう歌を聞くとやきもちをやきます。私の若い頃は、若い男と女が話をしたら大変なことだったですから、握手なんかめったにしたことがないんですね。恋人が名残を惜しんで、次のデートを約束してそっと手を離すような気持ちで、お茶わんでも何でも置いていったらそそうはないという。人との別れも、またそういうことでありましょう。

このたなごころはわかりますが、会意文字でもとに戻りまして、手と目で看る。もう少し具体的に言うならば、手に目があるようにということです。それは深い思いやりの気持ちが出てきます。

今一緒におります一番末の孫が、今年やっと小学校の5年生になりました。よしきという子です。私に似まして非常に頭の良い子なんです。この子が幼稚園に行っている時に、にわとりが卵を生みました。それを持って孫が、母親の所へ行って、「お母さん卵を生んでました。」これは平凡な子供です。その次に、私の孫がいかに頭が良いか、質問がすばらしいから聞いて下さい。「お母さん、お母さんはなぜ人間ばかり産んで、卵は生んでくれないんですか。」これ、よほど頭が良くないと出てこない質問でしょう。そういう朗らかな子が、ある朝食事をしていたら元気がないんです。私が嫁に、「よしき熱があるんじゃないかな。」嫁は気がつかない。「そうですか。」と言って不思議そうに立ち上がりましたから、体温計を取りにいくのかと思ったら、そうじゃないんですね。いきなりよしきの側へ行きまして、心配そうに子供の額に手をあててしばらくみていました。やがて、「お父さま、ありがとう。ちょっと熱があります。念のため体温計をかけてみましょう。」どうですか。愛情があれば手が目の働きをするということなんです。愛情ってすばらしいもんですね。

この頃、看護婦さんの研修会によく行きます。この看護婦さん、大変な勉強なのです。特に、重体の病人、回復の見込みのない病人には、どのようにして最後を安らかに送るかという宗教的な勉強までなさるので、時々私も呼ばれます。しかし、若い看護婦さんばかりですから、そうそうむずかしい話ばかりしていては続きませんので、時には笑い話もするんです。話しにくい所をどうやって毛穴から入れていただけるか。こちらは祈りに似た気持ちなんですが、なかなかそれが通じないことがあります。で、そろそろたいくつしたと思って私は言いました。私は80才になります。いずれはどこかの病院にお世話になりますけれども、今の老人にとって寂しいことは、全部が機械になってしまっている。病院へ行っても、「はい、最新式の体温計で計って下さい。それがすんだら、このカードを持って心電図へ行って、レントゲンへ行って。」霊柩車まで行きませんけど、それからそれへと渡される。寂しいんですよ。だから私が入院する時は、いきなり機械じゃなしに、母親が子供の額に手をあてるように、「松原さん、お熱はどうです

か。」体温計の前に看護婦さんの看の字を実行していただいて、私の額に手をあてて下さい。私は高額の入院費を出すのですから、患者の条件も聞いていただきたい。いやしくも、私の額に手をあててくださる看護婦さんは、部長クラスのおばあちゃんはちょっと遠慮してもらって、できるだけ若くてきれいなかわいこちゃんが、「松原さんお熱はどうですか。」と言ってくれますと、私の50度の熱も35.6度に下がります。笑い上戸の看護婦さん、涙こぼして喜んでくれるんですが、私の気持ちは寂しいんですね。

ところが救いがありますよ。同い年の女性だからおかしいんだけれど、笑いをおさえながら、何かうなずきながらノートをしていく女性もいるんです。みなさん、どっちが伸びると思いますか。ここですよ、看の手が。私は言いたい。目に見えないアンテナを頭の上に高く掲げて、さまざまな情報をキャッチして、そして心の受信装置、今まで申し上げましたあらゆる意味で観察をしていくという受信機で受け止めること、もっと具体的に言うならば、あの笑いの中に、なんでもない世間話の中に、今の自分の仕事に大きな助言となるヒントがあった。今の自分の人生の悩みを解いていて、大きな秘訣があったんだと。なんでもないものの中から価値を見つけていく。こういう観察を学ぼうではありませんか。あらゆる電波というものは流れているんですね。もったいないことに私達はそれを失なっているんです。求めよ、しからば与えられんじゃなくて、求めなくても与えられているのに、なぜそれがわからないんでありましようか。

この観音さまの観の字というのは、まことに意味が深い。そこで、千手観音さまの千本の手があるということは、さっき申し上げましておわかりでありましようが、この手に目がついているということなんですね。手のひらに1つづつついている、きわめてグロテスクな姿でありますが、これは単なる偶像ではないということは、さっき申し上げました。どういうことなのでしようか。私が尊敬しております詩人で、松山の砥部に住んでいらっしゃる坂村真民先生という方がいらっしゃいます。みなさんご存知でしよう。坂村先生が千手観音さまの実在を本当に知った。この実在も科学的な実在ではなくて、その真理というものは心の底に深くとどめられたと言う。

気の毒な話でありますが、全く失明してしまった小学5年生の男の子が、先生に言われて、みんなと一緒に手さぐりでお母さんの絵をスケッチした。先生は、よく手さぐりでこれだけ描けたものだ。お母さんの身体のバランスのとれたポーズと、両目の位置等全部正しい。足もスマートに描けている。そこまで見てから先生が思わず息をとめたのは、お母さんの手が2本じゃなかった。5本、10本と数えていったけれど、まだ数えきれないほどたくさんの手が描いてある。そこで先生が、「君、お母さんの絵とても上手に描けたよ。君はこの絵を描く時、心の中でお母さんありがとうという感謝の気持ちを持って描いたんだろう。」と言ったら、だまってうなずいた。「先生聞きたいんだけれ

ど、お母さんの足が2本だけど、手はなぜこんなにたくさんあるの？」子供はだまって答えません。「先生変わって答えようか。君は、こんな気持ちでお母さんの手をたくさん書いたんだろう。お母さんありがとう。僕は目が見えないから、お母さんは兄さんや妹よりもこんなにまで僕にたくさん手をかけてくれるんだね。ありがとう。君はお母さんに感謝の気持ちを姿、形で表そうと思ったら、たくさんの手を書く以外に方法はなかったんだろう。」と言いますと、見えない目から涙をつーと流しました。それを聞いて坂村先生が、非常に感動して、手がほしいという詩を書いていらっしゃるんです。

目の見えない子が描いたお母さんという絵には、いくつもの手が描いてあった。
それを見た時、私は千手観音さまの実在をはっきりと知った。
それ以来、あの一本一本の手がいきいきと生きて見えるようになった。
異様な御姿が少しも異様でなかった。真実のお姿に見えるようになった。
ああ、私も千の手がほしい。ベトナム・パキスタンの子らのために
インド・ネパールの子らのために

初めはグロテスクに見えたのでありましようけど、千手観音さまの実在をはっきりと知った。この実在は合理的な実在じゃなくて、非合理的な実在ですね。それ以来一本一本の手がいきいきと生きて見えると言う。異様なお姿が少しも異様でなく真実のお姿に見える。この千手千眼というグロテスクな姿が、実は弾の方ではむずかしい法案の一つになっていると思います。それは、通身是手眼、遍身是手眼。通身と言っても遍身と言っても辞書の上から申し上げれば、身体中ということに変わりはないわけです。これから弾の上ではさらに細かくいきまして、遍身というのは、身体中が目や手の働きをするということなんです。通身というのは、目は目の働き、足は足の働き、腕は腕の働き、身体の部分がそれぞれにフルに動いているということです。別にどちらが上で、どちらが下だということはありません。お互いのご神道をしている時に、身体中が手や足の働きに見えるということは、手は手でフルに、足は足でフルに、そういう動き方をしていくかという大事な事柄がそこにあると存じます。

みなさま方は昨日からお泊まりいただいております。大事なことは、みなさま方が、自分でお友達と一緒にさまざまなディスカッションをなさるということだと思いますね。大きな収穫があるんですよ。みなさまが、お部屋なり、なんなりで自分の思っていることをできるだけ話し合いをなさるということ。これは家に帰るとできませんから、無駄にされないようにしていただきたいんです。

昨年、長野県で発展途上国の学生達、日本の学生も入りまして研修会をやりました。その時に話が出たんですが、発展途上国の青年達が言いました。我々は国費で、日本でのこの研修会に来ています。ですから、何か収穫を得ませんと、まことに悲しいことで

あります。もちろん講師の話を聞きますけれども、そういう外向きの話だけじゃなしに日本の学生から、また隣りの国の同じような発展途上国の学生からいろんな話を聞きあいまして、おかげで情緒が豊かになりました。日本の講師に申し上げにくい。我々発展途上国の青年が、こんなに知識を求めて日本の学生に聞きますけれど、日本の学生さんほとんどいつも私達に質問なさらないのです。確かに文明の度が違うでしょう。しかし、一度も我々の国においでになったことがない。せっかく我々が来ているのですから、少しお話していただけたら私達もプラスになるし、日本の学生さんもプラスになるのではないでしょうか。その後の言葉がこわかった。もし、それをなさらなかったら、50年たったら資格変動するかもしれませんねと言う。まことにゾーとするような言葉でありますけど。真剣なあの学び方は、私達知らなければいけないと思います。

私達のしております南無の会の博多では、非常に熱心な青年がやってくれるんです。5、6年前、聞くだけが能じゃないんだ、身体で勉強しようと、名前忘れましたが福岡県の道場で3日間研修がありまして、お話に行ったんです。食事の後の懇談会で、若い人がいろいろ話してくれました。みんなさまざまな体験を持ち、さまざまな屈折を持ち、生きることへの悩みを持っておられたようです。おる男の人は、大学がいやになって途中で学校をやめて、再び学校へ入るようになった。その時の屈折した気持ちをいろいろ話しました。そして、最後に彼は言ったんです。「自分もずいぶんいろいろと試行錯誤してまいりました。けれども今、この時点でわかったことは、実は平凡なことが大いなる真実を持っているということ。この何でもないことが体験できたことはうれしいことです。平凡なことが大事な真実を表わしていることだ。」本当にそういうことでありましょう。だから、私はお互い自分に言いましょう。他へのリーダーになる前に自分のリーダーになれということです。自己をリードしていく人間になろうじゃありませんか。自己をリードしていくためには、さっきのように物事をいろいろと深く考える。学んでいくんだ。人間というものは永遠に進歩していくものであります。ここで止まるというものは何一つないでありましょう。だから、今の自分は人生のどのへんの座標にいるのであろうか。自分は、いくらでも知識というものを吸収しないといけない。それも五感だけではないあらゆる面から吸収していこう。そうすると、さっき申し上げました森羅万象ことごとく教材でないものはないんです。

親鸞さまは、「ひとえに親鸞ひとりがためなりけり」と言われました。この貧欲さが大事なんですね。俺一人のためにあらゆる衆というものが、といてきてくれるんだと言う。それを吸収していこうじゃないか。

④の「荀に日に新たに、日日に新たに又日に新たなり」、これは、孔子のとりました「大学」という儒教のテキストの中にあります。殷の湯王とありますのは、古代の中国

盤の銘というのは洗面器のことです。洗面器にこういう言葉がほりこんであったんですね。顔を洗う時、目を冷やす時にその盤の銘を見て、今日の行いは昨年より新しくよくなり、明日の行いは今日より新しくよくなるようにと見たんですね。これを中国の言葉で新しい民、民を新たにすると言っております。儒教の聖人哲学ですね。民を新たにするということは、人民の強化であって、人民の性格を新たにクリエイティブしていくという、そういう指導者の哲学というものが、必らず国民に及ぶんであります。だから、日々の成長でなければいけない。

このことで関連して、⑤の「学規」これは私の恩師の一人で会津ハーという、名前はお聞きでありましようが、秋艸道人と言って、すぐれた英文学者であり、書家であり、古代芸術の大家でありました。まことに身体が堂々としてすばらしい先生だったんです。私達にむかって「てめえら」と、こういう言葉をかけたぐらいです。身体が大きくて相撲協会の会長をしておられました。逸話がありまして、新潟県へ当時の横綱大錦が来た時に、新聞はこう書いた。大錦関はよくわかるけれど、その前を同じような図体で、えばって歩いているやつがいるが、あれはだれだ。後で調べたら、早稲田の会津教授だったと有名な話です。授業もなかなかユニークだったんです。ある時、法隆寺の瓦の話がでた時に、会津教授が「俺、法隆寺の瓦を持ってくるのを忘れた。」ちょうど私が前におりましたんで、「松原と２、３人で行って持って来い。」取って戻ってきました。重たい瓦なんです。持って行ったら、会津先生が机を出して、「ここへ置け。」私達３人のうち、だれかが早く手を離したものですから、瓦は割れなかったんですけれども大きな音がして、どさんと下に落ち、ほこりがぱ～と上がった。我々びっくりしていたら、会津教授、側でにこりともせず「見とけ、これが早稲田のほこりじゃ。」こうおっしゃったんですね。しゃれもここまでいきますとたいしたものです。

先生のお宅へは、学生と一般の人達が、書と歌を習いに行ってました。その中に有名な歌人の八木重吉がいるんですが、こう書いてますね。先生は、自分の歌を墨で書いていかないと叱り、一度も誉めてくれたことはない。黙って見ている。くるくると丸めて紙くずポン。「はい次」と、こうなんだそうですね。その次に良いのは、黙ってうなずいて、それから朱を入れて直してくれて、「見よ」返してくれるのかと思ったら、返さずに、それをたたんで、その上で煮えたってきた鉄瓶を置かれたんです。お湯がこぼれて墨がにじんでくると同時に、八木重吉は、俺の目からも涙がこぼれた。こういうまことにすばらしい教授でありますが、ご自分の目にかなった者に限って、学規というきまりを書いて与えた。１９５６年に亡くなっています。

1. ふかくこの生を愛すべし

今は今しかないんですね。私に言わせれば、今は帰って来ない。今を大事に、青春

よ、おごるなかれ。言葉を変えて言うならば、山本有三さんの名作「路傍の石」で、上の学校に入れず、非行に流れかかった吾一少年を戒めた次野先生がいい言葉を述べています。今、栃木駅の前にございますね。「たった一人しかない自分を、たった一度しかない一生を本当に生かせなかったら、人間生まれてきたかいがないじゃないか。」

私と同期の早稲田の卒業でございましたが、みなさんご存知でしょう。愛媛が生んだすばらしいキャッチーの井谷。井谷さんが書いた句碑があるそうですね。最後の一球だと言う。つまり、野球で申しますツースリーの最後なんですね。最後の一球にすべてをかける。ふかく、この生を愛すべし

2. かえりみて、己をしるべし

さっき申し上げました尾崎行雄の「あめつちの中に一人の我ありと思いしころの若かりしかな」吉川英治さんの「あめつちの中に我あり一人あり」

恵みを受けて生かされているのだとわかる。

3. 学芸をもって性を養うべし

一日生きたら一日プラスしていく。

4. 日々新面目あるべしは、今申しあげました④の「大学」と同じでありますから省略を致します。

比叡山を開いた最澄の言葉に「得がたくして移りやすきはそれ人身なり」というのがあります。人身は人間の身体でありますが、人間の身体に生まれてくるということは容易でない。「おこしがたくしてわすれやすきは、これ弾心なり」弾をしていく心ですね。日日つとめていかなければならないのだと。

私はこういうことを思いながら、先年、東京で凸版モアという会社へまいりました時社長の机の上に色紙が額に入ってるんです。見ると青春と書いてありますので読んでいったら、かちっとしたむずかしい言葉でありますが、なかなかすばらしいのです。社長さんに、「どなたの作でありますか」と聞きましたら、意外なことを聞きました。マッカーサ元帥の座右の銘だと言うんですね。マッカーサ元帥は、初めての敗戦だというコレヒントンで、初めて日本軍に負けた時、彼は命からがら逃げてるんです。その後日本が侵入した時に、新聞記者も一緒に入って、乱雑にちらかっているマッカーサ元帥の机の上に由緒ありげなものを見つけて、それを持って帰ったんです。戦後群馬大学の森教授に翻訳をしてもらいました。アメリカの詩人が作った詩を学者に頼んで、リズミカルな座右の銘にしたと言うんです。翻訳もすばらしい文章です。ちょっと読んでみましょう。

青春とは、人生のある期間を言うのではなくて、心の様相を言うのだ。

日本人で言いますと、青春というと10才から20才まで。そういう時期を言うのではない。心の様相を言うのだ。心の様相というのは何かと言えば、すぐれた創造力、クリエイティブですね。たくましき意志、燃える情熱、強打を退ける勇猛心、冒険心、こういうものを言うのだ。その次の言葉がなかなか具体的です。

年を重ねただけで人は老いはしない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神がしぼむ。年は70であろうと16であろうと問わぬ。心中にいだきうるものが何か。

だから、以上申し上げたような事柄がなければ、16才でも、老いぼれであり、60であっても以上のことを持っていれば青春だと言うんです。私はマッカーサ元帥の座右の銘を知る前に、新しい人生を築いていくためには細心、細かい心と信頼と情熱と努力と創造力ということをよく話をするんでありますが、マッカーサ元帥の座右の銘を見たら、ほとんどそっくり似ているんです。お断り致しますが、私はそれまで知らなかったんでありますから、マッカーサの座右の銘のまねをしたんではありません。もちろん評説でもないんです。偶然の一致と言ってしまえばそれまでですが、私はそれ以来、あらためてマッカーサを尊敬致します。なぜか。松原が考えている事と同じことを彼は考えていたんだから、マッカーサは、たいした人間だったと、こういう三段論法が成り立つのでありますね。

今日も学生の方がいらっしゃるけれども、私は学生時代に読んだ作品が、この頃非常になつかしくなって、また読み直します。私事でありますが、私は学生時代にマルクシズムに酔いまして、当時佐野学、猪俣津南雄、大山郁夫そうそうたるマルキストが教授におりましたので、それを聞いては、まぎれこんでいた警察官に背中にチョークで丸をつけられ、警察に引っぱられまして、ずいぶんとくさい経験をしてまいりました。それが、今非常に役に立つんですね。当時読んではいけない本だったんですけど、読みたかったんですよ。皮肉なことで、出版をしておりましてもロシア文字の作品の中には、丸と三角、点々という、いわゆるふせ字でございます。それでも読んでいたらマークされたほど圧迫されていました。私達は友達と危険を覚悟で、押し入れの中に入って懐中電灯を頼りにそれを読みました。命がけでしたから忘れないのです。みなさんには悪いけれど、マンガも読書かもしれませんけど、もう少し知的なものを読んでくれたらなあと思うんですね。

その一つに、役に立つということは、ゴリキーがどん底の中で工員を集めて言います。「仕事の量だけで値うちが決まるならば、人間より値うちがあるのは馬である。」皮肉、ユーモアでありましようか。この馬という言葉を機械に置き変えると、現代的になります。仕事の量だけで値うちが決まるならば、人間より値うちのあるのは機械である。働

きすぎだ。儲けすぎだとも非難をされる。余計なことだと思いながら、無理もない。日本人の働き方は学びであり、機械並みなんですね。量産がすばらしいけれども、そこに一つも人間らしさというものが流れていないじゃありませんか。だから、新しい時代になるためには、機械文明がどこまでも成長していくならば、それをリードしていくだけの豊かな人間性を持とう。なぜなら、核エネルギーが戦争するんでなくて、最後は人間がボタンを押すんですから。どこまでも人間というものを豊かにしていかなければならない。ゴリキーの作品は生きていると思うんです。

もう一つ、マッカーサ元帥の作品を読んだ時に、アナトールフランスの言葉をふと思い出したんです。アナトールフランスはこう言っています。「神は人間を創る時に、青春を人間の人生の初めの方に持っていった。」と。それはそれなりの理屈があるんでしようけど、アナトールフランスは、「もし自分が神ならば、青春というものは人生の最後に持っていこう。」と。なぜならば、人生の最後というものは人生の仕上げの時なんだと。人間というものは、どこまでも進歩発展していくものであります。ですから、自分の人生において、発展に発展を続けていった。その最後の仕上げの時であるから、アナトールフランスは、青春を人生の最後に置く。

私は欲が深いから、これをこう受け止めます。私のように青春を過去に失なったものには、もってこいの言葉であります。みなさんも、今だけが青春でなくて、もう一つ青春があるんだと言う。これをもっと考えようじゃありませんか。しかし、この青春を同じ字を書いてあったんではわかりにくいんです。アナトールフランスの言いました仕上げの時であり、収穫の時であるという意味から、清春という清らかな字を書いてみたんですが、どうもお酒の名前みたいでピンときません。聖人の聖を書いてみたら聖春、ちょっときまりの悪い字なんですね。心がいつまでも若いんだから、心春としてみようと思ったけど、これもちょっと字数が少ない。この来るという意味で字数の多いのが性の字でありますが、性春としたらちょっと考えもの。この字は、今非常に意味が広いんです。うっかり私が性春と書いたら、松原はポルノ小説を書いたんじゃないかとまねかれないんですね。そこでいろいろ考えた末に、工事でも何でも出来上がってきます時に竣工という字を書きます。こういう成竣という意味を、私は今もって自分の仕上げの時まで成竣と一本歩んでいきたいと思います。みなさんも第一次の青春から第二次の成竣を目して人間形成に、もう一人の自分にお互いに会うようにしてまいりたいと思います。以上でお話を終わりますが、今日本当にありがとうございました。

心の角度をかえて日本を見る

日本ふるさと塾主宰

萩　原　茂　裕

四国に来ましたのでちょっと今思い出していたんです。もう10年以上前になりましようかね。夏休みでした。新幹線に乗っていたんです。当時新幹線はこちらへ来る新幹線しかありませんでした。乗りまして回りを見わたしましたら、夏休みですからふるさとへ帰るようなかっこうをした人がたくさん乗っていました。私は乗り物に乗りますと、必ず隣へ腰かける人に声をかけるんです。何故かと言いますと、知らない人ですから。知らない人は知らない街を教えてくれる先生だといつも考えました。

女性が乗りますと、絶対声をかける。でふっと見ましたら、隣りにうら若き女性が乗っておりまして、私聞いたんです。「あなたは夏休みふるさとへお帰りですか。」「はい。」「じゃああなたのふるさとはどこですか。」そしたら、困ったという顔をしたんです。「四国です。」と言って来た。「あなたも大きい人ですね。」と言った。わかりますね、意味。

私は街か村か市を聞いている。「四国です。」「四国にたくさん町があるでしよう。」って聞いたんです。そしたら、その県にあたった人はかんべんして下さい。「愛媛県です」「愛媛県のどこですか」って聞いたんです。さあ顔が赤くなりました。何て出るかなと思ってたら、「松山です。」って。うそですこの人、県庁所在地を3度目に言うような人を、私の経験では絶対うそですよ。私こう見えましても意地悪いんです。そう言い答え方をする人は最後まで聞きますから、「松山のどこですか。」そしたら何と出たと思いますか。「バスに乗ります。」と来た。松山にバスに乗りますって言う町名ありませんからね、あそこには。「何時間ですか。」って聞いたんです。「1時間半」「どちらの方向？」「高知方向」と来た。今、私が言った方向地図で示しましようか。松山から高知へ1時間半乗るとどのあたりへ行くか。丁度まん中ぐらいなんです。私は幸か

不幸かあのあたりは非常に詳しいんです。「あなたね、高知へ１時間も乗ると三坂峠ってあるでしよう。久万って町があるね。美川って村があるでしよう。柳谷って村があるでしよう。」と言ったんです。そしたら真赤な顔して、何って言ったと思いますか。「もう少し奥へはいります。」私が教えてあげました。村の名前は言いません。言いませんが、あるんです、ちゃんと。私なさけないって思う、いつもこういう人に逢うと。ま、たまたま四国の話ですよ。全国にたくさんおります、こういう人が。どういうことかって言うことです。

今の日本人は、東京から距離が遠い街はダメだと思ってるんです。それから高い建物のない街もダメ。人口少ないと絶対ダメ。街といいますのは、今日は市も町も村も街って言います。街というのは宇宙にたった１つですよ。歴史も風土も人もすべて全部違うんですから、素晴しいもんが必ずあるんです。でも頭からダメダメダメと思っているから、素晴しいものが素晴しいと思えません。自分の住んでるところが素晴しい。自分の住んでる所に自信持たない。好きでない人がいくら居たって街はよくなりません。同じように日本もよくならないって私思います。今日本をよくしようと思ったら街をよくすることです。こういう人をなくすことだと私いつも思います。

さあ、もう１つ例を申し上げます。飛行機に乗ることがおありになりますね。例えば羽田へ着いた。都心へ出るのは多くの人はモノレールを使います。モノレールが浜松町へ着きます。乗ったことがある人よく思い出して下さいね。浜松町へ着く少し前に、右側の下の方へ目をやります。上走るから当然下へ目をやるわけですよ。右側の下に何があるんでしようか。何がありますか。ドブの沼ときたない森が見えますよあれ。ところが、上から見るとドブの森ときたない森程度なんですが、下へ降りてみましたら、何でしようか。日本名園の１つ、浜離宮恩賜公園って言うんです。下へ降りてみたら、わ―素晴しい。上から見ると、あれあんなものがある。見る位置がちがうとこれだけ違うんですよ。自分の住んでる所をどういう位置から見たらよろしいかということを知らない日本がたくさん居ると私は思います。地図を逆さまにはった理由がわかりましたね、これで。よく講演会で私地図逆さまにはるんです。そしたら講演会が始まる前にダダダ―と聴衆がかけ上がってきて、主催者何やってるんだとかけ直そうとするんです。私困るんですよ。今日私はこういう角度で日本を眺めたら、自分の場所を眺めたら、どうなるかと言うことを私は話をしたいんです。ですから、こう地図をはりましてね。中学校で私講演会が多いんです。中学校でこう地図をはって、「この地図から何が感じとれるか言ってみなさい。」そしたら子供達はこう言います。「日本海が大きく見える。」って言うんです。私も言われてなるほどと思ったことがある。同じものが違って見えるんです。ですから角度をかえて自分の街をながめたら、これは街ばかりじゃありません。ど

んなものもそうです。眺めてみたならば、あれ、こんな素晴しかったのか、と気がついたならば、もうしめたものだと思いますね、何事についても。ですから、今日はどん底の街が心の角度をかえて見れる人をつくったおかげで大変に伸びたということを教えてくれた先生を、これからいくつか紹介していこうと思っています。地図を逆さにかけたのもそういう意味なんです。私のうちも全部逆さまですから地図は。心の角度をかえて見れる人を作ったならば、どん底の街が伸びるんです。事実いくつもあります。今日は言い尽くせませんけども２つ３つ申し上げてみようと思ってます。

つまり、そういう事を教えてくれた先生ですね、私にとっては。先生っていうのは人ばかりじゃないんです。街も先生です。ところが、この街という先生は、子供の教育にも、家庭の中にも、商売にも、もちろん企業にも、地域にもいろんな事を教えてくれております。

そのまず第１の先生は、皆様方は野沢菜というのは召し上がられますね。野沢菜って言うのは、四国で作っても、九州で作っても、北海道で作っても野沢菜っていうんです。これどこで作っているか。おわかりになると思いますけども、長野県の野沢温泉村です。人口はたった４千８百。そして、ここが新潟、これが長野、長野と新潟を結んだ線のまん中の山の中の中です。気象条件から言いますと、立地条件から言いますと豪雪地帯です。豪雪というのは経験されたことがありますか。それこそ屋根の上を人が歩くことがあるんですよ。電球の上を。学校の体育館がつぶれることがあるんですから、これは災害ですよ。豪雪なんて言うのは。ですから、冬はもう昔は出入りできないです。出かせぎに出てしまって、そういうところですから言葉悪いですけど、食うことに困ったところです。ところが、今この村は日本で一番豊かじゃないでしようか。その証拠があるんです。おととし神戸市が、もうけることが上手な神戸市ですから、都市問題研究所を作ったんです、財団法人。第１回目の記念の事業で全国の自治体の中から経営実績がきわめてよろしいと言うのをとり上げて表彰したんです。その第１号が大きな都市じゃないんです。人口４千８百の野菜温泉村だったんです。その野沢温泉村が、なぜ豊かになったのかと言うことなんです。今は上下水道100％完備ですよ。野沢温泉村の村おこしのステップを簡単に申し上げます。第１のステップ，先輩達が真剣に取り組んだことであります。この村に子供達が残れるだろうか、残れません、どう考えても。何故か。もう冬は出入りできない位の豪雪、急傾斜地ですから、単作農業ですから。単に豪雪だけならよろしいんですが、急傾斜地ですから。すると、雪を溶かせばよろしいんですが、できません。こんなことは不可能ですからね。その不可能なことと取り組むことを考えました。当時、日本にはスキーが導入されました。

当時、あんな小さな村が、山の中の村がこの近代スポーツに取り組むことを考えたん

ですから、先見の明があったと思いますよ。そこでスキー場をつくることを考えました。国や県からお金をもらってくることを当然考えるでしょうが、あそこは違います。自分達でスキー場を作ることを考えました。まず自分達の山の木を切りました。お金にかえました。そのお金の自分の山にスキーリフトをつけたんです。ここがまず違います。その次がまた違います。そのスキー場をそっくり村へ寄付しました。全部村営です。ですから、村営のスキー場の年間の売上げ、約20億です。村営で20億ですよ。どれだけ見返りがあったかと言うと、上下水道100％完備なんです。その次のステップです。みんながスキーを習いました。よそはこれできないです。スキー場を作っているにもかかわらず、ふもとに住んでる人がスキーできないって所はたくさんありますよ。これ間違いだと思う、私は。あのスキーだからだろうなと言われると困りますから、じゃあ皆様方の街でサッカー場を作ったとしますね。そしたら回りに住んでる人が、みんながサッカーできるようになることが理想の姿だと思いますよ。できないまでも、誰よりもサッカーを見る目が肥えてる人になることが理想の姿じゃないでしょうか。これもできてない。ただ作っただけ。よその人のために作ってるんです、ほとんどが。次のステップです。子供達に徹底してスキーを教えました。ですから4千8百の村で今現在、オリンピック選手、国際スキー競技会へ出た経験者が約30名います。私これ後で聞いてびっくりしたんですけど。人口比率から言うと世界一だそうです。と、これまで言うと、お話理解していただけますね。今までに野沢に住んでると言いたくなかったんです。ところが今どきどんな子供つかまえたって、「どこに住んでるの」「野沢」堂々と言いますから。だからスキー場作っただけじゃないんですね。住んでる人に自信を持たせたという事になるんじゃないでしょうか。その次のステップです。

先ほどもふれましたが、野沢菜を徹底して売りました。村長室へ入りましたら、お茶と一緒に必ず野沢菜が出てきます。あれ見事です。こないだこういうおもしろい話があるんです。おもしろいかどうかわかりませんけどね。

北海道の羅臼へ行きました。知床半島です。森繁久弥の歌で有名な知床旅情の舞台です。羅臼へ行きますには、網走のそばに女満別という所があります。ここへ降りるわけです。で車で2時間半かかるんです。街から白井教育課長さん迎えにきて下さったんです。道中長いものですから、野沢の話をしながら行ったんです。「野沢行ったら村長室入ったら野沢菜が出てきますよ。羅臼ってのは昆布で有名ですから、　おそらく町長室へ入ったら昆布茶が出てくるでしょうね。」と言ったら、白井教育課長が「いやあ、うちはそこまで至っておりません。」ってこうおっしゃったので、あきらめて行ったんです。町長室入りました。お茶が運ばれてきた。飲んだら昆布茶なんです。「ありゃ昆布茶出てるじゃありませんか。」って言ったら、そのお茶を運んで来た女の子が、「は

い。先ほど課長が途中で電話をかけてきました。」って、でも私、そこで教わりました。進歩とはすぐやることだと。これはなかなかできないことです。「あ、そうか。あんなことやってるのか。」その程度です。余段な話しましたけど、次のステップです。スキー博物館を作りました。野沢温泉村スキー博物館ではありません。日本スキー博物館です。国が作るべきものを小さな村で作りました。これができて、頭かかえて失敗したと悲鳴あげたのは新潟県の高田市です。スキーの発祥です。今だに作っておりません。その次に悲鳴あげたのは北海道です。作りました。野沢より規模の大きいものを。日本と名前つけられなくて、北海道スキー資料館。小さな村が日本のスキーの総本山に仕て上げて行きました。これが簡単に云う野沢温泉村の村おこしのステップです。なぜ私が冒頭から野沢の話をするか。惚れてるからです。私は、毎年お正月うちの家族全部野沢で過ごしております。スキーしながらですよ。不便なところです、あそこは。私は日本中のスキー場ほとんど知ってますから、美川まで行って滑って来たことがあります、あの愛媛県のね。もうスキー村長って、ずい分有名だった人がいましたから。私は人並以上スキーやるんです。ちょっと自慢を言わせてもらいますが、私は全日本スキー連盟の公認の指導員資格を持っているんです。本当なんですよ。私これ30年前にとっているんですから、日本では古いほうなんです。しかも、埼玉県に住んでおりますが、全日本のスキーの指導員、私埼玉県で第１号なんです。ですから息子たちよりも上手です、私は。馬力はききませんけども。それだけスキーやる私ですから全国のスキー場知ってるんです。便利なところを。わざわざあんな不便なところを選ぶんですから、なぜかと言うことなんですよ。それだけ惚れてるわけですね。

惚れてる理由をこれから少し申し上げます。５、６年前の１つの例ですが、お正月、私と家内とスキーをかついで外へ出ました。スキー場へ向かいました。歩きながら家内が私に「村役場どこにあるんですか。」って聞いたわけです。前の方歩いていたおばあちゃんが、ふっとふり返って「お客さん私が御案内しましようか。」と来たんですから。素晴しいと思った私は。どうでしよう。皆さん方の街で、そういう人が後で話をかわしていた。前歩いていた皆さん方がすぐ振り返って、「私がご案内しましようか。」って言えるでしようか。今日ここへ来てる人は言えると思いますよ。こういう人が少ないんです、なかなか。なぜそういう態度がとれるのか考えてみたんです、私。答えはこのようです。よそのスキー場は誰かが作ったんです。スキーに来るお客さんはスキー場と旅館だけのお客。野沢温泉村のスキー場はみんなで作りました。スキーに来るお客さんは皆のお客様。おばあちゃんにとってもお客さん。だからそういう態度がでるんじゃないでしようか。それから、うちの息子たちに言わせますと、野沢温泉村のスキー学校は、日本一親切だと言います。私受けたくなったんです。で、朝早くスキー学校の開校式を

そばで聞いておりました。ゲレンデに指導員、受講生が並びまして、校長先生がご挨拶をしてるんです。そのご挨拶の最後の言葉に私感じ入ったんです。「私ども指導員皆様方と一緒に今日も勉強させていただきます。」と頭下げました。素晴しいと思った私は。よそでは教えてやると言います。指導してやると言います。言われないまでも、そういう態度がありありと出てきます。心が違うと思いました。こんなことがありました。その年は雪不足で、全国的にです。野沢温泉村だけドサーと降りました12月31日夜半から朝、ゴンドラリフトに乗りに行ったんです。待ち時間が３時間、全国からスキーヤーが殺到してるんですから。私はもうやめて、別のゲレンデ行ったんです。ヘリコプターが飛んでるんですよ、あそこは。上まで４分です。ところが、待ち時間を聞きましたら、２時間半だと言うんです。それしか乗るのありませんから、うちの家族全部並んで待ってたんです。腹もへってきた。時計みたら昼すんでるんです。ゲレンデの下見たら食堂が並んでました。降りていって私食糧買って上っていこうと思いまして、ある食堂に入ったんです。レジのそばにそこのご主人らしき人が立ってましたから、「アンパンか食パンかありませんか。」って聞いたんです。その時のご主人の頭の下げ方今でも目に残ります。「申し訳ありません。」って頭下げましたから。「うちではアンパンも食パンも扱かっておりません。」皆さん方、近所のお店に買物に行きますね。「何々ありますか。」品物がなかったら、その店の方々は「申し訳ありません。うちでは今切らしております。」って頭下げるでしようか。下げますよね、四国は。兵庫とかこのあたりでは。あと下げませんよ。全然下げませんよ。「何々ありますか。」って言ったら「ありません。」って言いますから、まあ極端ですけど、そういう態度がありますよ。頭下げられて感動したんです、私は。でも考えてみたら恥ずかしいことだと思いますよ。頭下げられて感動するんですから。ということは頭下げられ慣れてないんです。よく方々行きますけど、街の中にあいさつ通りって書いてあるのが目につきませんか。あいさつ通り、私あれ見るたびに恥ずかしいなって思うんです。あいさつを強要しないとできない人がたくさん居ますよっていう証拠ですから、あれは。まあないよりはましですけどね。でも日本人っていうのは知らず知らずのうちに頭下げることがおっくうになってますよ。ということを、私最近教わったんです。先年谷口さんと韓国へ講演会に行ってきましたね。韓国へ私行ったら韓国から聞きにくるんですよ。私の話をわざわざ。

韓国は今セマール運動というのを国をあげてやってますから、それに呼ばれて行くんですがね。こんなことがあったんです。恥ずかしい話ですけど、何度か韓国行ってるうちに、韓国の人がこういうことを言った。

私に「おまえね、韓国へずい分来るけど、韓国を本当に知るんだったら、休戦ラインを見なければわかったことにならんよ。」意味わかりますね。38度を中心にして南２km

北２kmの休戦ライン。あれは韓国民が好んで作ったものじゃありません。国際情勢です。あれ失くさなきゃならんと私思います。でそんな事を言われたものですから、一昨年夏に、私と家内とソウルに飛びました。あそこへ入るには特別の許可をもらうんです。で国際色豊なバス、ということはいろんな国の人が乗ってるバスに乗りまして、入って行ったんですよ、休戦ラインに。南２km、北２km、私たち南から入るわけですけど、入って行きましたらね、私たちのバスが走る。作業している兵隊達は、国連軍と韓国の兵隊他の人入れませんから。この兵隊たちが作業の手をやめて私達のバスにきれいに敬礼するんです。１人じゃない。何人もがきれいに敬礼するから、おやおやおやと思ったんです。誰か車内に韓国の高官でも乗ってるのかなと思ったんです。見わたしてみたら韓国人一人もいないんです。おかしいなと思ってた。そしたら対抗車がきました。ジープです。助手席に乗ってる兵隊が、ピシッーと敬礼するんですから。まあ運転手は知りませんよ。そして、私幸運にも板門店の休戦会議所へ入れたんです。あれなかなか入れないそうですね。私一歩ですけど北へ入りました。プッとはいりましたけども。でお昼ごはんを将校クラブでいただいたんです。ところがその車の中に日本人が１人乗っておりました。大阪から来たと言ってました若い男の人です。私は日本人だとわかってますね。つかつかと来まして「先程から車が走りますと、兵隊たちがきれいに敬礼しますけどね。あれあんまりきれいに敬礼するんだけども何か下心があるんじゃないんですか。」下心っていう言葉使いました、この人。と言いれたから私も、なる程なそうかな。何があるのかなと思って、ソウルに戻ってセマール運動のリーダーにこの話をしたんです。「あれだけきれいに敬礼するってことは何があるんですか。」て聞きましたら、そのセマール運動のリーダーが、私と家内の顔をしげしげとながめて、「お客様に挨拶をするのはあたり前のことじゃないですか。」って言われたんです。恥ずかしいと思った。もう質問しなきゃよかったと思った、その時は。頭下げられるのが特別に感じられるようになってたんです、私も。これ知らず知らずになってんですよ。車に乗っても何してもぶつかったって何したって、「ごめんなさい」も言えませんね。女性もたくさんおりますが私いつも不思議に思うことは、昔は女性の方が男性よりも礼儀が正しいんじゃないかと思ったぐらいですけど、最近は反対ですね。皆さん方は違いますよ。最近反対だなって思うことがいっぱいありますよ。人の前通るんだって「ごめんなさい」とも言わずに黙って通っていきますから。昨日も船の中とか全部そうです。これはゆゆしきことだなと思ってました。まあそんなことはよけいな事ですけども。ですからお店のおやじさんに頭下げられた。感動したんです、私は。そしたらそのお店のおやじさんがすかさずですよ。「お客さんお困りなんでしようね。じゃあ１軒おいてとなりの店でサンドイッチを作っておりますから、そちらでいかがでしようか。」隣りの隣りの店まで紹介するんで

す。これもまたよけいな話になりますけども、方々に青年会議所ってあるのご存知ですか。青年会議所っていうのは経済人の経済人ばかりじゃないですね。町をよくしようという人たちが集まる団体です。これは40以下の人がなるわけです。おそらくあのロータリーアンの方にもその先輩がたくさんいらっしゃると思いますけどね。東京都にも青年会議所がある。マンモスです、あそこ。何千名位いるのか。その東京青年会議所に、今年の1月地域コミニュティ開発委員会というのができたんです。まあだいたい言葉聞いただけでおわかりになると思いますね。どんな事やるのか。

それで、委員長と副委員長が3人でうちへ来られたんです。で新しい委員会ができて委員長におおせつかったんですが、「東京で街づくりができるんでしようか。」って来られたんですよ。「なぜそんなこと言うんですか。」って私言うんですよ。「いいや、小さい街だから街づくりできるんであって、東京ではなかなかできないと思いますから。」「とんでもありません。街をよくすることとはね、1㎝でもよけいに隣の人のことを考えることですよ。」って私言ったんです。「それならできますね。」って帰っていきました。隣の隣のお店を紹介する。隣の品物を売ってあげることが街づくりじゃないんでしようか。街をよくすることだと思いますよ私は。おじさんが隣の隣の店まで紹介したんです。さあ皆さん、もしもお店へ買物に行って「いやあ、それはうちは扱っておりませんけども、1軒おいて隣りで扱ってますよ。」って言ったら「いやあ、ありがとう」ってパット出る気になりますか。私も一瞬ちゅうちょしたんですから。どうもすぐ外へ出れなかったですよ。これだけ親切に言って下さったんだから、私なんとかこの店にお金落としたいと思いました。これが人情じゃないかと思いますね。私もまんざらじゃなかったと思います。人情多少あったんだから、だから外へ行かなかったんです。そしたら、またすかさずこのおやじさんが、「お客さんが時間がおありになるんだったら、あべかわモチでも作りましようか。」10分位だと言うんでお願いしたんです。大きなアミでコックさんがモチ焼き出したんですよ。そして大きなボール箱を持って来ました。切りきざんで小さな箱に作りかえて、焼けたモチを入れてくれるんです。一列並べたらアルミホイルを入れて、又おモチ、アルミホイル、ひっつかないようにしてきちんとたたんで、「どうぞ。」はっとお礼申し上げて私帰りかけたんです。もちろんお金払ってですよ。そしたらコックさんが後ろから「お客さん」って呼ぶんです、私のことを。「こりゃ、ひょっとするとお金が足りなかったのかも知れない。」と思って、「何ですか」と聞いたら「お客さん何人で召し上がるんですか。」って聞くんです。「4人だよ」4ぜんおはし持って走ってきましたよ。素晴しいと思った、私は。で又お礼申し上げて帰りかけた。また来たんですよ。「お客さん—」今度は何かなと思ったら、コックさんがビニール袋みたいなものを持って走って来ました。「お客さん、お客さん、オモチだ

けではあと口が悪いでしようから、野沢菜の本場です。野沢菜をつけさせていただきました。」そういう所です。この話を皆さん方はどういう風に聞いていただけましたか。私は今この話を自分でしながら、恐ろしいことだなと思って話してるんです。なぜならば、私は野沢温泉村から宣伝費は一銭もいただいてきておりません。今日、ここで払った宣伝費は何十億のはずです。頼まれなくてもほめてあげたくなる村、なぜでしようか。私はスキー場等の設備に惚れているわけではないと思いますよ。人情です。人です。かつては後向きの人たちが多かった。食うに困ったんだから。でも、スキー場を作ることによって、住んでる人に自信を持たせた。心の角度を変えて見れる人を作った。おかげでそれだけ人が変ってくるんだなということを私は教わってきました。ですから私にとって第1の先生であります。

この野沢温泉村が今年の3月1日にどえらいことをやってのけました。それは野沢に入るには飯山線というのに乗ります。長野から新潟へ向かう線ですね。飯山線のとがりという駅を降ります。とがりという駅はよその街の駅ですよ。ところが3月1日からとがりの駅名を野沢が変えてしまった。とがり野沢温泉駅です。もう私は改めて改めて感心しております。

ですから、どんな小さな所だって人を作りかえたらあれだけになります、ということを教わりました。

二つめの先生を紹介いたします。この中にはいろんな県の方がいらっしゃってると思いますけども、皆様方の県は、日本のレベルから言いますと、観光資源がある方だと思いますか、ない方だと思いますか。今日ここに来てる方の県はみんなある方です。日本の上位ですよ。それでは日本一観光県と言われている県はどこでしよう。この中にないんです、残念ながら。宮崎県です。

それでは次の質問でありますが、日本一観光資源のない県はどこでしよう。それは宮崎県です。日本一ないんですよ。それが日本一観光県なんです。30年程前です。日本一と言われたのは。その頃あそこに観光資源がいくつあったか、鵜戸神宮と青島しかなかった。今でも日本一観光資源が少ないんです。じゃなぜ観光資源が一番少なかった所が日本一になったかということです。それは野沢と同じようなステップです。宮崎を旅行いたしますと、必ず記念撮影する場所があるはずです。どこでしようか。観光バス、ハイヤータクシー止まって「ここで写真をとりなさい。」勧めて下さるところ、それは堀切峠ではありませんか。堀を切ると書く。なぜ記念撮影するか。あそこで写真をとりますと、宮崎県へ行ってきたというのがすぐわかります。というのは、例のフェニックスという木が写るからです。あれは宮崎の顔です。ところが、顔といわれるフェニックスは、もともと堀切峠にはえていたのではないんだそうです。植えた人がおります。その

人の名前は、岩切さん、岩を切ると書きます。この方は、以前宮崎交通バス会社の社長さんです。一昨年の秋92才で亡くなられました。この方は昭和の早い頃に東大を出られました。3年程住友商事に勤めたそうです。優秀ですからふる里がひき戻しました。優秀だからふる里が引き戻したんですよ。よそは優秀だから逃げられるのに。でも優秀な人を引き戻すには、引き戻すだけの受皿が必要だということを宮崎は教えてくれます。20代の岩切さんを商工会議所専務理事です。ですから腕は十二分に発揮できました。認められますよね。当時あまりパッとしなかった宮崎交通というバス会社の社長にさせられちゃった。岩切社長一番にやったことがあります。それは観光バス部門の設置。回りがびっくりしたそうです。観光は成り立たない県ですから。なのに岩切さん、観光バスガイドを募集した。バスガイドのお嬢さんたちに「君たちは観光資源のない観光県の観光バスガイドだよ。」って言った。「だから君たちふだん見慣れている身の回りにあるものを一生懸命勉強しなさい。来て下さるお客様にそれだけでよいから説明してあげなさい。」と教えたそうです。と言われたものだからバスガイドは、見慣れすぎたものから、草の名前、木の名前、山の名前、花の名前を勉強したそうです。だんだん回りのことがわかってきたら、宮崎交通バスガイドは、「宮崎県が好きになりました。」と言い出したそうです。岩切社長の生前、私は何度かお会いしてますけれど、話をしていますと必ずこの話が出てくるんです。私の当初のねらいはここにありました。自分の住んでる所を好きになるバスガイドを作ったんですから。だからあそこへ行きますと、よその県のバスガイドと違います。とるに足らないものを一生懸命説明しますよ。あの態度を見ていたら宮崎県が好きだなってわかるんです。あの態度に感動して帰ってきます。そして私何と言うか。宮崎交通バスガイドが親切だとは言いません。宮崎県は親切だ。一人の行為を全体評価しますから。口コミで広がったんです。人が増えだしました。昭和25年になりました。毎日新聞が全国観光地百選をやりました。ハガキの人気投票、いいチャンス宣伝しよう。この機会しかないと考えたところ、人がたくさん通る海岸線があります。海岸線を宣伝しようと思ったんですが、市町村が入りくんでますから、1つの町の海岸線だけ宣伝するにはいかないわけです。そこであの海岸線全体に1つの名前をつけました。日向の南ですから日南海岸。日南海岸（宮崎県）と書いて毎日新聞本社へハガキを送りました。何通送ったのか。121万枚、トップに出ちゃった。びっくりしたのは誰だと思いますか。宮崎県民、なぜならば日南海岸の名前聞いたことがなかったんですから。だから県庁にさかんに電話かかってきたそうです。「日南海岸ってどこにあるんだ。」県庁めんどくさくなって「目の前だよ」て教えたら、みんながびっくりして見に行ったんですよ。びっくりして見に行って見直して、自信を持って帰って来た。自分が自信を持てたから、人に来てもらえたのではないでしょうか。皆さん方の県は素晴

しい観光資源があるけれども、行ってみたら地元の人が自信持ってないんですよ。だから人に来てもらえないんです。自分達が自信持てたから人に来てもらえたと、私教わってきてます。ということで、人がどんどんどんどん増え出しました。人が増えだすと、次に問題を起こします。次の問題とは、心のこもらない施設づくりばかり考えるようです。宮崎県もそういう話が出ました。岩切社長は言われました。「施設は後でもできるんだよ。今しなきゃならんことは、宮崎県らしさを作ることだ。」らしさ、皆さん方の街のらしさ。例えばお店だって、らしさ。人1人だって、らしさ。つまり個性ですね。らしさと言うことで、皆様方はカメールという街ご存知でしようか。カメール、あの市というのは4000名だそうですね。ところが世界中から観光客。なぜかというと行ってみるとわかりますよ。個性です。あそこはもう街全体がらしいんです。表現できない位らしいんです。ですから、世界中からどんどん観光客が来るものですから、その人たちにあうようなすばらしいお店ができているんです。そして、市民が胸に、市長の顔写真の入ったバッチをつけているんですよ。日本にはないですね。中曽根さんのバッチつけてる人おりますか。残念ながらないですよ。あれだけで私はびっくりしました。個性です。個性だけで人が来るんです。らしさと言ったんですが、宮崎県のらしさというのがないんです。

岩切さん言い出した手前もありますから、一生懸命考えたんですが、たまたま県の林業試験場へ行ったんです。試験場も、たまたまどこからか輸入して、どこかへ植えてみようと思ってた例のフェニックスの苗木があったんです。よし、これを沿線に植えようということになって、岩切社長さん県庁へ頼みに行ったそうです。当時県へ頼みに行ったら、けんもほろろだったって市役所へ行った。予算ないと言われた。普通の人だったら予算がつくまで待つ。ところが岩切さん、自分の会社の金を出して沿線にずっ―と植えました。植えたのはいいんですが、南国宮崎、農家は秋は恒例の野焼き。一年めは見たことのない木で焼いちゃった。また植えなおし。そのうちにわかります。

フェニックスというのはギリシァの神話から名前出ていますね。エジプトの死なない鳥、不死鳥。生命力が強いから、この名前が出るわけですから。だから根をはるわけです当然。

人がどんどん増えだした。人が増えだすと次に問題起こします。次の問題は大きな問題ですよ。これがどこでもやってしまうんです。それは何かといいますと、当然お店でも何でもそうですけども、あぐらをかいてしまいます。努力をしません。宮崎県はさらに努力しました。ただし、あそこの努力は汗をかいた努力と違うようです。心の努力のように思います。当時、宮崎県民は申し合せをしたようにこういう言葉を使いました。「2度も3度もお客様に来てもらうには、どうしたらいいか。」と言いました。よそで

は何と言いますか。2度も3度もお客を引っぱるには、って言いますよ。2度も3度もお客を来させるには、です。宮崎県は来てもらうにはって言いました。大変悪いことと言いますけどね。

悪い例として申し上げますけども、すぐ近くの高松。私、高松へ時々来るんです。3年位前でしようか、一日時間があきましてね。日曜日だったんで、久しぶりに観光バスに乗ろうと思った。で1時の観光バスに乗ろうと思って、駅前の切符を買うところへ9時くらいに行ったわけです。もう観光バス9時位の出た後でしようか。あそこに切符を売る女の子がいましたよ。で「1時の観光バスの券を下さい。」「売れません。」って言いました。「売れません。」って言ったんですよ。「何故ですか。」「1時のは30分前に来て下さい。」あ―高松も、ということは、高松だけが評価されないんですよ。四国全部やられますよ、これは。ということは、どんどんどんどんお客様が来たから、あぐらをかいているということの1つです。直して欲しいです、私は。あんな事やっていたら橋がかかって来たら大変なことになりますよ。ということは、高松の人もしっかりしてもらわなきゃならない。1人の行為が四国はって言われますよ。あぐらをかいてる姿です。

人が増えてくるとそうなってしまうんです。お客を引っ張るには、来させるには。宮峰県は来てもらうには、です。2度も3度も来てもらうには、結果として若い人に来てもらおう。新婚カップルに来てもらおう。こういう人達に来てもらうには、今現状を見ているだけでは単調だ。華やかにしよう。誰かが「看板作ろうか。」って言ったそうです。そしたら岩切社長言われたそうです。「看板は後からでもできるんだよ。今しなけりゃならんことは、華やかさは華やかさでも宮崎県らしさの華やかさ。」その結果、冬に来ますと真赤なポインセチアの花ざかり、秋は黄色いコバノセンナの花ざかり、夏はもちろんハイビスカス。宮崎県は最近すごいですね。コスモスの花ざかりやってます。コスモスはすぐはえますよ。でもね宮崎だからなんて思うかも知れませんけど、どこだってできるはずなんです。やらないのです。今、北海道ですら花植えてますよ。ところが、常時花の咲くところへ来ても花は1つもないんだから。日本という国は空気と水と緑と花は黙っててもあると思ってるんです。私は違うと思う。宮崎県が日本一になったのはそこじゃないでしようか。宮崎に行きますと、よその県とずい分違うところがあります。例えば観光客がゴミを投げます。あそこは通りすがりの県民が黙って拾って行きますから。

よそはどうでしようか。観光客がゴミ投げたら、市役所拾いに来いって、役場拾いに来いって言いますから。何故そういう人が出るんだろうか。私当時不思議に思ったんですよ。ある日その答を見つけることができました。

南宮崎という駅に降りたんです。駅前に今でもありますけど、背の高いワシントンヤシっていう木がはえてます。こちらから見るとバラバラです。観光県なんですから、こずえの高さ位きれいに切りとるべきだと思ったんです。ところがバラバラの理由があるんですね。これを聞いて感心したんですよ。

その理由とは、宮崎県の代表的な民謡かりぼしきり歌の前唄の音譜の高さだそうです。どうですか、この気配り。何故でしようか。観光資源がなかったからですよ。なかったからみんなで汗して作っていったんですよ。愛情がわきます。野沢と同じ。このあたりは黙っててても何でもあるんです。だから作らないでいいんです。汗をしないのです。愛情わかないのです。だから私は宮崎県の観光資源何ですかって言われたら、人です人間ですっていつも言います。人です。人間ですって言うことを私は非常に感動して教わったことがあるんです。さらに宮崎でですよ。それは今から5，6年前のことですが、4月1日に宮崎にまいりました。私は3月末には必ず行きます。今年も行きました。仕事なくても行くんです。宮崎県が主催するフラワーショーってあります。県の総合運動公園花いっぱい。あれが開かれると日本に春が来たって言われる位ですね。それを見に行くわけです。その年4月1日行ったわけです。飛行場おりて、レンタカー貸りて会場へ乗り入れたわけですよ。大失敗、前の日の3月31日で終ってました。もう車の向きを変えて帰りかけたんです。後ろからジープがふっとんできましてね。横に宮崎県って書いてある。乗ってるのは県の職員ですね。その車が私の横に止まって、作業服着た男がとび降りてきた。私の車のドアをたたくので、終った後入っていったから、早く出て行けと言ってるんだと思った。それで窓ガラスあけたわけですよ。そしたら、この人は県の観光課の職員、作業帽をとりましてね。私に向かって「お客さん申し訳ありません。」って頭下げました。私一瞬何を怒られるかと思ったんですよ。考えてみたら昨日終ったんです。知らないで入ってきた。それをむこうから申し訳ないって言うんです。私は、反対だと思った。この人がこう言うんです。「お客さんせっかくいらしたんですね。じゃせめてもの罪ほろぼしに、今花をたくさん片付けておりますが、好きな花がありましたらいくらでもいいですから持って帰って下さいませんか。」花はもらって帰りませんでした。でもその人の心は今でももらって帰ってきております。だからこうして申し上げます。感動した私は、レンタカーを返してホテルへ行こうと思ってタクシーを拾ったんです。そういう日はついてるんです。タクシーの運転手さんが女性だったんですから。中年のおばちゃん運転手さん。私は宮崎県を一生懸命ほめました。そしたらおばちゃん運転手さんが、「お客さんは宮崎県にとって大事な方ですね。」言えますか、皆さんこれ。そう言われたら感動するもんですよ。ますますうれしくなって話しかけたんです。そしたらおばちゃん運転手さんが「お客さん、お客さんがさっきから何度もおっしゃっ

てますけども、私はその宮崎交通バスガイドの一期生だったんです。」って。ついてるのはこのことですよ。ですからいろんな話をしていきます。

こういうことを言ってくれたんですから。「お客さんは宮崎県ずい分お詳しいようですが、知らないことを1つ教えましょう。」「何ですか。」って聞いたら「私共が宮崎交通バスガイド1期生で入った時に、岩切社長が『君たちはバスガイドなんだから私が社の花になれと頼みたいところだが、君たちは宮崎観光の基礎になれ。』と言われました。」私どういうわけかこの言葉聞いた時、ジーンときました。もう一瞬ですね。私の人生にとって大事なことを教わったと思ったんです。といいますのは素晴しい方と話をしていますと、話の中に必ず心があります。岩切社長さすがだと思いましたよ。なかなか言える言葉ではないと思う。でも私はその時考えたんですよ。そういう心のこもった言葉を話をしても、その時聞く側が問題だなと思ったんです。聞く側が耳で聞く能力しかない人だったら、こちらの耳から聞いて、こちらから抜けていったと思います。でもかつてのバスガイドさんは、耳で聞くことだけでなくて、心で聞ける人であったから、今でも心のこもった話を胸にきざみつけておくことができたのではないだろうか。と私はその時思いました。ですから全く遅まきながら、人の話は心で聞こう。ものは目で見ることだけではなくて、心を通してみるようになりたいなと努めることにしております。なかなか至りませんけれども。どん底からはい上ったところは皆そういう人作りをやっているようです。私、また心なんていうわけのわからない言葉使いました。こんなことも心という言葉で解釈できるのかなと最近やっと気がつくようになったことがあるんです。それは、こういうことがあったんです。福岡県に黒木という街があります。最近銀行の主催の講演会で行ったんです。福岡銀行の主催だったんです。本店から常務がお見えになっていた。講演が終わって懇親会の時になったんです。主催者側ですから、支店長が端に座っている。

そしたら常務が、「あの支店長の着任する店は必ず成績が上がるんですよ。」と言うんです。あの支店長はどういう腕を持っていらっしゃるのかなと思って、私は聞きたいと思っていたんです。その翌日、支店長自ら運転する車で、2時間かかる福岡空港まで送って下さった。助手席に乗っている私が、この話したわけですよ。「支店長、常務が昨日こういう事をおっしゃったですけども、支店長はどんな努力をされておりますか。」と言いましたら支店長が、「いいや、私は能力もありませんし努力も特別してるわけじゃありませんから、お答するような事はないと思いますよ。」と言ったから、私困ったなと思った。答聞こうと思って聞けなかったんだから、ところが支店長さん、自分では答えだとは思って話をされなかったと思いますが、私は答だなと思って聞いた言葉がある。何の気なしにおっしゃった言葉なんです。支店長こう言いました。「私はうちの店

の者にいつもこう言ってます。銀行ですから、10万円持って預金にいらっしゃる方がいる。ある方は100万円持っていらっしゃる。人間ですから10万円持ってきた人より100万円持ってきた人に深く頭を下げがちだ。でも、私がいつも店の人たちに言ってることは10万円をふところに入れるまで要した努力と、100万円ふところに入れるまでのお客様の努力の差は、100万円のほうが金額が大きいから努力も大きいとは限らないよ。いづれにしてもお札のかげにはお客様の努力があるんだから、その努力に頭を下げなさい。」といつも教えております。私はこれが答だと思った。ですから、宮崎からそういうこと教わらなかったら、私は常務が「支店長が着任する店は必ず成績が上りますよ。」って聞いて、支店長から「答はありません。」と聞いたら、しかたないなあと思っていたと思うんです。いろんな話を全然そういう気持ちで聞かなかったと思います。それがわかるようになりました。ですから私は街は先生だと思います。すばらしい先生がたくさんいます。人という先生も。宮崎でさらに教わることがあります。それは宮崎を車で走りますと、いたる所に「太陽と緑の国宮崎県」と書いた標語が目につきます。あれは何であるかと言いますと、宮崎県づくりのテーマ、スローガン、ビジョンであります。太陽と緑の国宮崎県ということを意識して入りますと、宮崎県民は、無意識のうちに太陽と緑の国宮崎県づくりの方向へ進んでます。で、また教わりました。すばらしい方とお会いして話をしてますと、人生の目標をはっきりつかんでいることを教わります。企業も同じ、街も地域も同じだなと教わりました。目標を定めることが大事なんだなと教わったんです。野沢温泉村の村おこしの目標は、スキーの村になろうということです。宮崎県は、太陽と緑の国宮崎県です。それでは目標を作ったことによってどれだけ街が違うか。違って伸びるか、ということを教えてくれた先生を紹介します。

その先生は、北海道の十勝平野ってありますね。まん中の街は帯広市です。帯広の東へ鈍行で揺られてまいりますと、人口12,000の池田という街があります。ここも池田ありますね。全国に6つありますから。この池田が第1回目の池田町サミットをここの池田でやったんですよ。町長八木壮一郎様よーく存じ上げています。若い町長さんです。で、これから言う北海道の池田は、かつては天候不順で、作物が穫れなくて、税金が入らなくて、役場に物を納入したら、代金が払ってもらえなかった時代があったんです。会社でいいますと倒産をしていました。専門用語でいいますと再建団体っていいますか。その街に昭和32年に丸谷さんという方が町長になられました。当時38才ですよ。この町長さん、今参議院議員です。でもこの丸谷町長さんは、皆さん方から町長と言われないんです。ホラ吹き町長と言われてたんですから。そういう人です。この人が町長になりました。第一声「街は商品だ。」って言いました。品物だって言うんです。私たちの身の回り全部品物ですから。ところが品物というものには宿命があります。常に作りかえ

ていかないと買ってくれませんし、使ってくれません。これは品物が持つ宿命ですから。街も商品同じことです。街だって常につくりかえていかないと住んでくれません、来てくれません、逃げて行きます。ところが品物を作りかえる時にいくつかのステップがあります。

第1のステップ、品物の用途をはっきりすること。野沢という村の商品名は、スキーの村になろうとしたんです。宮崎県は太陽と緑の国宮崎県ですね。ですから街におきかえたら、街づくりのテーマ、スローガン、ビジョン将来像、そこに住む住民にとりましては、合い言葉を作らないとできないはずです。

そこで、このホラ吹き町長みんなで相談して作ったテーマが、「食生活豊かな街池田」食生活を豊かにしなければならない街なんです。だいたい想像できますね。といっても何からやっていいかわからなかったそうです。秋になりまして、山の中を歩いておりました。ふと目の止まったものがあったそうです。山ブドウです。ふだんなら見過ごすもの、でも気になったと言います。もちろん木になってますけど。何が気になったかと言いますと、黙ってはえてるなと思ったそうです。なぜそんな発想したかって言いますと畑作酪農は一生懸命なんです。手間ひまかけてよい出来じゃない。山ブドウは黙ってはえてる。気候風土にあってるわけです。そこで役場へ戻ってきた町長が職員に相談したそうです。ブドウが黙ってはえるんだったら、あれを役場でたくさん作って、役場でブドウ酒を作ったらどうかなって言ったんですから。ただでさえホラ吹き町長ですから、職員全員ソッポ向いちゃったそうですよ。ところが立ち上がった連中がいるんです。農協青年部、自分達山ブドウ栽培してくれました。町長も自ら栽培しました。ところがあの頃、日本中からバカヤロウ、気ちがい呼ばわりですよ。役場がブドウ酒作るちゅうんですから。もう当然言われますね。ところがバカヤロー、気ちがいだけなら済むんです。秋早い頃に霜が降りてくる。せっかく植えたブドウは、枯れてしまいます。バカヤロー、気ちがい、霜が連続3年程繰り返しました。そしてブドウ酒を作りました。簡単に言いますが、ブドウ酒を作りだしたら、また気になったものがあったそうです。それはワインです。当時ワインなんていうのを耳にしますと、あんなものは外国人の飲みもの。池田は違います。日本人は将来ワインをたくさん飲む日が来く。じゃブドウ酒を作ったんだから、もう少し勉強してワインを作ろう。そりゃ、考えてみたら地元に山ブドウしかはえてないんですから。これだけではできませんから。

池田の職員全国へ出歩きました。どんなブドウを池田へ持ってきて植えなおしたらいいかを調べて歩いたんです。調べてる最中にあたり前のことに気がついたそうです。よそでよいブドウだと思っても、池田へ持って来て、池田の風土、気候に適うとは限らないということです。そこで池田へ戻ってきて、もともと池田になっている山ブドウの木

を調べ直したんです。これがよかったんです。

山ブドウの品種がアムレイシスという品種だそうです。原産地はソ連です。日本にはなってないと言われる、ワインを作るのに適した品種のブドウだったんです。喜こんだ町長、もう1期続いてやりました。ある日突然、職員三人町長室に呼んだそうです。三人の職員が、何事で呼ばれたのかなと思って入っていったそうです。

そしたら町長が突然言われたそうです。3人のうち1人に、まずソ連へソレ行けって言われたそうですから。この連中3人とも、今立派になっているんですよ。ある男などは、東欧圏行きまして、言葉がわからないって言うんです。言葉わからないからワインの技術習おうと思っても十分習えないって言うんです。ですから考えたそうですよ。ワイン工場へ案内されますと、わざところんでワインの樽にハンケチ落とすんですから。ハンケチにワインをひたして、ビニール袋につめて持って帰った男がいます。今部長になってますよ。ですから、皆さん部長になろうと思ったらポケットにビニール袋突込んで歩くことですよ。それ位のことをやったんですよ。で、戻って来て、彼らが中心になってワイン作ったわけです。ワインが出来ました。ところが出来たんじゃないんです。第1回目、酢が出来てました。ですから当時北海道の新聞書きたてました。

「それ見たことか。税金のムダ使い。町長降りろ。」って言った。恐れなかったですよ、ワイン作り直したんです。さあワインができました。どういう味のワインかわかりません。それなのに池田の職員はそれを持って北海道中売り歩きました。買ってくれると思いますか。役場の職員が皆さんの所へワイン売りに来たら、買いますか皆さん。今なら買うと思うんですけど、昔は名刺出したら言われた男がいるんですから。「あなた本当に役場の職員ですか。」って、一切売れないんですよ。つぎ込んだ金が元へ戻りません。どん底の街がさらにどん底。町長後で言ってましたよ。当時はワラをもつかむ思いだったって。ところがワラがただよってました。どういうのかって言いますと、世界ワインコンクールがハンガリーのブタペストで開催されるっていう情報。困ってるから情報つかまえちゃったわけです町長。課長呼びつけて世界ワインコンクールに出してみなさいって言った。課長もはいよって出したっていうんです。その後、私知らないで行きました。そしたら町長や皆が深刻な顔してるわけです。聞いたわけですよ。「何かあったんですか。」「世界ワインコンクールに出した。」って言う。皆さん当時の事情ご存知ですか。日本の名だたるワインメーカー、世界ワインコンクールに出しません。かないっこないですから。売れもしないワインを出しちゃったって言うんですから。今だから言えますけど、私正直なところこの街も終りかなと思った。ですから町長おっしゃってましたよ。「どんなお叱りがくるかヒヤヒヤしてます。」「日本の顔にドロを塗ったようなことをしました。」って。ところが世界ワインコンクールが終わって、電報が

来ました。恐る恐る開いてみた。もう観念してましたからね。そしたら電報にバカヤロウと書いてなかったんです。世界ワインコンクール第3位。1，2，3ですよ。金賞、銀賞、銅賞って言うから、町長後でどうしようと言ってました。本当に言ってましたこれ。とたんに売れ出したんです。いい事にはいい事が重なるんです。北海道は冬のオリンピック。外国で有名なワインですから。向こうはお茶なみですから。それを知ってる連中が、札幌のレストラン、ホテルに入ってきた。ウエイトレスに十勝ワイン飲みたいって聞いたそうです。そしたらウエイトレスが「お客様そういう外国産のワインはおいておりません。」って、これ本当にあった話です。だから売れ出したんです。お金がドサーっと入って来た。生産が間に合わなくなったんです。ですから当時このワインを幻のワインと言い出したんですから。さあ、ここからが池田のさらにりっぱな所です。と言いますのは、どこの街でもここの時点で問題起こします。と言いますのは、その街を助けてくれる産業が起きると、その産業だけによりかかってしまうんですから。それを称して城下町って言うんです。鉄鋼城下町、造船城下町、繊維城下町、池田はワイン城下町になりませんでした。なぜか。それは私は、目的と手段ということをよーく理解していたからだと思う。

手段は目的のためにあるはずです。私達が生きてる限り何をやっても手段と目的、この2つ以外のものはないと思いますね。

今この場を例にとって言いますと、今日私は立って話をさせてもらってますけど、皆さん方座って聞いてもらってます。でもこれはこの研修だけが目的ではありませんね。目的は何かって言うと、皆さん方よーく理解していらっしゃると思います。これ座って聞いてることは、立って話してることは、これ手段です。大きな目的があるはずです。手段として座ってる、立ってるですから。ところがこれをまちがう人がいるんです。座ってることが目的だと思う人いますから。私の立場でいつも言いますけれど、私はその街をよくするお伝いに行くんですから、いつも継わるんですよ。今日は講演をしませんよって言う。皆変な顔をする。講演じゃありません。私はこの街をよくするお伝いです。目的はこの街をよくすることですよ。だから講演じゃありませんよって申し上げるんです。手段と目的、私いつもうるさく言いますから。池田はそれをよく聞いていたのかワインでお金が入ってくると、それが目的になりがち。会社の経営で言いますと、戦略と戦術という言葉があります。戦術は戦略のためにある。これを間違った会社つぶれてます。人生も手段と目的をとり違えている。人生そのうちにつぶれてますから。ワイン作りでお金が入ってくると目的となりがち、手段と正しく理解していました。目的は食生活豊かな街池田を作ろうです。とするとどうしなければならないでしょうか。ワインという手段だけで食生活豊かにならなかったら、ワインという手段と別な手段とをかけ算

しながら食生活を豊かに結びつける努力をしなければならんということですから。さあ何をかけ算しようか考えたわけです。マスコミって言うのは調子いいんですね、時々。昨日までホラ吹き町長って書いてあった新聞が、世界コンクール3位とったとたんに、翌日の新聞からアイデア町長って書いてある。アイデア町長考えました。考えることありません。酪農の町、牛をたくさん飼ってます。町長牛を見たって牛と思わなかった。何と思ったか。ステーキと思ったって言うんですよ。ワインかけるステーキですよ。そこで町長酪農家の所へとんでいって、ステーキ作ってくれませんかって頼んだそうです。そしたら言われたそうです。北海道は当時豚肉が主流ですから、そんな高いもの食べれるか。まして、自分達で飼ってるものを自分達で処理できるかって言ったんですよ。町長困ってくるかなと思っていたら、あの人度胸いいですから、悠々と帰ってきました。「どうしました町長」って言ったら、「オレが殺してやるって言って来たよ。」って言いました。町でと場を作った、と畜場を。ステーキに牛肉が出てきます。高いと言います。安くしなければいけません。この町長は若かりし頃銀行マンでした。銀行のしくみを牛にとり入れました。牛を預ける銀行を作ったんです。池田町ミートバンク、名前はかっこいいですが、建物があるわけじゃありません。しくみがあるだけ。牛を預ける銀行。肉にする、ステーキにする、誰かが買う、利益が戻る。その利益は、牛を出した人たちに利子がつきます。利子はお金ではありません。ステーキとか肉で戻しました。ところが、肉が余りだしたんです。12,000人の人口、肉が余ったら大問題ですからね。さあ困り出した。アイデア町長アイデア出した。肉が余ったんだったら食堂1軒増やしなさい。と言ったそうですよ。それを聞いた課長が、「町の中に食堂は3軒ありますが、どれ1つとってもよい出来でないものをもう1軒は誰にやらせるつもりですか。」って聞いたんです。そしたら町長が「役場でやれ。」って言ったそうです。町営食堂。電話がかかってきたんです。町営食堂ができたから食べにこいって。私その時考えましたよ。町営さんという方が経営はじめたかと思ったくらい。町営食堂、考えられませんでしょ。ふっとんで行きました。穴グラのようなところに町営食堂、満席、外で並んで待っている。世界3位ですから。私と町長席をとってもらって座ったわけです。ボーイさんが来ました。注文とって帰ってきました。町長、私に「今のボーイさん誰だと思うか。」って聞いた。ボーイさんをつかまえて変なことを言う町長だなと思って、ボーイさんの後姿を見ましたら、その日のボーイさんは役場の商工労働課長でした。役場の課長が皿持って走ってるんです。ところが課長が皿持って走っていることなどは、あの街では驚くに値しない事なんです。5、6年程前の10月1日に、私池田に行ったんです。10月1日は毎年町制施行記念日、役場は全部休むんです。町民誰れも文句言いません。一生懸命やる所ですから。その日にぶつかったわけです。ところが、行きましたら、町営レスト

ランが営業してるって聞いたんです。おかしいなと思いました私は。ボーイは役場の職員ですよ。休んでるんですから。休んでるのに営業してるということは、池田の事だから、ひょっとすると、ひょっとする人がボーイさんをやってるんじゃないかと思って、期待をこめてお昼ごはん食べに行ったんです。そしたら6年程前の10月1日のボーイさんは誰であったか。申し上げますよ。町長と助役と教育長と事業部長、考えられますか、こんな事が。観光客が夢にも考えませんよ。でもわかるんですよ、あれ。ボーイじゃないからすぐわかります。まずヒゲはえてますから皆。それからね手つきがあやしい。もう冷かされてるんですよ。見るに見かねまして、私隣に座ってる観光客に、「今来たの町長だよ。」って言ったら、あんな場所で町長って言ったって意味が全然通らないんです。目を見たらわかりますから。おそらくあの目の感じから言いますと、飛ぶちょうちょと言ったと思ったのかもわかりませんよ。気がついて、自分の仲間に「今来たの町長町長」って全部教えておりました。そういう努力の積み重ねで、今池田は東京にレストランを3店舗出してます。場末ではありませんよ。行ったらびっくりします。ちょうちょう一等地ですよ。町長やってますから、町長っていいますから。まず一つ、新宿伊勢丹デパート一階、ハブ十勝、あれがそうです。それから赤坂と八重州。これはレストラン十勝、すぐ目につきます。どうですか3店舗ですよ、東京に。札幌に3店舗、計6店舗です。と言う池田はどのようにして行くかといいますとね。　池田は帯広までは飛行機です。あるいは特急です。朝は乗りかえて鈍行というのは昔の話。今は池田に特急が止まります。特急で降りますと目の前に小高い丘があります。丘の上に西洋風のお城が立ってます。その城を皆さんがワイン城とおっしゃってます。正式に言いますと、49年に町が7億かけて作りました。ブドウ、ブドウ酒研究所。地下の1階貯蔵庫、1階、2階が醸造所、3階はレストラン。このレストランが3階のレストランが1日に150万以上売ります。だからそびえ立つ理由わかりますね。ところがこの数字だって驚くに値しないです。5年前の10月1日の売り上げを見てましたら、1日に340万売上げたんです。私聞いたわけです。「すごく売りましたね。」って言ったら、また言い方が憎いんです。「ああ、あの日は材料がなくなったから、売れなくなったんですよ。」って言ってました。憎いこと言うなって思いますね。まあ、そういう池田。

今汽車から降りたんですから、駅前広場へ出ます。駅前広場はワインカラーです。これ、らしさですよ、ワインカラー。駅前に大きな洋酒のグラスが置いてある。前からピューとワインがとんでる格好の噴水、タクシーが並んでます。並んでると言いましても3台位しかありませんけどね。

タクシー会社の名前がワイン交通、タクシーの胴腹がワインカラー、そのタクシーに乗って役場へ走ってもらいますと、歩道の色はワインカラー、役場へ着いて庁舎を見上

げます。庁舎のかっこうが、心なしか洋酒のボトルの格好してます。一事が万事こんな街ですよ。こんな話をしますと、今日はいらっしゃらないと思いますけど、所によりますとね、「そんなバカなことがあるもんか。」という顔する人がいるんです、時々。ところが不思議なことがあるんです。そういう人に限って、明日すぐに見に行きますから。だって心理的にわかりますよね。うそだろう、調子いいって言うんです。ところが、そういう人に限って案外効果があるんです。帰ってきますと、わざわざ電話かかってきますよ、私のところへ。お前の話より何十倍上だったって。そしてこういうことをおっしゃいます。「あの街はワインを作っただけじゃないですね。」って。「じゃ何を作ったと思いますか。」「あの街は人を作ってる。」とおっしゃいます。私はこの言葉聞きたいんです。よく視察などされますが、うわべだけしか見てこない人ばっかり。本当の姿ここにあります。なぜそんなことを言うかと申しますと、一例をあげますと、今池田にはりっぱな旅館がありますが、当時は旅籠程度ですよ。その時代でも宿に泊まりますと宿の方が、こちらからお願いもしないのにワインを持ってきます。「お客様、このワインは地元で作りました世界で有名なワインです。」有名ないうことは3位じゃありません。51年には金賞の上に大名誉金賞をとったんですから。堂々と勧めてくれるんです。飲みたくなるんです。買って帰りたくなるんです。だけど方々へ旅行しまして、こちらからお願いもしないのに、地元のものを堂々と勧めて下さる所にどれだけお目にかかったことがありますか。ないに等しいと思う、私は。でも考えさせられることは、池田はそうなったんです。どん底の街だったんですよ、これが。さあ、私は今、先生を3つとりあげました。この3つの先生から私が何を教わってきたかということを申し上げてみたいんです。もうこんなことは言うまでもないと思います。

だって皆さん方は自分におきかえて、仕事におきかえて、家庭の中におきかえて、街におきかえて聞いていただいたはずですから。言うまでもないことだと思いますが、私が教わってきたことを申し上げてみたいと思います。まず第1の教訓は、街づくりは人づくりだなあと教わりました。企業は人なり。あたり前すぎること、社員や従業員に仕事を命令すると致します。すると命令した側は、心の中ではこの仕事を命令したらこの社員は、どれだけ成長してくれるかと願って命令してるわけですから。だから、企業経営なんていうのは1分1歩たりと言えども人づくりですもの。ところが街づくりは道路作り、建物作り、橋作りだと思ってる人がいっぱいいるんです。でもどうでしようか、

でもどうでしょうか、今の3つ見て下さい。1つはスキー場を作ることによって人を作りました。ワインを作ることによって人を作りました。花を植えることによって人を作りました。だからみんなどんなことをやるにも、人作りの材料だと考えれる住民のたくさんいる街、そういう事の考えれるリーダーの居る街は伸びてるな

ーと教わるんです。次の教訓です。それは足もとを見なおす街は伸びてると教わりました。遠くばかりながめる街はダメのようです。最近そのことがはっきりと分って来てます。遠くばっかり眺めて、自分のところそっちのけにして、何でもいいから来て下さい。来て下さいって頼んで、大きな企業が来てくれたところが、ガタッとしてるんですから。まあそればっかりじゃない所もありますけども。足もとに材料がいくらでもあるという事を教わります。次の教訓です。それは10年以上かかってるなと教わりました。10年以上かかるということは、途中でやめなかったという事だと思います。10年以上かかるということは、子供のため孫のためと考えれたからではないでしょうか。

人生なんていうのはそんな事だと思いますよ。すでに私達がやってることは子供や孫のためにやってるんですから。なぜならば、私たちは好むと好まざるにかかわらず老いてゆきます。年とってゆきます。年とっていくと言うことは、子供や孫たちに継いでゆく。これ無意識に考えてるんですから。だからそれをはっきりと意識したら、10年位はあたりまえにかかることだと思いますよ。俺のため私のためと思ってるから、今日明日の利しか求めないんです。次の教訓です。それは他人のために汗を流させるようなことをしくんでゆける街は伸びてるなと教わりました。他人のためにです。最近考えてみたら私達は自分だけの汗を流しますね。他人の汗は流そうとしないんです。でも最近私うれしい話が１つあったんです。毎年私が行く街ですけども、静岡県に富士宮っていう市があります。去年たまたま講演会に行った時に、「富士宮ってのは富士山持ってんですから、富士山と一番あうのは桜でしよう。」って言ったんです。そしたら市がすぐそれを聞いて、予算をつけて100万本桜植樹運動。100万本ですよ。そりゃ100万本も達成できるかどうかわからないけども、なにしろ素晴しい遠大な計画ですよ。市が桜を植えることが始まったんです。そしたらあそこの市の若い連中が「市長待って下さい。勝手に植えられたら、根ははりますけども心の花が咲きません。」と言ったというんです。市長変に思ったんだそうです。「じゃどうするんだ。」と言ったら、「私達に植えさせて下さい。」去年ずい分植えました。また今年も植えます。この間電話がかかってきて「今年桜が咲くから来てくれ。」って言うんです。まだ桜が咲かない前から行ってみましたら、全部その植えた桜に名札がついてるんです。萩原茂裕……誰○○なんてついてるんですから。他人のために単に桜を植えるんじゃなくって、桜を植えることによって他人のために汗を流すことをさせたわけです。

これは１つの例ですけども、そういうことをやってゆける街は伸びるなっていうことを教わります。次の教訓です。それは若者達が立ち上り、若者たちを立ち上がらせる街は伸びてるなーと教わりました。これはもう世界の歴史が証明していますもの。若者が立ち上がった時代、時、そしてその国、その街は伸びてるということを教わります。

次の教訓であります。それは1つの産業だけに頼らなかった街伸びてます。池田を例にあげますと、池田はワイン作ったって言いました。よその街もワインを作りました。まねをして、ほとんどダメになってます。池田は全国の名だたるワインメーカーの中に位置づけをしますと何番目に入るか。3年程前のデータでは6番目です。ということは大メーカーだということです。なぜその位置が保ってゆけたのか。それはよそと比べたらわかるんです。池田の違いはワイン×ステーキ×レストラン×というかけ算をやってきました。よそはワインだけです。かけ算というのは3＋3よりも3×3の方が大きいというのは誰でもわかることですから。このかけ算がいたる所で大事ですけども、これができておりません。池田はそのかけ算をきちんとやったんです。ところが、すんなりとできたわけじゃありません。問題もありました。それはかけ算したのは住民なんですから、一番初めに文句言ったのも住民ですよ。なぜかと言うと行政が突っ走ったからです。ところが気がついて住民がかけ算をやっていったんです。ところがです。池田がそのように有名になりだした頃です。池田を舞台にいたしまして、全国から有名な方々、つまり専門家、学者等が集まりまして、町づくりシンポジュームってやったんですよ。その席で、シンポジュームですから段の上に討論をするパネリストっていますね。

コーディネイター司会者が最後にこういう事を言ったんです。「ところでもうそろそろ時間も終りに近づきましたけども、ご登壇の先生方、池田について何か1つコメントをどうぞ。」何か助言・忠告があったらどうぞという意味なんでしょうね。まず1番初めの先生、すばらしい人ですよ。すばらしい先生に「先生池田についてコメントをどうぞ。」って言ったら、その大先生がこう言いました。「池田は問題あり。」「何が問題ですか。」「行政主導型が問題あり。」こう言ったんです。はい次の先生、みんな同じこと言いましたよ。最後に萩原先生と来たんです。私にきましたから「行政主導型けっこう。」って言った。街を良くすることを経験したことがなくて、机上の空論だけで言う人はこういうことを言うんです。行政は街づくりのために給料をもらっているんです。プロです、これは。プロがプロの本領を発揮するのはあたりまえのことじゃないですか。ところが経験したことのない人は、行政主導型が問題。じゃ何だって言ったら、住民参加が先だって言うんです。まちがいですよこれだって。住民参加は絶対必要です。だから強張したいんです。住民参加をする住民は街づくりのプロじゃないんですから。そしたら住民参加を教える人がいなくちゃならないんです。誰でしょうか。それは行政じゃないでしょうか。特に教育委員会なんてのが教えなきゃならないんです。公民館などを通して。ところが教えないんです。教えないということよりも、そういう人たちは、住民参加しないと立場がなくて仕事しないでよろしいなんて言われますから。またそういうの真に受けてやらないものですから、最近そのツケがきてるんですよ。行政改革みた

いな。あれツケですから。で私は今住民参加大事です、それを教えるのは行政だと言いました。行政主導型という言葉使いました。行政主導型という言葉は聞きますと強すぎるんです。もう少しやわらげて申し上げますと、行政が行政の力量を十二分に発揮することでありませんか。行政の職員が力量を十二分に発揮するとはどういうことでしょうか。行政の職員の力量を十二分に発揮させられるリーダーがいないとダメだということになります。リーダーというのは、知事であり市長であり町長であり、村長であるということです。この人たちをひっくるめて、私たちは組長といいます。市長といわずに組長って言いますから。組長さんとはどういう人でしょうか。あの4月選挙ですから、絶対私これ申し上げたいんです。ところが案外理解がないからあえて申し上げます。組長さんとは、この街をよくする能力が誰よりもあるから、オレにさせてくれってなった人です、あれは。私たちもそうだなっと思って投票したんですから。だから自他共に認めてるから、私たちになりかわってなってもらった人です。ということは、はっきり言えることは、役場や市役所や県庁の代表ではないということです。これを間違ってしまうんです。選挙で出しているにもかかわらず、と言うことは、私達の代表として、行政のプロの場へ送り出しているにもかかわらず、行政のプロを作ってると思ってる、私達が自他共にそう思ってるんです。これ絶対間違いですよ。ですから市長、町長、村長、組長さんとは、行政のプロじゃないんです。行政のプロでなければ組長さんになれないという法律があったとするならば、選挙は必要ないんですから。選挙があるということは私達の代表出してることです。ですから常に私達の代表です。ということは何を考させなければならないかと言うと、私達みんなが助けてあげなくてはならない人なんです。ところが日本は不思議です。原則的には選挙で出すわけですから、反対票を投ずる人もいるわけです。そしたら、オレはあの市長に町長に反対票投じたから絶対に賛成できない。議会みて下さい。これがはっきりわかります。オレはあの町長きらいだからってやるんですから。きらいだから反対してるんです。地方自治には反対票を投じた人には、町長ではない、市町ではない、村長ではないと一言も書いてないですから。反対票投じた人にとっても市長は市長、町長は町長、村長は村長、ということは皆が助けてあげなくちゃならんということです。ですから、みんなが助けてくれると思うから、思い切ったことが命令できるんじゃないですか。選挙を気にするから思い切ったことが命令できないんです。思い切ったことを命令できるから、行政の職員は思い切った仕事ができるわけです。住民の側に立ってものごとを考えればですよ。組長さんは、たとえば郷土の職員にこんなことやりなさい。市長、町長、村長というのは、誰にもこの地を良くする能力があるわけですから、誰よりも先に察知するわけです。何をやらなければならないかということを命令したとします。

そしたら行政の方々というのは、まあこの場に行政の方々もいらっしゃいますけど、時々こういうこと言うんです。「町長、それはね、法律が許しませんよ。前例がありませんよ。」と言ったとします。

ところが、行政のプロであると間違っている組長さんだったら、そう言われたら、そうだなあ、しかたがないなあとやっちゃうんです。

自分の側に戸をたてるわけです。ところが、住民がプロと正しいと考えている人は、行政のプロができないと言ったら、「できないことないだろう。君たちはプロだろう。できないんではなく、今この町に必要なんだから、できることを探し出せ。」と言うわけです。だから住民に腕が発揮できるんです。そのことをはっきりと証明している町があります。さきほど言った池田です。池田では、次にこういう言葉があります。「市役所とは、市民の役に立つところ。役場とは、住民に役の立つ場。」ついこういう言葉をかわすんですから。そして、町長が時々暗示を与える人です。「うちの町は帯広まで行かないと、観光客も、住民も航空券を買えないなあ。」と言うわけです。普通の役場では、そんなこともあるのかなあと思って、こっからこっちへぬけますよ。池田は違うんですから。町長は役に立っていないということを言っているんだなあ、ということで、役場の職員が町中探したんです。旅行代理店できる人いないか探したんです。いなかったんです。いなかったら終わりです。よそは。あそこはいないってことは、役に立ってないということで、池田の役場は、給与部長が東京まで行きまして、東亜国内航空の本社に行って、「役場で航空券を発売させていただけませんか。」と言ったんです。そしたら東亜国内航空は「あんた本当に役場の職員ですか。」と聞いたんです。そしたら、給与部長が、「地方自治には不可能はない。」と話したそうです。不可能はありません絶対。そしたら東亜国内航空が「ちょっと待って下さい。」ちょっとって1日2日ではないです。世界中探したそうです。世界中の役所の中で、航空券を発売しているところはないか探したそうです。なかったんです。なかったからおもしろいと言ったそうです。それでやってやろうかということになった。ところが東亜国内航空は、そんなことやったってどうせお役所、できないだろうと思ったわけです。池田は、絶対できないということは言いませんからね。そこで「やってあげます。」って言ったら、池田お金探してきたんです。自治省からもらってきたんですよ。今池田の役場に航空券を発売するコンピューター端末機があります。当然役場の職員が売ってくれるんです。考えられますか、こんなことが。だから教わりますよね。

もう一つ最近教わったことで、こんな町がありますね。山ノ内町ってご存知でしょうか。長野県の山ノ内。山ノ内という町は、志賀高原を持っている町ですよ。下が温泉、山ノ内温泉郷、信濃湯田中という温泉町があります。それから、あそこはりんごの産地

です。４年程前に、私がこの町の長期計画をたてる振興計画、町の計画をたてることで毎日通ってたんです。私プロですから、頼まれたら１カ月程で書いてしまいますが、私絶対それやらないです。私が書いてしまったら、実になりませんから。ですから、勉強会をしながらやりましょうと、一年間かかったんです。行くたびに、幹部の人達と、役場の人達と、町の人達と勉強会をしながら、みんなで作っていったんですよ。夜、温泉ですから、温泉に泊まります。そしたら温泉旅館の若い人たちが、私の部屋へ来まして夜を徹して話をしながら行くわけです。そのうちに農協青年部、商工会青年部が入ってきたんです。そこでその勉強会の名前をつけました。温泉でありますから"ゆかい"とつけたんです。ゆかい、ひらがなで。私いつも言うんです。楽しくしましょうよって。しかめっつらでやったって絶対できないですから、楽しくしましょうと、ゆかいとつけたんです。で、この勉強会を続けていきましたら、町長選になったんです。４期続いた町長が引退を表明して、商工会長さんが、１年前から町長になることがはっきりわかってたんです。すばらしい人です。誰がなったって文句言えない人ですから。私の尊敬する人です。ところがです。選挙の告示の10日前に、ゆかいから我が家に電話があったんです。女房がとったんですね。女房がどういうわけか、びっくりして電話がかかってきたんです。私の出先へ。「何だ」て言いました、「ゆかいから、町長選に対抗馬出すって言ってきましたよ。」て言ったんです。私すぐ電話しました。「なぜ出すの。」と言いましたら、「お前が言ったじゃないか。」って「何言ったの。」と言ったら「お前はね、選挙は手段だと言ったよ。」町をよくするのが目的ですから。ですから、選挙は手段なんですから。ところが不思議ですね。選挙は、相手を誹謗する場だと思っているんですから。手段である限りは、相手を誹謗する必要は何にもないんですよ。相手を誉めればいいんですから。だけど俺は、それ以上のことやりたいと言うべきなんです。間違っている、これが。私いつもそれ言うんです。

これをやっているところがあるんです。この近くで志度町です。志度町の話は、今日は詳しくしませんけれど、志度がみごとやってのけたんです。何年か前にこれを。今の町長さんは、それで当選しました。樫村まさのりさんという町長さんです。尊敬する方のお一人です。で、山ノ内町の話にもどりますが、ゆかいの連中が38歳の若者を出すことにしたんです。「お前は選挙を手段だと言ったよ。町をよくするのが目的だと言ったよ。だから僕達はね、当選するなど毛頭考えません」と言いました。「でも選挙という場は、私達若者達が公に、この町をどうしたらいいかということを公に公言できる場だ。聞いてもらえる場だ。それに使うよ。」と言うんですよ。案外若者達が言っても聞いてくれないことがいっぱいありますから、そこに使うんだと言うんですよ。それならやりなさい、と私言いました。そして選挙になりましたら、６－４で負けたんですよ。10日

前に立って4割とったんです。でも町長立派です。「私が負けたと同じです。」と言いました。言うことが立派なんです。ところが、この若い連中が選挙が終わったとたんに掌かえした。いい意味でです。町長に全面協力。これが地方自治のはずなんです。できてないんです、方々で。ということができますよということを教えてくれます。

次の教訓に入ります。次の教訓は、情報選択能力がいかに大事かということを教わりますね。ブドウを見てブドウ酒と思ったのは、池田だけですから。ワイン、あんなものは外国で飲むもの、方々思いますね。ところが池田は違います。日本人に近い将来ワインをたくさん飲むようになる日がくる、と言ったのですから。だから、同じ物を見ても聞いても自分にどう置き換えれるか。

日本という国は、どんな山の中に行っても同じ量と同じ質と同じ速さで情報がとんでくるんですから。それをいかに早くつかまえるかも大事ですが、それよりも大事なことは、自分にどう置き換えれるかということではないでしょうか。自分にどう置き換えれるか。どう置き換えれるかということは、私の恩師は、ご存知の方いらっしゃると思いますけども、マスコミの帝王と言われた大宅壮一先生です。私はあの先生から偉大なことを随分教わりました。一つとりあげますと、あの先生は、私にこういう事を言ったんです。「萩原、お前はね、人の話を聞いても、物を見てもね、常に化学反応を起こしなさい。」と言うんです。化学反応。「化学反応って何ですか。」と言いますと、こう言いました。あの先生は。「Hというのは水素だろう。」と言うんです。「Oは酸素だろう。いくらHはH、OはOだといっても、ひっつけてもひっつかないよ。でも、これをH_2Oにしたら水になるよ。」と言われたんです。わあ、これだ、と思った。私は。私は人生の糧にしてます。人の話を聞いても、物を見ても、私の話と他人の話と絶対違うものにしようと努めるようにしているんです。化学反応ということも大事だなあと教わりますね。だからとんでもない情報を聞いた。関係ねえやと言って投げてしまうか、自分の教えと経験と化学反応をどうするかが、私は人生にとって、とっても大事なことだと思うんです。それをすばらしい町を教えてくれたんですから、化学反応です。ですから情報選択能力ということは、たとえば、今日私は予算案を出していますね。皆様方は、自分に置き換えて聞いているはずですから。すばらしい経営者と話をしていましたら、とんでもない雑談を自分の経営にパッと置きかえますから。そういう経営者がたくさんいます。だから、そういう企業は伸びるんです。そういう町は伸びるんです。ところがちょっとあの皆様方の住んでいらっしゃる地域。いろいろな県にまたがっていらっしゃると思いますが、このあたりの行政の人違いというのは、情報選択能力が薄いんです。と萩原が言ってたって市役所、役場に言って下さい。絶対あたりますから。なぜそんなこと言うかと言いますと、私が講演会に呼ばれますね。だいたい私の講演は、町をよくする

ために行くんですが。

そうしますと、私の話を一度か聞いたことがある人が音頭をとって呼ぶんです、私を。必ずおっしゃるんです。「お前の話は、うちの行政の人達にたくさん聞かせてやりたいんだ。でもうちの行政は、出てこない。」って言うんです。「いい方法はありませんか。」「ありますよ。」と言うんです。私は。「じゃどうしたらいいですか？」と言うから、「絶対方法ありますよ。」それは、私の肩書きに嘘を書けばいいんですよ。私の肩書き、日本ふるさと塾主催ですね。これでは、このあたりの行政は出てこないですよ。どうやったら出てくるかと言いますと、あの肩書きを消しまして、嘘でもいいんです。それで一番きくのは何でしょうか。建設省と書いておけばいいんです。大蔵省、自治省これは出てきますわ、お役所は。議会を休会にしてでも出てきます。冠婚葬祭なげうってでも出てきます。これは何を物語っているかというと、情報の価値判断が肩書きだけなんです。そういうところが多いんです、このあたりに。それを失くさんと地域よくならん。生涯だって人生だってよくなりません、ということを教わります。

次の教訓です。それは、観光とは、ということです。池田には観光課長がおります。1万2千の町に観光課長がいるんですから。よく皆様方の役場、市役所には商工観光課というのがダブってますから、大体。なぜ観光課長を置かないのですかと聞いたら、観光資源がありませんからとおっしゃる。じゃ池田はあるでしょうか。ありません。でもあります、ワインとステーキです。従来こういうものは観光資源と言いませんから。従来というと、観光とはどんなものを観光と言ってたのですか。

従来の観光は、ほとんど間違ってます。間違った定義を申し上げます。萩原式の定義です。でも、してもらったら困るんだ、本当は。でも敢えて申し上げます。観光とは、よそから来る人の目をいかにごまかして、いかにお金を絞りとってやるか、これやっているんですから。だから、観光とはおみやげ屋と旅館屋のやることだというんですよ。池田見て下さい。観光資源は、ワインとステーキです。ということは、自分達の食べる物、自分達の飲む物、自分達のもの、自分達の自慢のできるもの。だから、これから観光資源を作ろうと思ったら、自分達の自慢のできる物を作ることではないでしょうか。今ある物でも自分達の自慢のできるものに作りかえていくことではないでしょうか。ということを教わります。

次の教訓です。これは先程もふれましたけれども、すばらしい地域には、すばらしい企業には、すばらしい人生を送っている方には、立派なテーマをお持ちです。ということを教わりますね。テーマのない町があるんです、結構。テーマのない町と言いますとどんなことやっていますかと言いますと、皆様方の市役所、役場、こんなことをやってます。役場、市役所で見て下さい。わかりますよ。ある市役所に行きますと、こういう

ことやっていますから。まあ一例ですけど、観光課長が将来に向かって計画をたてます。課長さんというのは、将来に向かって計画をたてるのが商売ですから。農業関係の課長も商売です。工業関係の課長も商売です。商業関係の課長も商売です。大間違いです。なぜ間違っているのかと言いますと、課長さん方それぞれが自分だけの方向で計画がたてる。これは絶対違います。町は一つしかないんですから、目標は一つ。とすると農業も商業も工業も観光もが、最終的には一つのテーマに集中してこなければダメではないですか。ところが、この目標がないから、こうやらざるをえないのですよ。誰が困るか。一番困るのは住民です。それ以上困る人がいます。役場、市役所におります。企画調整課長という人が、一番困る人です。調整しなければならないんですから、調整できません。でも出来なくてもしなければならないのがお役所ですから。で、調整とは差をつけることです。企画調整課長は差をつけたんです。この課長の計画は、削ってしまえ、取りあげよう、差をつける。

私は意地悪いから、こういうことをすぐ聞くんです。「企画調整課長、なぜこの課長の計画削ったんですか。」と言いましたら、企画調整課長、いとも簡単に言います。「ああ削った課長ですか。あいつは僕の後輩ですよ。」と言ったんです。後輩だから削ったんですよと言います。で、この課長は先輩、この課長は後輩、この人近々収入役になるかもしれませんから、と言うんですから。これはね、今お役所を例にあげて言いましたけれど、いろんなところにあるんです。団体に、グループに、会社にもこういうことがありました。だから、こういう町に行きますと、目標など決しておっしゃらないんです。どう目標作っていますかというと、日本で一番多く使われる目標は、"清く、明るく、健康的に"というのが一番多いんですから。隣に行くと逆からいくんですよ。"明るく清く、健康で"というんですから、ナンセンス。

なぜ悪いのか。どこの町かわからないからです。うちの町だ、うちの会社だ、うちの工場だ、うちのグループだとわかるテーマを作るべきではありませんか。ではどうしたらよろしいか。いいお手本があるんです。気がついてみたら。国鉄の特急と急行の名前を見たら、行き先全部わかりますよ。せと、という特急寝台。あれは、あの北海道へ行くんじゃないかと思う人は絶対いませんからね。絶対、乗らなくたってちゃんとわかりますよ。

特急寝台出雲、九州行くという人はいません。山陰へ行きます。なぜわかるのか。地元に関係した材料を使って名前をつけている人ですから。これが私コツだと思います。ですから誰が聞いてもわかる材料でつけると、ああ、うちの町のテーマ、うちの会社、うちのグループだということがわかるんだと思います。テーマが大事なのは大きな行事です。筑波万博がしかり。筑波万博のテーマ、皆さん方記憶にありましょうか。私は筑

波万博が開かれる前にある雑誌に、筑波万博はスタート時点もたつくよって書いたんです。これもたつきました。いろんな国が出展できなかった。あれ当たっちゃったんです。悪い当たりだけども。なぜ当たったのかと言いますと、あのテーマの意味がわからなかったんだと思います、私は。日本語ですよ、あれ。日本人の私が、日本語の意味がわからないということは、外国人はなおわからん。だから出せなかったと思います。初めそう思ったんだから。これはむつかしいなと、案の状そうでした。ところが１つの市がやった素晴しい大行事、万博なみの大行事やったところがあります。それは神戸ですよ。神戸はポートアイランド博覧会、私はあれ入ったとたんわかりました。

あーこれは大成功。なぜかと言いますと、テーマが「未来の海上文化都市をめざして」と書いてあるんです。誰が見てもわかる。誰が聞いてもわかるんです、あれ。だから入ってみたら、未来の海上文化都市を目ざすと書いてある。方向にあったものを、いろんな国、いろんな県、いろんな企業出してましたもの。だから終ってふたをあけてみたら純利益64億でしたあれ。ですからテーマというものは、もうどんな場合にも必要だと思いますけど、私絶対地域づくりに必要だと思います。だから皆さん街にテーマがあるかよーく見て下さい。ないんですこれが。テーマがないから皆なが勝手なんです。

テーマがあればイデオロギーが違おうが、政党が違おうが、考えが違おうが、立場が違おうが、その上に立って１つの目標に進んでいくべきじゃないでしようか。どんなに政党が違ったっていいんです。これ目標定めれば。その政党のイデオロギーの違ったふうに伸びてゆけばいいんですから。だから伸びてる街全部そうなんです。と言いますと、そんな材料はない、と言う人がよくいるんです。うちには材料ありませんよ。ない事絶対ないんです。じゃですね、ない事絶対ないという話をいたします。

いろんなものが、心の角度を変えてみたら街づくりの材料になるんです。テーマづくりの材料になるんです。そのいい例があります。たまたま池田という話をしましたから、ま、ここにも池田がありますが、６つあるうちの１つの池田、長野県に池田ってあるんです。大町と松本のちようど中間にあります。えーとこれが長野ですから、これが松本、これが大町ですね。この中間にある池田っていう街に、５、６年前ですが、講演会に行きました。銀行の主催なんです。行きまして１時から４時までの講演会だったんです。話をしてましたら、３時の時刻を知らせるサイレンが鳴ったんです。私話ポッとやめたんです。でサイレンが終った。それで「皆さん今のサイレンはどこ行っても同じ音ですよ。」って言ったんです、私は。「サイレン１つとってもこの街らしいサイレンを鳴らせませんか。」と言ったんです。変な顔していらっしゃるんですよ、皆さん方が。ということは私考えがありました。私はいろんな街へ行く時には、その街の歴史読んでいきます。ですから、ところによりますと、その街の人よりもくわしくなって行きますから。

まあだいたい詳しくなって行く方が多いです。

私の方が、池田の町史を読んで行きましたら、池田には、てるてる坊主てる坊主、てるてる坊主の唄ご存知ですね。これ知らないと日本人モグリですから。てるてる坊主の作詞家、朝原六郎先生が池田の生れなんです。知らないのです、こういうことを。なかなか今、地元知りませんから日本人は。ですから「てるてる坊主の発祥ですよ。だからてるてる坊主のチャイムに直したらどうですか。」と申し上げたんです。と言って講演会終って帰ってきたんです。そうしましたら、追っかけて来まして、ハチ銀行って銀行あるんです。長野県ですから、銀行の本店の経営相談所長さんから手紙もらいまして、手紙に書いてあるんです。私がうちの池田の支店に行ったら、うちの店の連中、支店長を初めとして、胸に手づくりで全員てるてる坊主を下げてるそうです。どうですか、このすぐやるってこと。でも、これ異様に見えますよ。異様に見えるから燃え広がったんです。商工会青年部がこれは大変なことだと、うちの街はてるてるの発祥だ。よし、てるてるのチャイムを作ろう。ところがチャイムを作ろうとする前にオルゴールを作ろうって。オルゴールって言いますと、電話かかってきて受話器にするオルゴールですよ。日本の場合はどういうわけか、オルゴールは白鳥の湖と乙女の祈りしかないんです。ですからてるてる坊主にしよって、三共精器に注文しに行ったんです。最大メーカーですから。長野県にありますよ。ところが断わられちゃった。数が少ないからです。普通これ断念します。そこから立ち上がったんです。町内1軒残らず、注文とって歩いたんです。できました。私の家にあります。今度かけて下さい電話、鳴らしますから。てるてる坊主てる坊主ですよ、うちのオルゴールは。そうしたらチャイムになりまして、それだけで波紋っていうのはおさまらないんです。すごい人ですよ。この話を聞いた朝原六郎先生のご遺族が東京に住んでるんです。これを聞いて感激をして、街へ5,000万寄付したんです。よだれが出ますよ、これ。5,000万も。町はほっとく訳にいきませんから8,000万足したんです。朝原六郎文学記念館ができてしまいました。地元ではてるてる坊主記念館って言ってます。屋根を見ますと雨ガサの格好ですよ。晴れたら金の鈴だって言葉ありますね。天井からこんな大きな金の鈴がぶら下ってる。入場券全部鈴。どうですか、材料はあるものなんです。何もなかったところに2、3年のうちに超一流のものができたんです。これが街づくりじゃないんですか。ですから、道路とか建物作るとかは行政のやることです。でも私達がそういう発想しないと、行政はお金をいたずらによそへ使います。プロなんですから。プロに、私達が市長、町長、村長を通してこういうアイデアを出すことじゃないでしようか。昔の人はそれをやって来たんですね、考えてみたら。昔の人は、遠くを眺められなかったんです。だから足もとにあるものを、今様に作り変えてきました。作りかえる、耕しなおすということを、昔私学校でカルチャ

ーと習いました。カルチャーって言うのは日本語に訳すと文化だそうです。格好のいいものだけ文化だと思っちゃいけないんだなと思った、私は。祖先の知恵を今様に耕し直すことが文化ではないでしようか。実は私は埼玉県に住んでおりますが、埼玉県の隣の県が神奈川県。神奈川県の長州知事が、文化行政というのに取り組んだんです。そしたら、うちの知事がすぐに文化行政ってやったんです。ところが、知事が諮問委員会、文化行政懇談会って言うもの作りまして、そして11名の委員がいらっしゃる。素晴しい委員ですよ。ところが、どういうわけか私のようなものが、文化行政懇談会の座長をおおせつかったことがある。だいぶ前ですけど。その時、お引き受けする時に、知事にこういうことを申し上げたんです。「知事、文化というものを格好のいいものの意味でとったら、私お引受けしませんよ。」って言ったんです。どう言ったらいいかって言うから「文化というのはカルチャーですね。カルチャーっていうのは耕し直すことですね。埼玉県の中にある祖先の血を今様に耕し直せるんだったら、私お引きうけしましよう。それでないといやだ。」って言ったんです。そしたら知事が、よし結構だって言うからやってみたんです。ところがおかげ様で、その当時経験したことがずい分生きてるんです。

例えばの話１つ申し上げますと、うちの近くに小川という街があります。これは和紙の産地です。和紙が全部ダメですね、全国的に。和紙の産地がだめだと言うことは、どういうことだと申しますと、和紙というのは、コウゾ、ミツマタの耕し直しじゃないですか。次の耕し、つまりカルチャー、文化をやらないからダメになっている、と言ったらどうでしようか。ですから知事にすぐ申し上げた。うちの知事は畑って言いますからね。畑和って言うんです。ですからすぐにハタと困るんです。

「畑知事、知事が一番悪いよ。」って私言うんです。小川の町が没落してるのは。「じゃ何だ。」って言いましたら、「知事の名刺は紙でしよう。」と私言った「何で小川の和紙で作らないんですか。」って言ったら、知事が「わかった」って言って、すぐ作りました。小川の和紙で。ところが立派ですよ。全県に号令かけたんですから。これから高校の卒業証書は、埼玉県の和紙で作ってくれよ。これから始まったんです。それがニュースにとり上げられます。全国から自分の県の中にある和紙の産地を通りこして埼玉県の小川の町へ注文がくるんです。だから今までこうだったのがクウーと取り戻した。これが文化化の１つです。

足もとにあるものを今様に作り変えてゆくこと、作り直してゆくこと、耕すことはカルチャーといいました。だから足もとに材料がたくさんあることを今までずっと申し上げてきたんですから。だって山ブドウだってそうですから。足もとにあるんだから。普通だったらあんなもんは見すてるものですよ。最近ここの池田と北海道の池田とが提携いたしまして、確かスモモたくさんなるんですね。ブランデーかな、作ってますよ今。

ですから、今までスモモなんていくらでもあると思ってたんですよ。それを耕し直したらそうなるんですから。それを真剣に取り組まないで、よそから物持って来ることばかり考えてるから、今困っているんだと思います。それでは、もう１つ例を申し上げます。ま、たくさん言いつくせない位ありますけども。もう１つの例は鹿児島県の枕崎です。枕崎って言うと何で有名か。まず北島三郎の歌う漁歌の本場でありますから、ところがあそこで有名なのはカツオです。カツオの大産地ですからあそこは。カツオブシの大産地。で５、６年前の５月に講演会に行ったんです。お昼ごはんをちょうだいしてましたら、午後からの講演会ですから、枕崎の人たちが私にこう言うんです。「先生うちの町は、カツオブシの産地なんですけど、カツオブシがだんだん売れなくなって困ってます。いい方法はありませんか。」って、「ありますよ。」って私言ったすぐ。これねどこででも答すぐ出るんです。と言うのは、どこででもそうですが、自分のところで作ってる物をよそへ売ることばっかり考えてるんです。地元で使いません。この近くで言いますと白鳥。昔行った時に、手袋が日本一だ、世界一だというのに手袋のサインが一つもないから、私言ったんです。そしたら手袋のサイン出しましたよ。ですから「白鳥の人は大川の人は夏でも毎日手袋はきなさい。」って言ったんです。そうあるべきなんです。これは極端な事ですけども、地元で作ってるものを地元で使うことです。私は讃岐へ来ますと、３度が３度でもウドンでいいんです。大好きですサヌキウドン。東京とか埼玉で食べますと全然違いますよ、同じウドンでも。ところが何年か前に、この香川県の中小企業家同友会が共同求人をやった。記念講演があって私呼ばれたんです。その時に、ほとんどこの近くの出身の人達ですから、私聞いたんです。「皆さん讃岐うどんの本場ですけど、讃岐うどんを作ったことのある人手上げなさい。」一人もいないんです。そしたら回りで聞いていた社長さん達が、これは大変なことだと思ったんでしようね。すぐやりました。と言うのは讃岐うどん作りました、みんな一緒に。うまかったですね、あれは。地元で作っているものを、地元の人が自分達でかわいがらないんですよ。物事っていうのは、何でもそうですね。魚をとっているにもかかわらず、よそへ持って行って、よその市場から買ってくるところだってあるんですから。ですからカツオブシの産地なんだからカツオブシが売れない話しますから、私「いい答がありますよ。レストランや食堂やホテルにカツオブシとけずり器絶対置きなさい。」って言った。枕崎だから。置くようになりました、全部とは言いませんけども。カツオブシというのは、最近の人はあのビニール袋に入ってるのがカツオブシだと思ってますから。昔は削ったんですからね、一生懸命ガリガリガリガリって。あれなくなったらだんだんダメになっちゃったんですよ。化学調味料に取られてしまいましたから。それから話がずっと進みまして、カツオが１本釣り、アミですくわれてしまう。１本釣りがすたれていってしまう。と聞

いたから大問題ですよって教えたんです。１本釣りがすたれるということは、祖先の苦労が忘れられるんですから。１本釣りをスポーツにしなさいって、私言った。スポーツにしましたよ、１本釣り。今さかんです。よくテレビに出ますから。よっこらしょってやってますから。おそらくあのスポーツが、将来オリンピックの種目に採用される日がくるんじゃないかと私思います。いや、これ採用されないとは限りませんよ。スポーツなんていうものは、その時根ざしたものが長い年月かけて行くうちに、あのオリンピックに採用されるんですから。

それから５月ですから空を見あげたら鯉のぼりが上っているんです。カツオが売れないと言って何であなたがたは鯉のぼりあげておくんですか。答わかりますか。これ本当の話ですからね。今、枕崎の空から鯉のぼりはなくなりました。カツオのぼりですよ今。本当の話ですこれ。カツオ・マグロ協会が喜こんでお金出してくれたんです。そして東レ、私のうちの鯉のぼりももらったからやめたんです。カツオのぼりです。近所の人が５月にお宅の鯉のぼりは模様がかわってますねって言ってくれますから。さあここで考えなきゃならない事があると思います。鯉のぼりは日本人は季節になりますと、空ところ狭しと泳がせるんです。泳がせないとバチがあたるという法律がないにもかかわらず、アレ泳がしてるんです。なぜでしようか。答えは簡単だと思います。鯉のぼりを作った人たちの愛情と努力と関係者の愛情と努力のかけ算ではないでしようか。あれあげなかったらバチがあたるってことじゃないですから。だから物事と言うのはよく考えてみたら、必ずどこかで、誰かが作ります。それがなくなるか伸びるかは、どこに差があるかというと、それを作った人達の愛情と関係者の努力と愛情だけじゃないでしようか。物事というのは全部愛情です。

こいのぼりは中国だそうですね。一番最初に出来たのは。それがあれだけ日本で所せましと泳いでいるんですから。それは例えば、四国なんかの影響もありますね。四国でこいのぼりの産地ありますから。その人達の努力ですよ。だから何でもそうじゃないですか。物事っていうのは、何でもと言いますと、人間も同じです。人間もかわいがるかどうかでその人がすばらしい人になる。あるいはどうにもならなくなる。ただし、なくなってからでも、人は育てられるんです。その証拠がありますから。山口県の萩、萩というと、どなたもすぐ観光地。こう言います。じゃあ誰がそうさせたんでしようか。あそこから偉大な人が生まれてますね。吉田松陰先生。あの偉大な人が生まれているわけです。ところが、私あそこ偉いと思います。あそこで先生と言いますと、吉田松陰先生ですよ。名前つけないで。新潟行って先生と言いますと、田中角栄先生ですよ。ちょっと余計な話しますけど、こういうことがあるんです。新潟の先生の生まれた所はどこかと言いますと、西山町なんです。新潟からちょっと離れた所です。西山町にどういうわ

けか最近毎年呼ばれるんです。4年ほど前に西山町に講演会に行きまして、これは商工会青年部の主催なんです。私呼ばれた時におかしいなと思いました。私が、なんであんなとこ行くのかなと思ったわけです。で、新幹線の長岡で降りまして、お迎えの車に乗って、少し走りました。北陸自動車道だったわけですよ。それから少し走りますと、インターチェンジ、西山インター、うわあすごいなあと思った、私は。いつかみなさん暇がありましたら、新潟県の大きな地図見て下さい。北陸自動車道は、どう入ってるか、西山に。わざわざ曲がって入ってんですよ、あれ。すごい威力だなあと思いましてね、私は。すごいマグネットというか。で降りていったんです。インターチェンジの近くに。そのあたりに似つかわしくないようなすばらしいお屋敷。へいを巡らした。ピーンときたんです。商工会の青年部の人達に、「このお屋敷はどなたの。」と聞いたらすぐ出ました。「うちの先生のです。」先生、あそこは名前つけないで言う先生は1人ですからね。名士の先生ですから、そして、道路を見せてもらったら、すばらしい、ピカー。私意地悪く質問したんです。「これだけ恵まれている町に、なぜ私の話が必要なの。」聞いたら、若い連中に怒られたんです。「違いますよ、先生。」「なんですか。」と言ったら、「うちの町づくりの必要ありますよ。」「なぜ。」「うちの町は今たかりで。」って言いました。ゆすり、たかりのたかり。どんなささいなことでも西山町に関することならば、先生絶対いやだと言わないそうですよ。言えないんですって。「よっしゃ!!」て、全部やってくれますから。だから、うちの町は県庁はいりませんって言ってました。日本で県庁いらないって豪語するのはあそこしかないです。ところが、その次の若者の言葉に、私感じ入ったんです。「ですから、この甘えの根性をたたき直さないと、僕達は、子供達や孫達に顔向けできませんからね。」若者が言うんです。困ってないのに、困ることのわかる若者達がいるんです。困ってるにもかかわらず、困ってることすらわからない若者がたくさんいる町がありますよ。

それから甲府、昔講演会がありまして、コーヒーを飲みながら講演会の前です。信玄信玄って言ったんです。そしたらつつかれまして、「先生、信玄公って言って下さい。」どうですか。そういう所から素晴しいものが生まれますよ。萩を見て下さい。吉田松陰先生って言ますから。ところが吉田松陰先生は偉大な方だから、あの人の徳をしたって、大勢の人が萩へ行くわけです。そして松下村塾の跡を見たり、松陰寺を拝んだりして、その次です。それだけでは二度と来ませんよ。ところがあそこは街に個性があるから、帰って行って、あそこはきれいだぞ、素晴らしいぞと宣伝してくれるんじゃないでしょうか。だから次から行く人は吉田松陰先生関係なしに行くんです。あれ見てたら関係ないですからね。松下村塾なんていう字を読むと、最近の人は「松下電器の塾ですか。」って言う。吉田松陰先生は素晴らしい方、素晴らしい方に違いないですが、あの方は人

の子ですよ。さらに先生はいます。あの方の先生は、信州が生んだ佐久間象山先生、佐久間象山門下には素晴しい弟子がたくさんいたと言われております。とくに素晴しかった弟子が３人いたそうです。それを称して象山門下の３傑って言うんだそうです。そのお１人が吉田松陰先生、さあ、あとの２人を知らない日本人は、何を物語っているんでしようか。これは土地柄を物語っていると思いますね。萩という地柄は、吉田松陰先生が亡くなってから育てあげていったんです、あれ。あの方罪人ですからね。首ちょん切られたんです。でも地元では罪人とは思わないんです。まず戦争中は忠君愛国の先生って言われてたんですから。戦争に負けたとたんに平和の先生って言われたんですよ。堂々とやってのけるから誰も不思議に思わない。あれは土地柄です。だからあの土地柄は総理大臣を何人も出すんです。皆さん方の土地総理大臣出してますか。出してない所はどういう所かって言いますと、足引張りの上手な所は出せないんです、なかなか。まあ総理大臣出すのがいいのか悪いのかは別ですよ。ですけど、土地柄がわかるんですから。ですからそういう風に、何でも物は作り変えていかなきゃならんのです。その作り変えることのわかる人を作らなきゃだめだと言うことですから。ということは、足もとを見直す人を作らなきゃだめだと言うことです。それを県ぐるみやっているのが大分県なんです。これうれしい話ですけど、平松知事は私の本を読んで下さったんだそうですよ。私の本の中に、例えばLove 四国だとか、I love 四国、ま、１つの例ですよ。と言うような事を書いてある、私が経験した事を。それを読んだ平松さんが、よし大分県だからI love 大分っていう運動を起こした。I love 大分の頭文字を書いてみたらＩＬＯ、これは何だと言いますと、国際労働機構になっちゃったんです。おもしろいですよ、あの人と話してたら。これは失敗だということで考えなおしたんですよ。L.L.O, Let's Love 大分、意味はそう違いませんからね。ところが、それからが偉いんです、あの人は。Let's Love 大分で、他はここで終ってしまうんです。何が問題か、何をやっていいのかわからんのです、これでは。だから、何でもそうですけども、末端の人がわかるように教えていかなければダメです、これ。それを言葉をかえて言いますと、同じ土俵に上げる努力をしなければだめです。同じものを見ても同じに聞ける人を作ること、同じ話を聞いても同じに聞ける人を作ることじゃないでしようか。そこで私が、一村一品ってやったんです。一村で一品って言うのは、どんな町でも村でも何か１つ品物を作りなさいじゃないんです、これ。もちろん作らなきゃならんですよ。でも品物を作るんだったら金がありゃできるんです。金がない時代に唱えてるんですから意味が違うんです、これは。なんて言いますと、お前大分県じゃないのにそんな事言って本当かって言われたら困りますから。私は、３年程前の元旦に、大分テレビでこの話をしてるんですから。一村一品とは、こうですよって。私大分県で話したんですから、間違いない話ですよ。

で一村一品っていう意味は、その前に一つの意味があるんです。それは、どんな街でも村でも自慢を１つ作りなさいと言うことなんです。知事が言います。「自慢は物であればけっこうだけども、なければ名所、旧跡でもよろしい。民謡でもよろしい。」こう言ってるんですから。だから一番始めに言いましたね。自分の街を自慢できない人がいくらいても街はよくならんよって。そういう人づくりで、ですから基盤は豊後の国ですから、豊の国づくり塾って言うんです。これもうれしい話です。知事がお前の日本ふるさと塾の大分版やらせてもらってるって言うんですから。ですから人づくりなんですよ、一言で言いますと。自分の住んでるところが自慢できる人をつくる。自分の街に自慢が持てますと、どんなものにもそういう材料がわかってくるんです。さっき言ったのもそうですから。ですから大分県は、そういう人づくりをやってると言いますけど、人間っていうのは、こういうすばらしい人がいるなって言うことですよ。と言うことは案外ご存知ない話ですから、あえて申しますけど平松さんっていう人は、どういう人って言えばいいんでしょうかね。学ぶ事がたくさんあります。例えばの話です。私が大分県内の講演会に行ってきます。県の主催じゃありません。私知事知らない頃です。講演会に行ってきます。そしたら帰ってきたら、知事からちゃんとお礼状が来ます。ありがとう。よそは絶対ないです、これは。知事はおろか市町村長も来ませんよ。「ありがとう」なんてのは。あいつはどっか他の団体の講演会に来てるんだろう程度ですから。でも私が行くということは、その街、その地域をよくしようというお手伝いに行くんですから。ですから、一番トップは誰だと言いますと知事ですもの。「ありがとう」言うのは当り前。ちゃんとできる人です。ところが兵庫県でこういうことがあったんです。兵庫県の西脇で講演会やったんです。去年ですね。そうしたら隣りの中町っていう街があります。中町の方いらっしゃいますか。中町のメガネ屋さんで小島さんっていうんです。あの方有名ですからね、街づくりを一生懸命やってる人で。この人が私の話を聞いてたんです。で、私その時は人の出会いっていう話をしたんです。知事の出会いの話をしたんですよ。そしたら帰りまして、お店のメガネ屋さんのチラシに、となりの街の小島さんが人の出会いと書いて、私と知事の顔をマンガ風に書いてのせたんです。お客さんに配ったんです。私のところにそれを送ってくれた。

あー小島さんやったなと思ったんです。そしてチラシがうちに届いて２日たってからです。平松知事から手紙もらったんです私は。あれ今頃知事が何よこすのかなと思って聞いてみたら、手紙にこう書いてあるんですから。「兵庫県の中町のお店のチラシに、また私を評価してくれてありがとう。」って書いてあったんです。どうですか皆さん、これできますか。もう私びっくりして、すぐ小島さんに電話したんです。「小島さん、これ何事ですか。あなた知事に送ったんですか。」「とんでもありません。私、知事知

りませんからね。」何でそういうことができるんですかね。私、今度行ったら聞いてみようと思ってます。答は、わかるんです。あの知事には、全国にファンがたくさんいるんです。日経新聞でアンケートとりましたね。日本の上場企業の経営者に知事の中で誰に会いたいか。平松知事、一番なんですから。誰かファンがそれを見てすぐ送ったんですね。でも秘書が書いた字じゃないんです。自分でパパパっと書いてあるんです。すごい人だと思った。私は大分県のとりこ。どうですか、これだけ話ししたら大分知事ここへ来たら当選しますよ。大事ですね人としては。本当大事なことです。ということができるから大分県は、ああいう事ができるんだと思います、私は。自分が人づくりしないで、人に人づくりやれったって出来るわけないですから。という事が教わるんです。ですから、そういう事をやってる大分県の基盤を流れているのは何かといいますと、それは地元を知りなさい、ということなんです。地元がわかればいろんな材料がわかります。そして地元がわかれば、宮崎交通バスガイドがパッと見事に教えてくれました。ふるさとが好きになったんですから。先程愛媛の人の例を言いましたけど、最近中学校の講演会に行きまして、予備知識なしにパッと質問することがあるんです。「一番前の君、君はこの街好きですか。」「きらいです。」って言いますから。きらいですって言うんですよ、先生前にして。この間も女の子に「あなた好き、この街？」「いやあ、好きでもないけど、どちらかというときらいかな。」という子供を教えてる先生が日本中にたくさんいるということです。それが教育なんでしょうか。親も学校の先生もこのことに気づいてないんです。でも、私は宮崎交通バスガイドが、ふるさとがわかったら、ふるさとが好きになったって言いましたね。どんな人でもふるさとがわかったらふるさとが好きになります。という証拠を１つお目にかけますから。これから申し上げますのは、私事になりますので恐縮ですけど。私が息子から教わった話をちょっと申し上げます。私のうちには男の子ばかり４人おります。今一番下が20歳になっております。

まず、他の人と比べて一番抜きん出ていることは何かといいますと、勉強が大嫌いだって言うことです。

これから申し上げるのは３男坊主です。今もう23才になっておりますが、中学２年生で北海道一周をやりました。３年生になりました。高校受検です。ところが全然勉強しません。うちのすぐそばには日本で有名な高校があるんです。もう進学率がきわめてよろしい高校があるんです。浦和高校、あんまり近くにあるものですから、うちの息子は試験を受けなくても勉強しなくても毎日入っていけるんですから。そんなわけで勉強しないかどうかわかりませんけどね。その息子が３年生になりました。３年生になって、「僕はこの夏休みには日本一周やろうかな。」って言い出した。日本一周。私は即座にやりなさいって言ったんです。なぜ即座にやれって言ったかと言いますと、意味がある

んです。物事には目標が必要だって言って来てますから、子供の教育、人生には絶対必要だと私思います。ですから私、息子達には勉強しろって絶対言いません。言わないかわりにうるさく言うことが１つあります。それは中学の２年生の間に人生の方針を定めなさい。これは、うるさいんです。２年生というのは元服ですから。２年生で方針が定まります。見てたらわかります。２年生の時に大学決まります。大学決まるから高校決まります。高校決まるから、中学の時にどんな勉強をしなきゃならないか決まるようです。だから勉強しろと言わなくていいんです。うるさく言うもんだから、４人とも当初定めた方向に進んでますから。３男坊主は、「僕は将来旅行作家をやるよ。だから僕は高校へ入って日本一周をやって、大学はいったら世界一周をやるよ。」って言ってたんですよ。その高校でやる日本一周を中学でやるって言うんですからね。でも繰上がっただけですから、目標に沿ってますからやりなさいと私言ったんです。そしたら３万円下さいって言ったんです。３万円渡したんです。内心よかったなと思った私は、なぜよかったかと言いますと、３万円で日本一周できるわけないからです。途中で絶対痛い目みますよ。私は子供の教育なんていうのは、自ら痛い目に合わすことだと思ってますから。あの戸塚先生の手をわずらわすまでもなくです。３万円渡して知らん顔してたんです。そしたら本人は、寝袋とテントと自転車かついで上野から青森まで汽車で行ったんです。そこで自転車を組み立てて、そこから日本海側を走りだしたんです。８月５日、島根県に浜田という街があります。浜田市の創立記念日の記念式典記念講演会やったんです。大きな会場で、話の最中でした。上の方のドアがあきまして、異様な男が入ってきたんです。私は誰か間違えて入ってきたと思ったんです。即座に帰るかなと思ったら入って来ちゃったんです。ずーっと歩くんです。おりてきちゃった。端に座ったんです。話をしても気になりますから、横目でチラッチラッと見てましたら、どこかで見たことある顔。うちの息子。まあしかたなく泊めてやりました。ところが、臭くて臭くて臭くて、鼻がもぎれそうですねあれ。洗っても落ちませんから。それで翌日別れて私は家へ戻る。浦和ですから。本人はさらに自転車で下関へ向かったんです。下関へ着いてからわが家へ電話があったんです。女房がとったんです。金が余ったからもう少し足のばしていいかしらって。女房許可したって言いますから、心配になって来た私は。ふところぐあい全部知ってますから私は。話が前後しますけど、なぜ余ったんだって、いろんな話がでてきました。その中の１つ、こんな話がでてきました。自転車で走ってますと信号が赤になる。自転車止まる。その横にダンプカーが来て止まる。上から見おろすとうちの息子の自転車の背中には埼玉県浦和市って書いてありますから、浦和の街がどこにあるかは、ダンプカーの運転手さん、ほうぼう走ってますからわかります。上の方から感心したような声だして聞いたそうです。「お前浦和からきたのか。」って、「そうです。」

「どこ行くんだ。」「日本一周です。」そしたら必ず「大学生か。」「違います。」「高校生か。」結局中学生ってわかるんです。信号青になる、自転車走りだす。ダンプも走り出します。そしたらダンプカーの上から1,000円札が2、3枚降ってくるそうです。とっとけって言って。

許可をもらったもんですから、福岡から大分へ行って別府から宇和島へ上ったそうです。足摺通って、高知通って金比羅詣でして、阿波踊りして淡路島を通って帰って来ました。無事だったんです。安心したと思われますでしょ。ところが、心配1つふえたんです。と言いますのは、先程言いましたように僕は大学入ったら世界一周って言ったんです。繰上がったんですから、来年高校ですから。だから「お前来年高校で世界一周やるつもりか。」って聞いたんです。何と出るかなと思ったら「やめたよ」って言いました。やめたんじゃありませんよこれ。後で言いますけど。なぜやめたんだって聞いたんです。そしたら、息子の答はこうでしたから。「僕は去年北海道を見た。今年は日本をだいたい見ることができた。見れば見る程日本という国は素晴しい国だと思ったんだ。だから僕はもう少し日本がわかってからでないと世界一周はやらないよ。」よかったと思った、私は。一瞬宮崎交通のバスガイドの話がわかったんです。同じことじゃないですか。私は息子の話をしようと思ってやって来たわけじゃありません。先程言いましたように、今の教育というのは、うちの街きらいだという教育してるんですから。全部とは言いませんけども。どんな子供でも、うちの息子と同じような宮崎交通バスガイドさんと同じようなことをやってくれたのは、絶対日本素晴しい、この街素晴らしい、ということを言うだろうということをいいたいために、この話をさせてもらった。

ふるさとがわかるということは、そういう効果を生むんです、何故なのか。あえて考えてみました。私なりの答こうです。日本民族は、農耕定住民族だと言ってきました。祖先の土地を受け継いで、切り開いて、さらに子供達に受けついでゆくんです。同じような場所で土地が増えて、人が増えて、村ができて、集落ができて、そのまん中に日本民族は、必ず何かを作りました。何でしょうか、お社、お寺。何故かということです。あの中にお祭りしている人を見ればわかりますから。すべてご祖先です。学校で習いましたね、昔先生から。祖先の霊をまつるまつりが祭りの語源だぞって。お社、お寺ということは祖先に対する感謝のあらわれじゃないでしょうか。このことは私達の今に置きかえたってわかります。夏の暑い外へ出て行って、クワをかついで、田んぼや畑にクワを入れるんです。田んぼとか畑というのは、なにしろ昔はほとんどが農民ですから、田んぼや畑にクワを入れるというのは、田んぼや畑は、お父さんお母ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、ひいおじいちゃん、おばあちゃんが苦労して切開いたところですもの。それにクワを入れるんです。

夏ですから、暑いなつらいな。汗を流せば流すほど、どんな人だって、心のすみにはお父さんお母さん若労したんだな。おじいちゃん、おばあちゃん苦労したんだな。絶対考えてるはずです。それが農耕定住民族の毎日の生活。しかもそれが1000年、2000年、3000年毎日が感謝教育ですもの。じゃないでしようか。私考えました。それが1000年、2000年、3000年と流れてきた。そうすると日本民族の血を外国人が本に書いてるんです。感謝民族の血だって。なぜ、日本古来の宗教を見なさい。すべて感謝宗教。成程なと思うんです。その血が流れているんですから、私の中に。戦争負けたから感謝民族の血変わるなんてありえません。しかもそのことを私の子供や宮崎交通のバスガイドさんが教えてくれているんです。

そんなことがわかりまして、当時ＰＴＡで私学校へ行ったんです。先生にお願いしたんです、遠足のやり方。皆さん方のところの遠足はどうやってるかわかりませんが、私の所の遠足は子供をバスに乗せて連れてって弁当食べさせて帰ってくるだけなんです。意味ないって思うんです。バスで連れて行くのはしかたないです。バスで連れて行ったら先生と子供が同じ条件で山とか昇って欲しいんです。その時の先生の一言が子供達に「いいか君たち。今昇っている道はな、おじいちゃんやおばあちゃんが苦労して切り開いたんだぞ。だから、おじいちゃん、おばあちゃんが、その時どれだけ汗を流したかわかるな。」子供達、汗流して登りますからわかります。「そして、おじいちゃん、おばあちゃんは、マキを背おっておりて炭を焼いたんだぞ。」素晴しい感謝教育であるはずなのに、これがないんです。

ＮＨＫの朝早い番組に日本列島朝一番、私ときどき出ますけど、こういう場面があったんです。農家の子供達を集めまして、アナウンサーが１人１人マイクを向けて聞くんです。「君は、お父さん、お母さんの田んぼの仕事を手伝ったことありますか。」「ありません。」「君は？」「ありません。」全部ないんです、ない子供ばっかり集めて来たと思った私は。そしたらアナウンサーが答える子供に、「君はなぜないの。」って言ったら、高校生の子供がどうどうと言いました。胸を張って「うちのオヤジはお前の仕事は勉強だ」って言いました。「田んぼや畑に出てくる必要ない。」って言いました。農家の子弟ですら土地を肌で接することのない教育をやっているんですから。これは農家ばかりじゃないんです。一般家庭も同じ。今の子供達は勉強部屋持ってますから、学校から「ただいま」って帰ってきたら、まず、うちにいるお母さんがすぐに言います。「勉強しなさいよ。」勉強部屋へねじ込んでしまうんです。昔は同じ１つ屋根の下で、おやじ、おふくろがけんかしてました。あれ感謝教育です。おやじ、おふくろこぼしてました。あれも感謝教育。目の前でおやじ、おふくろの苦労が見えたんです。肌で感じてたんです。よく後継ぎがいないっていう業種があります。ところが後継ぎがいないと

言われている業種であっても、場所が違うとちゃんといるんです。それは輪島塗りなんです。石川県の能登半島のはしにある輪島です。あの輪島塗は素晴しいですから。値段も高いですけど。

ところが行ってみて、なぜ後継者が育つのかがわかりました。おやじやおふくろが子供の目の前で仕事してます。だから子供の頃からおやじ、おふくろの苦労を見てるんです。だから黙っていて感謝教育されてるんじゃないでしょうか。

いたる所から感触がなくなってくる。当然出る答は、校内暴力、家庭内暴力、非行、そんな事出てくるのは親なんです。社会が悪いなんて言いますけど、社会は悪くありません。社会は空気ですから。悪いのは親です。なぜならば、今の親はふるさとを教えません。皆さん方だって、学校でてどうやって教わってきたか考えるとわかります。答は。だからいろんな問題を起こすのは親です。ですから、直すのも親じゃないでしょうか。そして直すのは親と、この大地、母なる大地、母なる海だと思います。だからこの足もとに、ここが土庄とするならば、土庄という教科書があるにもかかわらず、教科書と見てないということです。足もとを見なさいというのは、そういうことだと思います。足もとに材料がいくらでもあります。親子の話に戻りますが、うちの息子、54年に中学を出たんです。16になりました。日本がわかったと言い出したんです。わかったと言うことは、世界一周やりたいっていうことですから。いつかやるんですから、やりなさいって言った。16の夏、成田空港を飛び立ちましてタイのバンコクに降りました。金はそこまでしか持たしておりません。いらないって言ったからです。あとは途中でかせぎながら、ヒッチハイクを続けながら、17才の誕生日はポルトガルで迎えたようであります。18才がスイスだったって言います。それから音信が途絶えまして、今だから笑って言えますけども、女房と相談してたんですよ、真剣に。いつ葬式出そうかって。本当なんですこれ。ところが半年位たちましたら、アフリカのザイールから手紙が来ました。生きておりました、あれ一番西ですからね。だから東から西へ半年かかったことになりますね。まあなんとか生きてたわけです。で、息子から2ケ月に一ぺん位手紙がまいりますが、親の私教わるんです。文章の面じゃありません。文章だんだんダメになるんですから。自ら書いてあるんですよ。日本大使館へ寄ったら、日本語使うことに苦労するようになったって書いてあります。しかたありません。日本にずっといませんから。ところが肌で接したことを書いてくるから教わると思うんです。あの息子が日本を立つときに必配が1つあったんです。それは生きるか死ぬかではありません。私の心配は英語が1つもわからないということです。英語嫌いですから、英語ぐらい勉強したらどうだって言いましたら、なんとかなるわって出て行っちゃったんですよ。

ところがビルマへ着いた時の手紙にこう書いてありました。「ここへ来てみたら、英

語なんて勉強しなくても大丈夫だった。なぜならば、何国語も通じなかった。」と書いてありました。私それ読んだ時に、日本人ってのはぜいたくだなと思いました。日本語通じてます。でも心は必ずしも通じているとは限りませんから。うちの息子は、16で出て行きまして、私、ああもう終りだと思ったことがあるんです。それは、ソ連軍アフガニスタン不法侵入巻き込まれたんです。生きてるんですよ事実。難民といっしょに逃げて。手紙来たときに、ああ、もうこれで終りだと思いましたね。そして中近東の動乱の中をくぐっていった。鉄砲の中を。それでも生きているんです。言葉わからないのが。3年間たって帰って来ました。20才になって。それが不思議でしたから、いろんな話聞いて総合して判断しますと、何で生きていたんだろうか、言葉がわからないのに。でもその答は、私なりの答は、心と心のつながりあい。これしかないと思う。

でもおもしろいです。英語1つもわからなかった子供が、帰ってきたら何とか英語、ドイツ語、フランス語、スワヒリ語、タミール語使ってますから。まあなんとかですけど。で、息子はアフリカへ着いたときの手紙にこう書いてありました。

ここへ来てみたらあれだけ餓死者が出るのかがわかる。なまけ者だって言ってました。でもそうさせたのは先進国の長い歴史の罪だ。そうですね、本当考えてみたら。そしてアフリカにはいろんな援助物資が届いているはず。それが末端に届いていない。それがわかるのは、ブラックマーケットへ売りに出てるそうです。横流しだって書いてありました。息子から、そう言ってきたんですよ。手紙に。

心と心のつながりと言いますと、一昨年8月大分県の別府市が小学校4年生から中学2年生までの子供達を、正確な数字でいいますと551名韓国へ連れていったんです。少年少女親善使節団、これついて行ったんです。むこうへ行ってみたら言葉全然通じません。手マネ足マネで2日間のふれ合い、まるまる1日。ところがですよ皆さん。帰りの港で言葉のわからない子供達が、抱き合って泣いて別れるんです。船が岸壁離れる時にテープにぎり合いますね、泣いてるんです。私は、あの光景は世界中の人に見せたかった。見せる努力します。あれ見たら世界の平和できることがわかります。心のつながりなんですから。話、元に戻しますが、アフリカに着いて、そんな手紙が来て、アフリカの人達の物の考え方は、自動車も木からはえてくる程度の発想しかないと思うよ。うまいこと言うなと思いました私。だから今一番アフリカで必要なことは、物をお金を送ることではない。アフリカの人を育てる人を送りだすことだ。恥ずかしいと思った私。これ読んだ時に。子供ですら国づくりは人づくりと感じとれるんですよ。何で恥ずかしいと言ったといいますと、私は昔から町づくりは人づくりだよって言ってましたから。ところがこれをわかってくれないんです。ある市長さんから、はっきり言われました。違いますって言った。町づくりって何ですか。国や県からいかにお金をもらってくるかだって

言いましたよ。この市長は1期も続きませんでしたけどね。そう言った大人のたくさんいた時代に、16、7の子供が国づくり人づくりと書いとるんですよ。ですから、その時私は、いろんな事を考えましたね。まず1つは、やりがいがあると思ったんです。そういう事を感じとれると言うことは、若者達の心はきれいだからです。感性豊かだからです。だから、そういう子供達について行けるのです。そして私は、その時にこんな仕事を続けながら、初めて街づくりという意味がわかりました。街づくりとは、感性豊かなきれいな子供達の心をそのままに育てあげてゆくこと。これしかありません。だからロータリアンの皆様が、こういう事をおやりになるんじゃないでしょうか。私意味がよーくわかるような気がするんです。だから中学生位から、まだまだ子供の頃から、感性を磨いていかなければダメだと思うんです。だから私はそういう子供達についでゆける幸せを感ずる時があります。そして街づくりとは、そこに大きな意味があるんではないでしょうか。それこそ街づくりじゃないんでしょうか。ところが、皆さん方も先輩になると使う言葉があるんですよ。「今の若い者は」っていう言葉使うんですけども。私達は黙っていたら老いてゆくんですから。年とってゆくんですから。そしたらどうすることか。人生というのは、若者達や孫たちについでゆくことですから。ついで行くべき若者達を、私達が「今の若い者は」という言葉使ったら、これは絶対スムーズにつながっていかないということなんです。それの理解できない人がいっぱいいるんです。

ですから、「今の若い者は」という言葉は、天にツバする言葉です。これが真の底からなくなったら、私はまだまだ町も国も社会もよくなると思いますね。ところが、私も今そんなことを言いましたけども、かつては「今の若い者は」と言葉では言わなかったかも知れないけども、そんな気持ちを持ったことがあったんです。ところが、私は心の底から「今の若い者は」なんて言えないなと教わったことがあるんです。それは、今から19年前です。43年です。日本で初めて船を使った大学を経験しました。大平洋大学っていう。当時船がなかったもんだから、ギリシアから船を借りたんです。全国から600名の学生の男女を乗せて、勉強しながらアメリカへ渡りました。アメリカの大学と交歓して帰ってきたんです。で日本で洋上スクールの走りですから、名誉学長は、マスコミの帝王といわれた大宅壮一先生です。それから学長は、世界で有名なジャーナリストです。たしか兵庫県出身じゃないですか。大森実さんです。あの方はアメリカへ行った方が評価高いんです。私一緒に行ったことがある。むこうの議員が本当にあの人に教えをこいにきますよ。大森さん、学長ですよ。それから講師陣、草柳大蔵、扇屋正造、梶山利之、萩昌弘、小山内寛、法政の近橋教授、上智の遠山教授。どうですか、そうそうたるメンバーですよ。でも中にそうそうでないのが1人乗っていました。萩原茂裕です。船の旅は楽しいんです。若者と一緒ですからね。男の学生が、「先生、風紀上よろしく

ないから取締ってくれ」って言うんです。「何が風紀上だ」「男の学生と女の学生が抱き合っている。」ヤボな奴がいるんですよ中には。だって世の中は男と女しかいないんですから、抱き合って何で悪いんだろうと思う私は。と言ってくるのは若い連中ですからね。その男、私しばらく興味あったから観察したんですよ。わかりましたどういう奴か。モテない奴。そしてまたある学生が「先生、日付変更線を通るそうですね。」って言った。赤道を船が通る時に赤道祭ってやりますから、「日付変更線通過祭りをさせてくれませんか。」って許可求めて来たわけですよ。許可をしたんです。準備にとりかかった。それを見ていたのがギリシヤの船長。こっちの部屋へとんできた。そして「あなた方、日付変更線通過祭をやるそうだけど、大いにけっこうだ。だけども大事な事忘れているよ。」「何が大事ですか。」って聞きましたら、「日付変更線を通ってすぐに通るところにミッドウエー沖があるよ。」って言われたんです。私はもうあの時、なぐられたような気持ちになりました。知らないで通るところだったんです。私たちの年代にとっては、忘れることのできない事ですからね。例のミッドウェー沖海戦のあったところです。戦争知らない方もご存知ですね、今なら。昭和17年6月の3日と4日と5日のたった3日間、日本の連合艦隊めっちゃくちゃ、赤城、加賀、蒼竜、飛竜、当時の子供達が暗記してたんです、これ。これは航空母艦の名前です。しかも沈むことのない航空母艦だと教えられたんです。それが一瞬って言っていい間に沈められたんです。航空母艦が沈んだもんですから、飛行機が300何機海の中へ突込んでるんです。着艦できませんからね。これ、ただ単に突込んでるんじゃないんです。きわめて優秀な人材もろともですから。そして私のお父さんや兄弟達が3千5百何名か今だに海の下です。骨の1かけらも拾って帰れない所ですよ。ギリシヤ人に教わったんです。恥ずかしかった私は。そして頼みました。「船長、そこを通る時に、30分前になったら、こっそり講師だけに教えてくれないか。」こっそり教えてくれれば、こっそり別の甲板へ行って黙とうをささげようと思ったんです。なぜ、こっそりかわかりますね。当時の世相学園紛争ですよ。戦争の話ちょっとでもしたら軍国主義者って。ですからこっそりなんです。船長と帰って相談したんです。この話学生達に言っていいかどうか。通るんですから。それで、言おうっていうことになって、誰が言うか問題になったんです。講師みんな逃げました。だって変な話しましたら、海の中たたき込まれますよ当時は。いい人が乗ってたんです。軍事評論課、小山内寛先生。さあ学生達集めて小山内先生が軍事評論的に話をすすめた。これ問題ないですから。ところが小山内先生が最後にこういうこと言い出したんです。「君たちは、いい時代に生まれて来たんだぞ。」って言い出した。何か感情込めて。皆さん本当なんですよ。今いい時代なんですよ。

今の時点から物を見るからあたり前かも知れないけども、本当にいい時代なんです。

これを私達かみしめなきゃならないんですね。小山内先生それ言うんです。「君たちはね、この平和の時代を後世に伝えてく義務があるよ。君たちこれから通る海の下には3千5百何名かの人たちが沈んでるって言うけども、その人たちの年かっこうもよーく考えてくれないか。君たちと同じなんだぞ。」って話し終ったんですよ。学生達が軍国主義者ってくるかと思った私は。誰も言わなかったです。黙って皆な別れて行きました。年格好同じだと言いましたが、あの海の中に沈んでる人たちの年令、皆さんご存知ですね。16才、17才ですよ。先程、私宮崎の話をしました。宮崎の近くまで行きますと、私無理をして出かける街があるんです。必ず行きます。それは鹿児島県の知覧という街です。知識の知、展覧会の覧」と書く街です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、かつて戦争の時、あそこから特攻機が飛び立って行きました。日本最南端の基地のあった街です。私の先輩達が何人も飛び立って行きました。でも私の先輩は1人もこの世へ戻って来てくれておりません。今生きててくれたら日本を背負って立つような人ばっかりなんです。ですから、私あの近くへ行きますと、無理をしてこの街を訪ねるんです。この人達の霊をなぐさめたいんです。ですから特攻神社を必ずお参りします。そしてそのあと必ずと言っていいくらいに、この人たちの遺書を納めてある特攻記念館へ入るんです。そして遺書を読むんです。遺書を読むことだけでも慰めだと思って行くんです。何度も行ってます。何度も行ってますが、あの日は全部読みきれないのです。なぜかと言いますと、こういう遺書があるんです。15才と書いてる遺書があるんです。考えられますか皆さん。15才の少年兵の遺書、きれいな筆の字ですよ。まず冒頭から「お母さんごめんなさい。私が先に死んで行きます。お母さんこの不孝をお許し下さい。お姉さんやお母さんが楽に生活できるためならば、私の死は本望です。」私はここで読めなくなるんですよ、いつも。まともな人なら読めないと思います。いつかも観光バスが1台来たんです。私が入ってる時に、どやどやどやっと入って来た。それを読み出したんです。観光バスの人たちが大勢して声を上げて泣いていました。いつかも私が行きましたら、女の子が3人私にぶつかって飛び出ていったんですよ。私が入る。向こうが出てくる。「ごめんなさい」も言わなかったから、失礼な奴だとふり返って見たんです。中学生です。女の子です。目が真赤です。読んでるんです。顔が上げられないんですね。私は、この知覧という街を知りましたのはずい分昔ですが、たまたま東京へ行ったら、国電で家へ帰ろうと思った時です。国電の中で読むものがなかったんです。売店で書った本が角川文庫から出てます。特攻基地知覧って本です。今でもありますよ。あれをつり皮につかまって読み出したんです。ところが読んでくうちにだんだん私は涙が止まらなくなりました。あの本の中に、こういう場面がいくつもあるんです。20歳そこそこの連中が知覧の基地へ集まるんです。何のために。明日死んでくためにです。それを知らないで

お母さんが慰問に行くんです。私これ読んだ時にこんなむごいことがあるだろうかって思いました。皆さん方、その立場に立って考えてみて下さい。20歳そこそこですよ。明日死んで行くんですよ。目の前に生みの親がくるんですよ。私は死ぬよりつらいと思います。子供達はお母さんに口がさけても言えないんです。そぶりにだって見せられないんですよ。子供達は、明日死んでゆくのがわかってお母さんに愉快にしてみせるんです。明日死んでくのがわかって、愉快にして見せなきゃならん時代があったんですよ。お母さん喜こんで帰って行くんです。お母さんが見えなくなるまで、門のかげにかくれて敬礼しているんです。お母さん許して下さいって言って。もう私は帰るなり、この本4冊買いました。息子4人いますから。1冊1冊息子の名前を書いて、君達は子供が出来たら必ず読んでくれって言いました。もうこんなことは絶対2度とさせてはならないんですよ。もうどなたも同じ気持ちだと思いますけど。でもね、そういう人たちが沈んでる海の上を私達は通るんです。もう夜中でした。時計見たら8時半過ぎてました。後甲板で盛大な祭りが初まったんです。船長が通過30分前を講師の私達だけに教えてくれるはずだったんです。その船長がこともあろうに全艦に流したんです。「ミッドウェイ沖通過30分前」ってやっちゃった。騒いでた学生達が、シラけたって顔してゾロゾロゾロゾロいなくなっちゃった。大失敗だったですよ。そうなると思ったから、船長にこっそり講師だけと頼んだんですから。居なくなった学生が20分位たったら元へ戻り出したんです。一番先にあかりの下へ出てきた女子学生の姿、私今でも覚えてます。千羽鶴を折ってきました。あの時代で考えられることですか。その次に出てきた学生達は花束抱いてきたんです。その次に出てきた男の学生の姿を見た時、私この目を疑ったんです。その男の学生達があの時代ですからなおさらですよ。めいめいが紙で急ごしらえの日の丸を作ってきたんです。あの時代でこんなことは絶対考えられないことですよ。600名の学生が全部そうなんですから。あえて色分けすれば日章旗が誰がふれるかふれないかわかる位ですからね。振れないと思うような学生までも作ってきたんですから。そうこうするうちに時間が30分たつんです。船長があらためて「ミッドウェー沖通過」と流したんです。あの場所でこのアナウンスを聞いてごらんなさい。異様な気持ちになりますよ。しかもあたりは真暗。下に沈んでるんですから。船の中の話声と歌声がピタッとやんだんです。話しやめなさい、歌声やめなさいって言える時じゃないです。やめたんですよ。しーんとなった。そしたら後の方から男の学生がいても立ってもいられなくなったのかつめ寄ってきたんですよ。棒を持ってみんなの前で歌を歌い出しました。その歌が当時はやってましたアメリカのフォークソングです。海の男の歌です。こういう場所にふさわしいと思ったんでしよう。皆知ってる歌なのに誰も歌おうとしませんでした。音頭とった学生やめて帰ってきました。女子学生出てきました。千羽鶴を持って手すりのそば

へ行って千羽鶴を海へ投げ込み出したんです。手を合わせ出したんです。この光景が私今でも不思議なんです。千羽鶴は紙です。波の上へ落ちるとしばらく漂うのが常識だと思いませんか。漂よわないんです、これが。キュルキュルと巻いてみんな吸い込まれてゆくんです。あれは絶対異常ですよ。あんなことありえないですから。下に沈んでる人の霊が引っぱってるように私は思えました。突然のことが起こったんです。しーんとなってる中で何人かの男の学生が、わけのわからない大きな声だしてダダダッと逃げ出したんです。もう私一瞬暗い気持ちになりました。こんな場所にいてたまるかと言われるかと思ったんです。そしたらその学生が、すぐ戻ってきたんです。その姿みたら、またドキッときました。彼らはビール瓶をかかえてきたんですから。なぜドキッとしましたかって言いましたら、ビール瓶は当時のゲバ学生の武器ですよ。こんなことはやめてしまえと言って欧りかかるかと思ったんです。恥かしい話ですけどね。ビールの栓を抜きだしたんです。今度は。そしてビールを持ってない学生達に１本づつ渡しているんです。そしてビールを持った学生達が誰も合図もしないのに、手すりのそばに並びました。手すりの向こうは海です。海へ向ってビールを注ぎこみ出したんです。中には手を合わせる子もいるんですよ。下に沈んでる人たちに飲んで下さいっていう行為じゃありませんか。そしたら歌が出てきたんです。先程歌わせても歌わなかった学生達が、まず歌い出した歌。戦争を経験した方いらっしゃいます。この歌聞いたらびっくりしますよ。あの時代の若者達が歌っただろうかっていう歌ですよ。その歌は海ゆかばでした。花束が投げ込まれ、日章旗が投げ込まれ出した頃に、戦争を知らない若者達が、みんなで泣いて歌った歌があります。その歌は君が代でした。私は声をあげて泣いてました。あの時、私が歌った君が代は国内で歌った君が代と違いました。大声で泣いた私、帰りの船の中で家へ帰ったら絶対この話、子供達にしてみようと思ったんです。でも不安でした。ああいう時代ですから、戦争の話できませんからね。でも夕食の席でこの話をしてみたんです。そしたら戦争を知らないうちの息子達が、「僕じんときちゃったな。」と言ってくれました。もうあの時は表現できないような気持ちだったですね。あえて言葉を使うならば、よかったと思った。なぜよかったかと言いますと、当時こんな話をしましたら戦争を謳歌する話と聞いたんです。全く曲解して聞いたんですよ。でも若者達や子供達にこの話をしますと、きれいに聞いてくれます。そして中学校などで話しまして後で感想を求めますと、戦争などは絶対するもんじゃないですねと言ってくれます。そうしてこの間も女の子がこういうことを言いました。中学生でしたけれども。うちのおじいちゃんは戦争に行ってるはずだけども、話をしてくれません。今度帰ったら私の方から聞いて話をしてもらいます。戦争を経験した人は、いまわしい歴史です。言いたくないんですよ。でも言わなきゃならんはずなんです。伝えられないんですから。戦争経験した

ことのない人は。でも子供達の心、若者達の心は感性豊かできれいですから、戦争などは絶対するもんじゃないという話をしたら、きれいに聞いてくれます。そして私達が想像以上のいろんな発想がでてきます。私は先程も中学校の講演会が多いと言いましたけども、こんなことがありました。3年程前です。愛知県に新城っていう市があります。私はここで5校中学校全部やりました。どれ位やると思いますか。3時間話するんですよ私は。子供達がびしーっと聞きますから。ところが父兄が、まず先生が反対しますから。子供達が聞けるもんじゃありませんって言いますから。ところが、池田でやったんです。ここの池田で。あの八木さんっていう町長さんが当選されてからすぐです。呼ばれたんですから行きまして、おもしろかったですよ。壇へ上っていきましたら、半分中学生なんですよ。ああ八木さんやったなと思った。それで話終りました。校長先生が笑い話なんですよ。教育委員会から電話があったそうですよ。萩原っていう男が講演にくるから子供達に聞かせなさい。時間どれ位？3時間。とんでもないって言ったんだそうです、校長先生が。そしたらあの八木町長が、今度は変わって電話かかってきたそうです。先程は教育委員会でしよ。今度は八木町長自ら。当選間もない町長が、「校長先生今日は私は町長としてお願いするんですよ。」って「3時間聞かせてやってくれ。もし私の言うことが聞けないんだったら、今度から校長先生あんたの言うこと聞かないよ。」って言ったんですから。それでその子供達がびしーっと聞いてくれたんですよ。父兄や先生びっくりしてるんですから。感性があるんです。心がきれいなんです。もう1つこんなことがあります。愛知県の僻南で去年の講演会でこんなことがあったんです。私は知らなかったんですけど。校長先生が4月に変わられたんだそうです。

青年会議所の人達がこの講演会をしくんだわけです。で、学校へプレゼントしたわけです。そしたら新任の校長が青年会議所の人達にこう言ったそうです。「校長の私の話を15分も聞けない子供達が、素人の話を何で3時間も聞けますか。」って言ったって言うんですから。それ後でわかったんですよ。ところがそこで私話しましたら、子供達だんだんだんだん行儀よくなるんですから。そして話が終わった。降りて行ったら校長が壇の上へ走り上がって行ったんです。そして何を言うのかなと思っていたら、「これから校長先生は諸君達におわびします。」って言い出したんです。あれ何かなと思ったら「校長先生は以前に諸君達は3時間も話など聞けないって言ってたんです。でも今日聞いてくれた。」もう校長感激しちゃってるんですよ。「信用できなかった校長先生、諸君達におわびします。」しばらく頭下げてました。泣かされました私は。何よりも素晴しい教育ですこれ。話を元へ戻しますが、新城のある学校で私が話終って降りてったんです。そしたら司会の先生が立上りまして、生徒会の会長○○君、そしたら後ろからハイッて出てきました。「今の先生の話に何か感想があれば言ってみなさい。」しばらく

うつ向いているんです。しばらくたって、顔あげてその生徒会の会長がこう言いました。「僕は今まで新城がきらいでした。でも今日から好きになります。」って言いました。その次の言葉です、びっくりしたのは。「と言いましても」って言いました。と言いましてもっていうことは反対のこと言うわけですから、そしたら違ったんです。「といいましても、僕は将来東京の大学行く予定にしてます。ふるさとへ帰ってこれないかも知れません。帰ってこれなくても、勉強したり仕事したりしている時に、ふるさとに役だつものだと気がつく時があるならば、僕はそれをふるさとへ送る努力をします。」また泣かされました私は。子供っていうのはきれいなんです。だから教わることがいっぱいあるんです。私は、その子供から教わったことは、よくUターンUターンっていいますね。働く場所がないとUターンできない。でも働く場所がなくてもUターンできる方法があると教わりました。そのUターンとは頭脳と心のUターンではないでしようか。だからそういう若者達ばっかりなんです。子供達ばっかりなんです。だから私は若い人達にこの街をどうどうと継いでゆけると思うんです。だからそういう若い頃から子供の頃から、こういう勉強をしていかなきゃならないと言うことでお考えになったのが、こういう催しものだと思います。だから皆様方は、いやだ何だって言ったって、私たちの後を継いで下さるんですから。

ですから皆様方も素晴しい孫たちに送る商品、街を作っていただけませんか。ですから、私の足もとには祖先がえいえいと築いて下さった素晴しい知恵、たくさんあるんです。それを素晴しいものに作り変えて、そして、またまた私達の後を継いでゆく者に伝えようじゃありませんか。そんなことを今日、私はお願いをさせていただきました。最後になりますが、私にこういう機会を与えて下さった関係者の方々に本当にお礼を申し上げます。そして、そのうちにいつかまたお会いすることがあると思いますが、その時にはおそらく皆様方その地域のリーダーの方々ばっかりだと思います。その成果を私は期待をさせていただきます。長時間ありがとうございました。

宇宙的規模・地球的規模より見た
21世紀の世界の動き

東京外国語大学教授

奈　良　　毅

古来、西洋では、文化の程度を人間による自然征服の度合いによって評価し、東洋では、人間と自然との調和の度合いによって評価する傾向があったが、これからは、人間による異質文化の包容の度合いが、評価基準となっていくことであろう。

1.　真理とは何ぞや
2.　科学は真理をつかめるか
3.　真理をつかむ方法
4.　宇宙生成の過程とその存在意義
5.　地球と人間の社会
6.　自然の動きと人間世界の動き
7.　文化とculture
8.　21世紀の動きと我々の生き方

お疲れになったことと思いますので、できるだけ簡単にお話しようと思いますけれども、このように非常に美しい島にお招きいただきまして、みなさんのようなすばらしい方達と出会いの機会を得るということを大変ありがたく思っております。それからまた、一昨日・昨日と大変すばらしい講師の先生のお話をうかがいまして大変感激いたしております。

初めに、こうした機会を与えて下さいましたオーガナイザーの皆々様に厚く御礼を申し上げたいというふうに思います。それから、昨晩、きのうの午後バズセッションに出席させていただきました。それから晩はフォーラムに出席させていただきました。皆さんの非常にすばらしいアイデアと真剣なご討議、それを拝聴いたしましてとても感激いたしました。私がちょっとコメントめいたお話をいたしましたところ、お一人の方から私のコメントに対するコメントをいただきましたし、岩佐先生が大変憤慨をされて、自分はそうではないんだというお話をされて、大変申し訳ないことをしたと私自身大変反省をいたしております。ちょっと時間がありますれば、もう少しご説明申し上げていきたいと思うんですけれども。

私自身、中学校の先生の経験がございますし、まあ、私の経験を照らし合わせてそういうことを申し上げたいのですけども、もちろんそういう先生ばかりではないということは充分承知いたしております。それから特に私もいろんなところで講演いたしますけども、たいていの方は、あれは自分とは関係ないことだということで、そのまま何もしめさない聴衆の方が多いのですけれども、昨日岩佐先生のように、私はそういうことではないというお話を堂々と発表して下さり、大変私はうれしく思いました。少なくともここにいらっしゃる皆さん、特に先生達はそうではないと、そういう先生ばかりではないということを実証して下さったわけですから、大変私としてはうれしかったわけでございます。そういう意味で私の話を今日、一方的にお聞きになるばかりではなくて、最後には是非、いろいろ疑問点、あるいは自分と反対意見の方がおられましたら、出していただきたいと思いまして、司会者の方にお願いして30分程時間をとっていただきました。ご意見、ご質問をお受けしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

普通、外国へ行きますと、講演を始める際は、たいてい外国のスピーカーがジョークから始めます。よく枕を振ると落語家は申しますけれども、非常にこのウィットにとんだジョークを言いまして観衆をリラックスさせて、それから本題に入るというような方が非常に多ございます。日本の場合は、どちらかというと、たいてい自己の謙尊をしておわびする言葉から始まるようであります。私のパターンは最初はお祈りから始まるわけでございます。宇宙並びに世界が、今日一日本当に平和でありますように、この地球上に住んでいる人類が本当に今日一日幸せでありますように。それから私が、一言も間違ったことを言わないように。それから今日来ている皆さんも間違って取られないように。そういうことを祈ることから始めるわけです。ただ今より私の友人が作曲し、私が編曲いたしました、ある音楽をかけさせていただきます。本当はずっとバックミュージックでかけたいんですが、あまりそちらに気をとられて、私の話の方を全然るすになってもいけませんので、最初と中間に一度5分程休けいをとりますので、その時と、それ

から一番最後に計3曲だけ是非お聞きになっていただきたい。でそのメロディーに合わせて、先程言いました祈りをさせていただきたい。こういうふうに思います。〜音楽〜このメロディーを聞いていますと、いろいろな不思議な効果が出てまいります。これを作曲した宮下君夫さんという方は、千メートル以下の所には住まないという方でして、山中で千メートル以上の所で常に冥想して、いろいろな神社やお寺にこもって、そこでわいてきた楽想を音楽に表すと、そういう方なんです。これのメロディーを私は天地の祈りという形で編曲いたしまして、自分の祈りに使いますし、世界の平和を祈ります時に、是非このメロディーに波長を合して、祈ってほしいということを皆さんにお願いしているわけです。

これを聞きますと、別に世界はどうあらないといけないとか、人間はどうあらないといけないかという理屈を越えまして、本当に心がおだやかになり、この音楽を聞いて喧嘩しようとか、人の悪口を言おうとか、そう心持ちになる人はまずいないだろう。こういうふうに思います。ですから、心をおだやかにするという一言につきるのではないかと、それを理屈をこねていろいろ叫ぶという必要はないのではないかと、こういうふうに思うわけです。今日は、私は皆さんにいろんなことを申し上げたいのですけれども、特に若い人、私自身も非常に若いと思っておりますので、現在55才になりますけれども私はまだ青年のつもりでおります。日本語には、いい言葉はありませんけれども、英語では、年を聞く場合に、How old are you ？ というふうに言うわけですね。どうも old という言葉を聞きますと、なんとなく年とったなあというふうな感じがするのです。ですから、私はいつも、これから私自身今やってるわけですが、外国人に年を聞く場合は、How young are you ？ と聞くことにしています。だから私は、I'm fifty-five years young. というふうに答えています。ですから、それに相当する日本語はないので非常に困るんです。けれども、私自身大学の講師をしておりますから、62才で定年を迎えますが、私はまだ未定年者であると考えています。定年に達してから、はじめて一人前の活動ができる。自分のやりたいことができる。今やはり国家公務員ですから、いろいろな制約があります。自分でやりたいと思わないことでも、事務的にやらないといけないことがたくさんあります。けれど定年になったら本当に自分のやりたいことができる。その時は本当に一人前の仕事ができるというふうに考えておりますから，まだ自分は未定年者であるというふうに考えております。そういう若い自分を含めて皆さんと共に今日、是非考えていただきたいのは、自分が今常識だと思っていること、それがはたしてその通りかどうかと、もう一度考えていただきたい。ですから、私は今日、いろんなみなさんの常識を破壊していきます。壊していきます。その上でこれから皆さんが一生送られる際、自分の頭で何を基準にして生きていくのかという一つのヒントをつか

んでいただければ、ありがたいというふうに思うわけであります。第一日目の松原先生、大変すばらしいご講演を、私テープで聞かせていただきました。非合理性ということを特に説いたと思います。その非合理の中に人間の真実がある場合があると、合理が全部真実ではないという話ではありませんね。合理の中にはもちろん真実はありますけれども、しかし、非合理性の中にも真実はあるんだと。ですからすべて人間は、これがいいとか悪いとか単純に割り切るということは危険であり、一つの戒しめであろうと思いますし、人間というのはそもそも非合理的なものであるから、そういうものとして人間がどう生きないといけないのか。どう相手を理解しないといけないのか。これを考える必要があるんだと言うような事を説かれていたのではないかと、私なりに受け取らしていただきました。それから、昨日の萩原先生、これもまた感動的なお話で、私も涙なしでは聞いていられなかったわけですけれども、これはいろいろ全国の各町や人、これが自分の大切な教師であるということを具体例を一つ一つ示されて、大変おもしろく、しかも感動的なお話をなさったわけです。そして、それを具体例を通して考えられる一つの原則、結局、町づくり、町の発展、社会の発展というものは、人づくりにかかっている。いかにすばらしい人がそこに生まれるか、否かによって、町が、社会が、国が、あるいは人類の社会が発展するんだというようなお話ではなかったか。こういうふうに思います。私は今日はまったく反対の機能的な考え方じゃなくて、演繹的な考え方で、皆さんのこれからの思考を常識と考えられているものを破壊していきたい。こういうふうに思っております。まず、幸福というのを考えてみます。人間の生きる目的は何か、ということなのでありますけれども、幸福になりたい、幸福に生きたい、これがまず最大公約数、共通したみなさんの生きる目的ではないかと、こういうふうに思います。幸福、幸せということですね。これを否定する人はまずいないだろうと、こういうふうに思います。幸福って一体何であろうか。大和言葉で幸福のことを幸せ、漢語で幸福をこういうふうに書きます。幸せって一体何だろう。こういうことを言いますと、最近の学生は大変ウィットにとんだ答えを出すようでありまして、「先生それは、ポン酢醤油を買った時です。」こういうように、ちゃかして答える学生が増えてきましたけど、皆さん自身幸福って何だろうということを考えたことがありますでしょうか。これは私なりに考えてみたんですけども、やはり、自分の思うままになるということ。すべて自分がああしたい、こうしたい、そう思い通りになるという状態が一番幸福な状態ではないか。幸せな状態ではないか。こういう風に考えるわけです。悪い言葉ではわがままとこういうふうに言いますが、自分のわがままがすべて通るようなそういう状態、これを幸せというものではないかと考えるわけです。じゃあ、自由になるというためには、一体自分はどうあらないといけないのか。自分がああしたい、こうしたいと思う通りになるという状

態を作る為には何が必要なのか。となりますと、それには一つの力が必要になってまいります。やはり、この自分がしたいと思うこと、これは自分がやればいいですけれども、しかし、自分が相手にさせたいという場合ですね。それはある種の力がないと相手にそれをさせるということはできないわけです。で、その力を得る為に、ある人は体を鍛えますね。体力というもの。体力がないと幸せになれないと思う人がいると思います。それから、金がないと自分の思い通りにならない。金力ですね。金の力、それを求めようとする人がいる。それから、いろんな知識、情報がないといけない。知力、ですから皆さん一生懸命勉強すると思いますね。そういう知力がないといけないと思う。それから名声とか権力、これがないと幸せになれない。そう思う人、その為に一生懸命努力して、地位を、名誉をあるいは権力を得ようというふうにいたします。それから最近は、その一つのオカルトブームができてまいりまして、目に見えない超能力、こういうものを得たいと、これも1つの、その力によって幸せになれるんじゃないかと考える人も増えてきています。で、みんなそれぞれ一緒ですね。知識を得る為、あるいは金を得る為、あるいは名誉や権力を得る為、あるいは体力を得る為。いろいろなそういう力を得る為に毎日毎日努力している人が大部分であると、こういうふうに思います。しかし、それも不可能なことなんですけれども、たとえそれが仮に成就したといたします。すべての政治権力を握り、すべての金の権力を握り、世界中の金を全部自分が動かせるという風になると、あるいは世界中で一番自分が体力が強いとなったと、仮にいたします。それがもとに幸せになれるかどうか、ということになるんですね。それで自分の思いどうりに全部なれるかどうか、ということになるんです。恐らくそういう状態に達した途端、ある種の満足は得られると思いますけれども、それでも自分の自由にならないもの、これがまだたくさんあるということに気がついてくると、こういうふうに思います。例えば自分自身、個人のことに関しましても、自分は永遠に生きたい。永遠に若くありたい、こういうふうに願ったといたしましても、どんなに願いましても、それは人間はやがて年老いていきます。体もきかなくなるでしょう。それから、どんなに体に気をつけて、健康に気をつけて、がんばったとしても、せいぜい120才か125才までしか生きられないのではないでしょうか。それから、どんなに人間的に名誉や権力や体力や金力を得たとしましても、自然を全部、自分の意のままに動かす。例えば、地球を反対にまわさせてみようとか、あるいは太陽を西から登らせてみようとか、そういうことはできないはずである。ですから、自分の思い通りに何でもさせる、するということは本来、幸福な状態であるとして求めますけれども、それは結局、限界があるのです。どんなにがんばっても人間ではそれはできない。そういう限界、あるいは、そういう宇宙や社会の決まり、人間自身の体の決まり、そういう決まりというものがあるということに気がついて

くるわけです。そこから、本当の幸せ、永遠の幸せというような人間は、その限界がある限り、得られないということになってしまいますね。理論的には。しかし本当にそういう制約、限界があっても、なおかつ幸せな生活が人間は果して出来るであろうか。それを求めて人間の生とか老とか病とか死、生老、病死という4つの問題、これを解決したい。そういうものがあってもなおかつ、永遠に幸せな境地になっていたいと、それを求めて、王子という位を捨てて森の中に入り、そして修業をして、そしてその境地をつかんだ、これは釈尊という方ですね。仏教というお釈迦様という方は人間として生れ、そして人間として死なれたわけです。しかし、人間でありながら、いろいろな制約、限界、そういうものを乗り越えて、平和な日々、何事にもとらわれない楽しい境地、これをつかまれたわけですね。そういう人を仏とそういうふうにいうわけであります。もう一つの立場は、この世の中、この宇宙は、これはただ自然に、ある日遇然にできて、そして遇然に動いてというのではない。ある種の力、法則に基づいて、動いているのである。生きているのである。その力の大本、その法則の作られた大本、この宇宙を作られた大本、そういう存在があると、その尊い存在を神と名づけて、そして、それに全部自分を帰依して、その御心のまにまに生きようと、それが人間の取る最高の幸せな状態であると考えた、また別の聖人もいるわけですね。神を信じる人の中にそういう人が生まれてるわけです。キリストもその一人でありましょう。ですから、立場は違いますけれども、その幸せの境地というもの、これをまとめる限り2人は共通していた。こういうふうに思うわけです。

どうもしかし宗教というのは、非常にすばらしい人間の生き方を説く、人間の救いを説く教えなんだけれども、しかし、すべてその真理を語っているかどうか、というと非常に疑問な場合がある。現にその過去の宗教の教え、あるいはその活動というものを見てまいりますと、一番単純な例をあげますと、例えばこの地球がすべての宇宙の中心にあって、星が地球のまわりに動いている、というような一つの考え方、これがキリスト教で、かつて説いた真理であったわけですね。ところが、ガリレオがそうじゃないと、実は太陽の周りを地球が動いている。地球が自転しながら動いているんだと、そういう真理を言うと、それは神の教えに反すると、そんなことは聖書に書いてないんですけども、そういうふうに聖職者が誤まった宇宙の考えを、神の名のもとに人々に教えていくと、そういう時代があったわけです。それに反する考え方は宗教裁判にかけて弾圧するということが実際あった。そういうふうに、仏教も最初のうちは人間が自から、仏になる力を備えているのであるから、それを頼んで日々生きなさい。お釈迦様は、自分を拝みなさいということは、一言も言っていない。私はすべて皆さんに真理をつかむ方法を楽しく生きる生き方を教えたい。私が死んだ後もその自分自身の力を頼って生きなさい。

正しい生き方をして生きなさい、と言ったのに、やがてお釈迦様が亡くなりますと、みんなお釈迦様を拝み出すんですね。ですから、それもある意味では間違ったやり方でありますね。やがてそれがいろいろな迷信を生んでいくということになります。ですから近代にかけましても一つの反省が生まれまして、現在の我々もそうですが、どうも宗教は信用できない。信用できるのは、科学のみだというように考えるようになってきました。

科学というのは、あくまでも実証をもとにして、すべてに時間、空間を越えてその通りである、という法則を見い出すものとして考えられているわけです。ですから、みなさんは宗教者のいうことよりも、科学者のいうことを信ずるようになってきてるだろう。こういうふうに思いますね。科学は、科学の目的は何かというと、その真理を探究することであります。真理を追究することであると、真理をつかむことである。こういう言い方を致します。本当に科学をまじめに勉強し、追究していけば、真理をつかめるのであろうか。ということを考えてみたいと思います。

私も学者の端くれですから、一応科学者であります。人文科学者ですけども、これもやはり言語学という科学を、私専攻いたしておりますから、非常に実証ということを、普遍性ということを大事にいたします。普遍性という意味は、ある時はそうで、別の時はそうでないとか、ここはそうであるけども、ここからここはそうでないとかいうことじゃなくて、どんな時にもどんな所でもそうだ、というのを普遍性とこう言います。それから実際に理論立てて、その理論が実験の結果そうであったと確かめたのを実証性、こういうふうに言います。この科学の一つの武器として、我々は、いろいろな現象を観察し、その真実を求めようといたします。でみなさん科学者のいうことは、信用すると思いますね。本当に科学を窮めていけば真理がつかめるのであろうか、ということを考えてみたいと思います。

この宇宙、我々がいる宇宙、これは最近の天文学者の研究によりますと、だいたい150億光年よりもっと大きいと言われています。さらに膨張しつつあると、唯がどうしてそういうことを言うのか、私にはよくわからないけれど、そういうふうに言います。昔は、望遠鏡を使ってはるかかなたにある星、天体を観測していたわけです。最近は、そのままじゃなくて、いろんな宇宙線ですね。柴外線とか、赤外線とか、X線、ガンマー線というものを電波観測所でキャッチいたしまして、光がなくともそういう宇宙線がある所に天体があるというところまでわかってきたのです。どういう種類の天体がどれくらい離れた所にあって、どういう活動をしているかが、おぼろげながらわかるようになってきました。現在わかるいちばん遠いところは150億光年、光年ってわかりますね。光年というのは、光の速度は30万km、一秒間にですね。カチッカチッという間に30万km

走ります。それが1年間かかって走る距離ですね。それを一光年といいます。それが150億年かかってようやく達する距離です。それだけかなたにある星までわかるようになってきたわけです。星雲まで。そこに何々の星雲があるというふうに専門学者は言います。なんとすばらしいなあ科学というものは。そこまでわかるようになったのかと感心しますけども、しかし、それは一体何を意味するのか。それを考えて欲しいと思います。

それは、宇宙が絵に書けるものではありませんが、例えば150億光年、これはさらに膨張してるようでありますけど、ここに地球がある。ここから光が来て、ここに到達します。この間150億年かかってるということです。わかりますね。150億年前に発した光が、ようやく今地球に達したというわけです。ということは、100億年目にこの星はなくなっているかわかりませんね。だから今あるということは、実際あるかどうかという証明にはならないわけです。わかりますね。あるかもしれないし、ないかもしれない。わかりません。だれもわかりません。それから逆に、何もない所がありますね。最近、ブラックホールという考え方も出るようになりましたけれども、何もない所に星はないと言えるかどうか。しかし、ここに何か星があって光を発し、ここまでは来てるかもしれない。しかしまだ達してないわけですね。1億年後に達するかもしれない。しかしここまでしか達してないですから、見えない訳です。地球上では。だから何もないといった所にないとも言えないわけですね。しかし現在見えるところにあるとも言えないわけです。結局何も言えないということです。だからどんなに科学がこれから発達いたしましても、精密を極めるにいたしましても、真実はわからない、ということなのです。もうひとつ別の例をあげてみます。ここはすぐ前に海岸があります。海の水を汲んでなめてみます。塩辛いですね。海の水は塩辛い。これは事実であります。

科学者がいろいろ分析いたしまして、その塩分がいろんな鉱物が中に入っている。もちろん水H_2Oもあるとこういうふうに分析いたします。それはその通りであります。塩分があるから塩辛いんだと。で海水は塩辛いんだというふうに言います。これは自分で実際に飲んでみて、分析した結果、その通りだ。他の海岸に行って汲んでみる。また同じ結果が出た。こういたしますね。やはり、海水というのは塩辛いということなのであります。これで、実験した、実証したということになるわけですね。だから海の水は塩辛いと言えるかどうか、ということです。そこの間には飛躍があります。どうして飛躍があるかわかりますか。そのコップ一杯の水が塩辛いという証明はできたのです。しかし、まだ汲んでない海の水は何も実証されてないわけです。だから、科学の実証というのは、ほんの限られた部分で、そうであるということを述べるにすぎないのです。その中の実験によって法則を発見します。この場合何べんかやって同じ結果が仮に出たと

します。それで一種の法則というのを科学者は考えます。しかし、その実験の場ではその通りだという実証ができただけであって、それ以外の実証していない所については、わからないというしかないのです。実際にまだやってないわけですから、それと同じように今度ミクロの世界に入っていきます。最近は電子顕微鏡という便利なものができまして、分子はもちろん原子の構造まで写真に撮れるようになりました。しかし、さる原子核の中、最近はコーツという単位まで分析できるようになりました。もっと小さな単位がやがてわかる時がでてくるだろうと思いますけども、その中は見れないですから、これはあくまで想像ですね。しかし人間が物を観察して見るといった場合、どういうことがそこに起こっているかといいますと、光というものですね。人間は目は持っていますけども、目があっても見れるものじゃないんです。光がないと見えないんですね。光があって初めて見えるわけです。どんなに目を開けても、光が全部消えますと何も見えません。その光のおかげで見てる。光が反射するから。その光というものは、波長があるということはわかりますね。プリズムでその波長の長さによって、いろんな色になりますね。ところが人間が見る可視光線ですね。赤から始まって紫まで、いろいろ波長があって、プリズムに出てきますけど、しかし、このそれ以外の、これより短いこれより長い波長の所は見えないんです。人間の目には。ですから、我々が知りうる範囲というのは、どんなに観察いたしましても、この光が反射する所しか知り得ない。それ以外の長さの波長の所は、永遠にわからないということになります。音に関してもそうですね。音はゼロヘルツから、何万ヘルツまで、たくさん心拍、回転数が細かく分析されますけれども、その中で人間が聞こえる波長というのは決まっているわけです。それより低い波長の音は聞こえませんし、それより高い波長も聞こえません。実際はあるんですけれども聞こえません。

ですから、聞こえない範囲の音の世界というものは、人間にはわかりません。こういうふうに考えてまいりますと、科学がこれからどんなに発達し、精密化されていきましようとも、それを観察するのが人間である限り、必ずそこには限界がある。限られた範囲しかわからない。ですから、宇宙にマクロの世界にしろ、ミクロの世界にせよ、あるいは人間自身にせよ、わかる範囲というのは非常に限られているということですね。真実というのは、科学の力を持ってしては永遠につかめない。真理というものはつかめないということをはっきり知ることが、私は知識だと思います。だからといって、科学を否定する必要はありません。その知り得る範囲というものは確かにその通りなんですから。そうすると、我々はここで二つの選択、二つの賭けを迫られるということになります。それじゃあ、人間という存在は、宇宙すべての現象の真理というものは、もう永遠につかめないものなんだ。もともと人間はそういう存在なのである。というふうに考え

て、そういうことを考えることは馬鹿らしい。エネルギーや時間の無駄である。ですから、そういうことを考えるよりも、自分自身がどう生きなければいけないのか、ということ、それのみに専念し、考え、または行動していくべきだ。これはある意味では仏教の生き方であると思いますね。ですから、仏は、お釈迦様は、神ということも説きませんでしたし、宇宙がいつ、どのようにしてできたかということは、全然感心を持たなかった。それは時間の無駄である。そんなことを考えるより、今の自分がどう生きないといけないか。どう正しく生きるかということに全力を集中して、探究する意義があるという態度をとられたわけである。例え話として、自分の家が火事になったという例え話をしておられますね。火事になった。「いつ、どこで、どういうふうな条件のもとに火事になったのか。」ということを追求するばか者がいると、それがわかろうとわかるまいと、まず最初にやらないといけないことは、一杯のバケツの水を汲んできて、その火に水をかけることが大事なんだ。考えることよりもね。それが人間の取るべき一番大事なことであるとお釈迦様はとられているわけです。これは一つの態度であろうと思いますね。しかし、もう一つの態度は先程言いましたように、すべて物には原因がある。例えば、このテープレコーダー一台取り上げますね。ここにテープレコーダーがあるということは、いつか誰かがこれを作ろうと思って、そしてデザインをして、そして材料を集めて作ったからここにあるのです。そうですね。ある日突然ポコッと空中から飛び出たわけではない。いつか誰かが作ろうと思い、そしてデザインをして、材料を集めて作ったからここにあるのである。すべてがそうです。現在あるものというのは、いつだれかが、どこで考えて作ったからあるのである。これは常識ですね。常識。そうすれば、この宇宙我々人間も含めて今あるということは、いつか誰かが考えて、そしてデザインをして、そして作ったから、現在こうあるのであると考えるのが自然だ、とこういうふうに考えるわけですね。その一体誰が考えて、誰がデザインして、誰が作ったんだろうか、とそれは人間ではなかなかわかりませんから、そういった存在があると信じる以外にありません。これは証明するというわけにはいきませんから。信じる以外に。もし、そういう存在が実際にいるといたしますと、その人に会って聞けば真理というものは初めてわかる。というのは、その人が全部デザインして全部作ったというわけですからね。その人以外に、本当の真実というものがわかる人はいない。だから全部その人に会って聞くしかないと、これが真実、真理をつかむ唯一の方法であると、こういう態度がありますね。ですから本当の真理を探究するのが、科学ではダメだとするならば、その絶対の存在というものにどうしたら会えるか。どうしたら聞けるか、ということを探究しない限り、永遠に真理というものはつかめないという態度。これはもう賭です。これは理屈じゃなくてどちらに賭るかです。ひょっとしたら、そういう存在があるかもしれない。

あるとするならば、とにかくそれを求めてみようと、その方法があるならば、それをやってみようと、こういう賭方がありますね。もう1つの賭方は、そういう存在はあるかないか、どうせ探したってわからない。だからそういうことに時間を費すよりも、自分がどう生きるかの方に全力を傾けて、一生を過ごすべきだという態度。この2つの態度があると思います。どちらが良いとか悪いとかの問題ではありません。自分自身の意志で決定するべきもので、そして実際どちらを選択するにしても、それを実際やってみてそのやった結果、あるいはやっている過程で、本当に自分が幸せであれば、どちらでもいいわけですね。どちらかの選択をしないでいると、いろんな悩み、問題が付きまとうということになってくると思うわけですね。これは、宗教とか信仰の問題として考える人もおりましようし、これは人間の常識の問題であるというふうに考える人もおりましようし、どちらでも結構です。自分の好きな選択をし、決意をして、賭けて人生を自分で試してみる。そのためには、いろいろな先輩の意見を参考にするのも良いでしようし、本を読むのも良いでしようし、自分自身で研究してみるのも結構でありますけれども、しかし、私が皆さんに言いたい事は、どんなに偉い人であろうとも、どんなに権威を持った人であろうとも、その人が言ったからそれを信用するということはやめて欲しいと思いますね。先程いったように、人間というのは必ず限界がありますから、その人が、100％真実を語っているという保証はない訳です。ですから参考にし、自分の生き方にどんどん取り入れて生かしていくことは必要でありますけども、その言ったといって、その通りであると科学者が言ったからその通りであると思うのは間違いですし、やはり完教家がそういうふうに言ったからといって、そのまま信用するのも間違いですし、あくまでも、自分自身が生まれながらに持ってきた直感と、常識と、自分の知識を総動員して、自分の納得できるような生き方をしてみるということが、人間として最も望ましい生き方ではないか。特に若い人に私は自分も若いと思っていますが、そういう生き方をして欲しいと思う訳です。

そこで、宇宙。宇宙というのは何も天文的な意味ばかりではなくて、我々や人間を含めた一切のものを私、宇宙というわけですけれども、この宇宙というものは、どういう力が働いているか、どういう法則が働いているかを常識で考えてみましよう。

まず、私は四つの原理をたてたいと思います。一つは、創造の主というものは、いるかいないかわかりませんけど、しかし、宇宙が、ある時、ある一点が爆発して、そして、今日のような宇宙に進化、発展してきた。つまり、一点から大爆発を起こして、宇宙が、今日の姿を150億年以上かかっているでしよう。これはビッグバーンと言いまして、みなさんご存知でしよう。ということは最初何かあった。これが、ばらばらに壊れますね。次の瞬間は、これは第一の状態だと致します。次の瞬間いろいろ分かれていきます。そ

れが、さらに分かれて分裂分裂をくり返して、その最小の今でいうコーツのさらに下のもっと基本単位に分かれて、それが最小の単位として、それぞれ今度は結合してきますね。そして複雑な構造を作って、その原子であるとか、分子であるとか。ということは第1の瞬間、第2の瞬間、第3の瞬間とずっと変わっていきますね。これを見ますと、これそのものですね。これ一つ一つがもともと同じ物です。全部同じ物。細胞分裂もそうだと思いますが、人間の場合も精子と卵子が一つになって受精致します。これが細胞分裂をおこして、それでやがて目が出、手が出、足が出、体ができ、そして脳が出来て体外へ出て来ますね。みんな一つから始まる訳です。最初何もないゼロの状態があって一の状態があって、これがやがて無限大に拡大していくわけですね。こういう状態です。とするならば、これは、こうなったと言う事は、これは同じ事だという事です。もともとこれなんです。同じものがだんだん分かれて行ったという事です。それが総て我々の宇宙の総ての基本になってるわけです。ということは、我々は私とか、あなたとか、私とか、ものとか、自然とか、そういう区分けを今してますね。皆さん。自分と物とは関係ない、自分と自然とは関係ない。というような格好をしてますけども、実は同じ物ですね、もともとは。同じ物が分かれてこうなってるだけの事ですね。ですから、宇宙に存在する総ての物は、もともと同じ物だと、ただ一つ一つの形、性質それが違うように見えてるにすぎない。というこれは第一原則です。そういたしますと、その我々人類だけのことを考えますけども、相手の為に何かしようとか、自分自身の為何かしよう、というふうに普通考えがちですが、相手とか自分じゃなくて、みんな自分なんですね。総てが自分なんですね。物も自分、人間も自分、宇宙自身が自分自身だということなんですね。ですから人の為に何かやるんではなくて、自分の為に何かやるんです。人間は手足を持ってますけども、指先をピンで傷つけてみます。人はその指が痛いというかどうかは分りませんけど、傷つきますね。誰が痛いと感じるかというと、自分なんです。指だけが痛いわけじゃなくて、私自身が痛いと感じるわけです。とするならば、人類で、どんな個人が、どんな民族が、痛い苦しいという状態があるならば、それは自分自身の痛みなんですね。自分自身の苦しみなんですね。人の苦しみじゃないわけです。そういう意識を持たない限り、国際協力の本当の意味はわかってこないと思います。お互い助け合うという本当の意味はわかってこないと思います。人を助けるんじゃなく、自分自身の命を守るためにやらなきゃいけない、人間としての本能的な行為として我々が考えていかなきゃいけない。そういう意識を持つ時代が今やって来てるということだと思うんです。それが第一原則です。それから第二原則。今とちょっと反対の観点に立つと思いますけども、宇宙に存在する物は総て一つだと言いましたけども、実際問題として一つ一つはみんなバラバラですね。人間も一人一人バラバラに存在してます。やはり、目

に見える存在としては、バラバラです。私と物ともバラバラです。違います。総て一つとして同じ物はない。同じ形、同じ性質の物はない。ということ。これをまずはっきり認識して欲しいんです。一卵性双生児はどうだろうと言う方がいるかもしれません。機械で大量生産したものはみんな同じだというかもしれません。しかしどんなに精巧に作っても、物の場合でも、何ミクロンか知りませんけども必らずどこか違います。どこか違います。だから一つとして同じ現象、同じ物は存在しないのです。一卵性双生児でも必ず環境が違えば違いますし、顔形だってよく見れば違うんですね。全く同じということはありえません。だからどんな物でもこの宇宙に存在する総ての物のどれ一つを取っても、全く同じというものはないんです。これが宇宙の真実の姿であるということが第一点。それから、一つ一つの違うこまが一瞬として同じであるということはない。常に変化している、変わっている。今の瞬間と次の瞬間と違うのです。人間は常に新陳代謝を繰り返しています。それから、自然だって常に動いています。物でもじっと動かないと言っても、これは必ず化学反応を起こして、壊れて行ってるわけです。やがて一万年か数百年後には、その物は壊れて消えてしまいますね。やがて土に返ってしまいます。というふうにどの項を見ても、一瞬として同じ状態であることはない。森羅万象、万物流転というような言葉で表しますね。この一つとして同じ物はないということ、これが実は空間というのを成り立たせています。一つとして同じ状態ではないということは、実は時間を成立させているのです。時間は絶対基準というものはないというのは、最近物理をおやりになった方はわかると思いますけども。変化が時間を作り出しているわけですね。他と自分との違いというものは、空間を成り立たせているわけです。同じ物が全部あったら、空間というものは存在しないのです。これは非常に難かしくなってきますので、簡単に端折て言いますけれども、つまりこれは何を意味しているのか、というと、まず事実を認識するというのは、あるものを自分と同じものにさせようと考える事は不可能であるという事なんです。いいですか。一つ一つみんな違うという事は、そういう仕組みというか、自然の姿なんですから、それを自分と同じようにさせようと思うことは不可能なことで、それをあたかも出来るかのように考えるということは出来ない事に執着してるということです。だから、あの人が、自分と同じようになれば、どんなに私は嬉しいだろうか。あるいは団体が、宗教が、あの宗教の信者さんが、自分の信者さんになれば、この世の中がどんなに平和になるだろうとか。あの国の人が全部自分の国の人と同じような文化になれば、どんなに幸せであろうか。といって世界を同じものにしようとか、あるいは総てを男性もだんだん女性化して、女性が男性化していこうと。こんな同じことを最近考えてますね。男女同権と言う事で。ところがそれは最初から不可能で、女性は女性として、男性は男性として違うんですから。あの価値の問題ではな

くて、機能の問題として違うんですから。それは同じにさせようと考えることが出来ないことに執着してると、要するに出来ない事をやってみて、できないと悩んだり、苦しんだり、これも非常にあほらしいことですね。それから一つとして同じ状態であるものはない。と言いましたですね。そうすると、一番最初に言いましたように人間が生まれて、だんだん年老いて、やがて死ぬと。これも自然の姿なんですね。だからいつまでも若くありたい、年とりたくない。いつまでも死なずに生きていたい。ということは最初から不可能なのです。で不可能なことを求めても意味がないし、それが出来ないからといって嘆く事もない。昨日から文明がいくら栄えていても、やがて滅びるという事を何回も何回も繰り返し、講師の先生が言っておられましたが、それも一つの例であろうと思います。だから今発展途上国と言われている国、これも同じ状態であると言う事はありえないわけですね。やがて発展するかもしれない。また、非常に発展している所が、いつ衰退するかこれもわからない。常に変わるわけですから。しかし、発展している所は常に衰退しなきゃいけないかというのも、ちょっと独断であると私は思うわけです。その発展したままの状態で、変化していけばいいわけですから。どんどんどんどん。変化しない所に衰退が始まるわけですよね。同じ物にいつまでもしがみつこうとするから衰退が始まるわけで、最初から変化するのは自然の姿だといって、それに心がけていけば、常に新しい新しいものを心がけていれば、発展したままの状態で変化できるはずです。だが、そういう自然の姿、法則、これははっきり心の中に入れて自分の生き方、社会に対する対処の仕方というものを考えていかなきゃいけない。これが第二の原理であると私は思います。第三の原理、これは、例えばこういう例を出しましょう。光、レーザー光線の事を考えて下さい。光はまっすぐ行くと、グニャグニャ曲ってなんかは行かないでまっすぐ行くというふうに、私が言ったとします。私というか、科学者がそう言ったとします。それはどうですか、皆さん。真理だと思います。どう思いますか。光が直線でまっすぐ行くとレーザー光線で。その通りだと思いますか。まあ、科学者はそう言いますし、皆さんも普通そうだろうと思いますね。

これは地球上で見る限りは、その通りなのです。まさしく、私は事実を言ってると思います。しかし、地球自身が回転してるのですから、いいですか。地球自身が24時間で１回回転しているわけですから、地球上で見てまっすぐ行ってると言う事は、宇宙の立場から見ますと、回転しながら光が進んでいくというわけなんです。ということがわかります。そう言われると、なるほどとこう思いますね。だから、まっすぐ行ってるということも事実であれば、観点を変えて、宇宙という立場から見ると、こう羅線上に光は進んでるというのも本当です。どちらも本当。みなさんはここに黙って座ってますね。座っているという事、じっと動いていないということ、同じ場所にいる。これも事実で

す。ところが、宇宙空間から見たら、地球はものすごい速さでまわっているわけですから、みなさんはものすごいスピードで、今動いてるわけです。黙ってなんかいないわけです。というふうにですね。これどちらも本当ですよ。

ただ問題は、どの観点に立って物を見るか、の違いだけです。どちらが良いとか悪いとかの問題じゃなく、どちらが正しいか、正しくないの問題じゃないです。どの立場からものを言ってるか。どの立場から観測しているか。をはっきりさせればそれが正しいか正しくないかがはっきりしてくるわけです。こういうことが、言葉の問題に関してもあるんですね。同じ言葉を使って盛んに議論してる場合がありますけれども、自分が考える権利と、他の人が考える権利とは違ってる場合があるんですね。同じ事を言っていても全然意見がかみ合わないという事があります。どちらも正しいことを言っているんです。自分の権利に照らし合わせますと。その立場の違いがわからない為に、全くお互いが議論がかみ合わない場合があるんですね。だから、ある人、ある組織、ある国が、その自分に照らしていってる場合は本当なんですね。だけど他の基準で見た場合それは違うんです。だから相手の立場に立って、その基準でものを考えてやると、なるほどその通りであるというふうにわからなきゃいけないし、それからまた自分がこういう基準に立っているからこう言うんですよということで、相手にわからせないといけないしね。両方努力が必要なんですね。これは実は国際協力の基本になるんですね。また国際だけじゃなく、個人もそうですしね。あるいは団体間、組織間の協力もこの立場がないとですね。ところが、えてして組織あるいは国家、個人の場合もそうかもしれませんが、何か自分の基準が唯一絶対で、これはもう最高絶対の考えであるかのように思いがちなんです。人は。みんな自分以外の違う考えはダメなんだと、間違っていると言いがちなんです。ところがこの例でもおわかりのように、その立場が見る立場、考える立場が違えば、違うと。そしてどちらもその立場では正しいんだという認識、そういう寛容の理解の精神、意識そういうものを、我々はこれから特に若い人は持たないといけない。持って欲しい。こういうふうに思うわけです。これが第三の原理です。第四の原理といいますのは、これは科学でもよく言うことですけども、因果の法則とこういうふうに言います。これは原因のない結果はない。ということです。簡単に言うと。で現在こういう状態があるということは必ず過去にそういう原因があったから、その結果としてこれが出てるのである。ということなのですね。ですから、いろんな悩み、問題を抱えて我々は生きているのです。個人としても社会としても、国全体として、あるいは人類全体としての問題を抱えております。でそれは、今は偶然に出てきたわけじゃなくて、必ず原因があるはずです。自分個人に出てきた、そういう状態というのは自分個人に責任がありますね。そういう原因を自分が作った。結果として今あるんです。国がそうであれば、

国が過去にそういう原因を作ったからそうなる。人類全体としてもそうです。人類が過去にそういう原因を作ったから、そういう問題にぶつかっていく。ということなんですね。そこから二つの教訓を学び取る事が出来ます。どんな問題があり、どんな困った状態があるにせよ、原因がわかれば再びそういう原因を作らないような生き方をすれば、現在の状態というのはそれ以上続きませんし、その後に出てくる結果というのは必らず素晴しい結果が出てくる。これは非常に厳しい法則でありますね。恐しい法則でありますけど、ある意味では非常にありがたい法則であります。科学の実験もそうですけれども、我々実際に生きているこの世界にも因果の法則というのは働いていると言う。よくいい状態は、これは過去に良い事をしたからこうなってるんだなあ。悪いことをしたら自分が悪いとは誰も言わないですね。社会が悪い。国家が悪い。他人が悪いと人にその原因をおしつける、求めたがるんですね。人間はそういう弱い存在なんですね。非常に自己中心的な存在なんですね。しかし、それはまず自分に起きた事は自分が作ったんだという意識、そして単にそれを悔むだけではいけませんね。反省し、そしてこの瞬間から再びその困る状態を作らないような生き方、あるいはもっと素晴しい結果が出るような生き方を、この瞬間からやっていく、ということになると思うんです。ですからこの因果の法則、これは科学の法則であると同時に、我々が生きる為にも大事な法則である。とこういうふうに思います。ですから以上挙げました四つの原則というのは、これは何も哲学とか、宗教とか、あるいは科学とか、そういう難しい学問的な知識を必要とは致しません。我々のごくごく常識、それを働かせて考えるだけで充分納得しうる原理ではなかろうかというふうに思います。でそういうものを心にしっかり入れて、その上で現在我々人類かあるいは自分の個人が、当面している問題というものをどういうふうに考え、そしてどういうふうな方法でやっていけば、いつも素晴らしい幸せな生活が出来るようになるかと、これを我々が考えていく必要がある。というふうに思うわけです。ここまでが前半の部分でありますけども、蛇足になるかもしれませんが、宇宙、それから地球的な規模で考えた場合、これはインドに昔から伝わる考え方でありますけども、大体こういうサイクルで世の中の現象が動いてきてる、というのを一つだけ紹介して前半を終わりたいと思います。これは時間一サイクルと考えます。これ一つ一つ時間の名前がついていまして、これをカリ、クラパラ、クレイダ、サッペという名前がついております。これを例えば第一、第二、第三、第四の時期を一応名付けます。第一の時期は1000年でその前後移行の時期がありますから、移行の時期を100年づつ考えます。100年かかってこの時期に入る。100年かかってこの時期に移る。これ全部で1200年になりますね。これは第一の時期です。第二の時期は二千年。この前後200年づつかかる。ですから、これは2400年ですね。第二の時期というのは。第三の時期というのは

3千年。これ前後300年づつ。でこれは3600年。第四の時期は4000年。前後400年づつ。てことは4800年。これ全部足しますと1万2000年になります。バックサイクルが1万2千年。でその裏が第四、第三、第二、第一。こうも戻って来ます。これは1200年だから1サイクルは24000年になります。ハーフサイクルが12000年。これで地球の自然現象。人間の現象も変わってくると、こういう考え方です。地球のいろいろな氷河期とか変動期というものを考えた場合、多少のずれはありますけども、大体こういう感じになって動いてきております。人間の社会も今このカリからグラパル時代に入った瞬間であります。このカリという時は世の中が一番乱れた時期。乱れた時期に聖人聖者が出て、世を作るという人が色々な技を生みます。それがまたお釈迦様、イエス様、そういう方達に代表される人々がこの時代に現われる。という考え方ですね。この第二の時期になりますと、その聖人聖者というよりは、むしろ個人個人がですね。聖人聖者と同じよう意識のレベルに上がっていくという時代なのです。そして、これはもう一つ別の観点から見ますと、空間破壊の時期とこういうふうにも言われます。空間破壊というのは一体どういうことかと言いますと、つまりさっき空間はどういうふうに成立するということをお話し致しました。自分と他というものが違うということ。それが全部同じような感覚になってくるということです。つまり今情報社会がまさしくそうですね。地球上のどこの情報も、今ほとんど同時に摘もうと思えば摘まえます。この色々の通信設備、宇宙衛星、テレビそういうものが発達してきておりますから。それからロケット、飛行機あらゆるもので地球上どこでも同じような感覚で捕えられる。人間の意識もさっき言った第一原則じゃないですけど、人類は全部同じだ、同胞であるというような感覚になってきますから、そのこうたいこうの違いというのが薄れてまいりまして宇宙、地球が一体感を持つようなそういう時代、それは空間破壊の時代です。それに今突入しかけている。そういう時代なのです。でそれがまた、2500年後には今度は第三。これは時間破壊の時期になっていくわけです。でこれは今は原因、結果というものは、原因があれば必ず結果が出ると先程申しましたね、第4原則で。その間にずれがあるんですね。特に地球上の現象がそうです。なんかしたらそれが結期が出るまで、すぐということはないですね。時間がかかります。努力してもそれがすぐ出てくるということはない。あるいは悪いことをしたり、良いことをしても、それがすぐ出るということはない。あるいは人によっては一生かかっても出ないかもしれない。しかし、肉体を捨てた後に、インドではまた生れ変わるという思想がありますが、その時に結果が出るかもしれない。そういうふうに非常に時間のずれがあります。ところが、第三の世界でありますと、原因と結果の時間差がなくなる。やるとすぐ結果が出てくる。そういう時代になりますね。ですから、自分が思ったらすぐそれが出てくる。考えたらすぐそれが出てく

る。講議をしたら、すぐその結果が出るという時代になります。それは便利な場合もあるし、不便な場合もあります。でいなおしがきかなくなってくるわけですね。非常に厳しい時代なのです。しかしそれまでに自分の冷静を磨いて行きますと、どんなことを考え、どんなことを講議しても正しい結果が出るように訓練されるわけですね。これまでの間に。第四の世界になりますと全く自分の思いの通りに、世の中が出来るようになる。というのは実際自分のわがままの通りになるというのではなくて、法則に意識しなくても、常にその法則に合った考えとか、行動しか出てこないような、そういう時期に入っていくわけですね。これは一番理想の時代なんです。ところが、人類が今までそういうことをやってきたんですけど、人類は今50億に近い人口が今地球におりますけれども、総ての人が全部一斉にそうなるということは少いですね。やはりかなりの人はなるけれども、ならないで残る人もいる。そうすると、たった一人でも全部完成しない場合が、またこちらにきちゃうわけですね。でまたぐるっと反対周りになって、世の中はまた乱れてくる。乱れてくると聖人聖者がでて、また上向きになってくる。とこういう1つのインドの哲学というか考え方がある非常におもしろい考え方で、参考になると思いますけど、こういう1つの宇宙の時間のものさしの第2の時期に差し掛ってきているという時期ですから、いろいろ混乱が起きてきます。いろんな悩み問題がおきます。しかし、それは新しい方法に向うために、どうしても避けられない陣痛の苦しみ、こういう悩みや問題にぶつかるからこそ我々は今の状態じゃいけない、本当に素晴らしい生き方をしないといけない、というそういう気持ちや工夫がわいてくる。そしてその結果、自分たちの意識が向上し、そして行動も正しい方向に向かっていくと。ですから何も投げていく必要はないと思います。これも変化の一つであります。それを一つの楽しみにし、また生き甲斐にして、悩み苦しみを自分の向上に役立てていくと。こういう意識もまた必要な時期に、我々は立っていると、こういうふうに思うわけであります。

ここまで一応前半にいたしまして、それで後半は具体的に、今世界にどういう問題があるか。でそれを解決する為に我々はどうしないといけないか、ということをお話ししたいと思います。

— 音　楽 —

では大原則からしばし離れまして、具体的に現在の地球の状態、世界の状態というお話に進ませていただきます。現在、世界が当面している問題は幾つもありますけども、一番大きな問題は二つあると。一つはいわゆる東西対立の問題であります。もう一つは南北対立の問題であります。もう一つもし付け加えると致しますと、環境破壊の問題も付け加えて良いかと思います。三つを申し上げて良いかもしれません。東西対立というのはいわゆる自由主義国、社会主義国、こういう一つの対立。この代表チャンピオンは

アメリカとソ連であります。どちらも相互信頼というものはありませんから、いつ攻められるかわからないという、そういう不安感がありますので、その陣営上、核戦力というものを持つ、ということに狂奔いたしております。最近は少し話し合いをして、宣言をしていこうという動きが出てきておりますけれども、基本的には当分この対立、あるいは核戦力保持という状態でいくだろうと。それがだんだん減少の方向に行くのか、逆に増大の方向にいくのか。これはわかりません。現在のところ。で過去もデタントとい緊張緩和の時期が一時ありましたけれども、アメリカはベトナムで失敗致しましたから、引き上げて、できるだけ二度と失敗のてつを踏むまいとして、平和攻勢に切りかえていこうとしたわけです。でそのデタントというのが始まります。その間にソビエトの方はアフリカのアンゴラを初めとして、ソマリア、エチオピア、イエメン、ついにはアフガニスタンまで侵略、進行しているという結果をみましたので、アメリカは慌てて、これはいけないと、一たびレーガン大統領が就任いたしましてからは、また軍備に力を入れだして、力の政策で絶対ソビエトの脅しにはのらないというふうに変えてきております。その結果、今大変な赤字国に転落しているということは皆さん御存じだと思います。で両国とも核戦力というのは、具体的にどういうことかと言いますと、いわゆる水素爆弾といわれるものですね。これを何発も抱えている。一説によると、地球を100回以上も爆発をしてしまうほど両国の間に蓄えられていると言われております。それが実際使いものになるかならないか。作ってもそれが本当に役に立つのかどうか。それを試さないことには、本当の意味はありませんから実験を致します。それはいわゆる核実験というものであります。で現在核弾頭と言いますか、核戦力といわれるものを保有している国は、ソビエト、アメリカだけじゃありませんね。フランス、イギリス、インドまで核実験をしてるくらいでありますから、まあ大変な状態だということです。今日まで1957年から実験が始まりまして、昨日まで実に400回、核実験を致しております。で昔は空中に放射能が舞い上って大変な汚染問題をおこしました。日本でも犠牲者が出ましたし各地で放射能の被害者が出ております。ですから、各政府とも地上に放射能の塵が出るような実験はやめました。現在何をやってるかというと、地下核実験というのをやってるわけですね。砂漠で、あるいは無人島で、地中深く2千m深く穴を堀りまして、その中で爆発させる。そして塵が地中には広がりますけど、空中には出ないというふうにしてやってるわけです。しかし、じゃあ、地球はそれによってどういう影響を受けるのかということですね。地球は生き物であります。みなさんは土くれというのは何か生命のないものである。ただの無機物のように思っておられるかしりませんが、地球は生きて動いております。ただ回転してるだけでなくて、この地面も動いてるんです。海底のプレートというのは皆さんご存知ですね。日本はとにかく地震国ですから、一番よくおわ

かりだと思いますが、この海底が常に、日本の場合は西へ西へと動いてきてるわけですね。日本は、ちょうど四つの海底プレートの交わった所にあるものですから、だんだん太平洋側から押し寄せ、地球プレートが日本近海に来てぶつかりまして、下へ下へと潜っていくわけですね。潜っていきますから、片方を引きずり込むような形になります。そういうふうに潜ってこういうふうになっております。これがもう絶えられないところまでくると、回復力が働きまして、ピンとはねあがりますね。その時に振動がおこって地震というのがおこります。日本の島も少し移動しております。これは最近宇宙衛星にレーザー光線をはなして、反射して、正確な距離を計れるようになりましたから、毎年何センチづく動くということがわかっております。山の高さも変わっております。地かくの中のマグマというものがいつも動いておりますね。我々は動いている生き物、地球は呼吸もしております。地下は人間の血液を同じように、地下水やいろいろな液体が流れております。そういう一つの生き物に穴を開けて悪戯してるというか、傷をつけてるわけです。それがやがて地殻深くひびがはいってきまして、マグマの殻を破るということになりますと、そこからマグマが一斉に噴き出しまして、地球上が極端に言いますと熔岩で覆われてしまうということになりかねません。そういう、いっけん自殺行為を各国はやってるわけであります。それは核実験であります。一方、石油がやがて枯渇してしまうという恐れのために、実際第一次オイルショック、第二次オイルショックという人工的に作られたショックなんですけど、あれで世界中が大変な混乱に落ち入りましたね。地球はまだ、100年か200年は使っても大丈夫なくらいあるんですけどね、しかしもうすぐ枯れてしまうかのように言って混乱を起こしたわけですけど、それにしてもやがてなくなります。それから値断がどんどん上るかもしれない。そこで考えだしたのは原子力を発電に利用しようという考え方ですね。エネルギー、夢のエネルギーと言いまして、これを作り出すということになりました。これは、非常に安全性に気を使いまして、頑丈な何重もの安全装置をつけた上で原子力発電所というのは作られているはずであります。それが、アメリカのスリーマイル、今回のソ連のチェルノブイリ、原子力工場が、発電工場が事故をおこした。だから人間には完全ということはないのですね。それから武器、核弾頭を扱ってる兵隊自身、少しは頭がおかしくなりまして、いつそのとめがねをはずさないとも限らない。実際、アメリカには四重の安全装置がつけてありまして、一回間違ってだれかが押しても、その次の歯止めが効くというふうに、四段階になってるわけです。ところが三段階まで間違って押したという事件があるんです。最後の一つが外れなかったために助かったわけですけど、人間には突然おかしくなって変なことをしないという保証はないのですね。そういう危険性はあるし、安全を言われた原子力工場でさえ、そういう状態になって、今まだそれほど騒いでませんですけど、ソビ

エトばかりじゃなくて、北欧から西欧がすごく汚染されてるわけですね。ですから、あそこらへんでとれた兎の肉であるとか、食物、日本にどんどん輸入されてきています。ですから、やがてそれは日本に限らず、その発生した国はもちろんのこと、世界中の人がそれによって汚染されるということになりかねません。そういう実際の戦争が始まる前に、既にそういう危険性にさらされているというわけです。ましてや世界戦争というものになった場合、これは大変なことになる。人類の自殺行為である。でこの危険性が全くないかというと、ないとは言えないですね。アメリカとソビエトと、恐らくお互いにやれば両方ともつぶれるということはわかってますから、恐らくやらないでしょう。なかなか。ところが一番危険なのは、私は中近東であると思います。皆さんご存知のように、今はイランとイラクがいらいらして戦争しておりますけど、あるいは同じアラーという神を信じているはずの、同じイスラム教徒同志でやりあってると、これも当分やまないであろうと思います。やがてこれが何らかの原因によって、これはどちらも影でみんな応援しているわけですね。ソビエト武器をイルクに出してるし、アメリカも出しております。両方で止めようとしなくて、反対にやらせようやらせようと影で武器をやっている。それで一体誰が儲けているのか。いうことまでちゃんと考えればおわかりになると思います。たくさんの金とたくさんの人間の血が流されて、一体誰がもうけているのかということですね。こういう日本は幸いどちらにも手を汚してないので、まだその点は安心しておられますけども、やがてイラン・イラクは何らかの原因でおさまるでしょう。その次に対立として残るのは、今も続いておりますけども、イスラエル対アラブの対立ですね。これは二千年昔からずっと続いているわけですから、大変なことです。これは本当は信仰上の対立ではないのです。昔はパレスチナという土地に、あすこはイスラエルのユダヤの聖地でもあると同時に、アラブの聖地でもあるのです。ましてや、キリストの聖地でもあるのです。だから三つの一神教を信じるユダヤ、キリスト、イスラムの三宗教の聖地なのですね。そういうパレスチナの地。これに政治的な一種の謀略がありまして、それで対立を人工的に起こして、その際に利用されたのが宗教感情なのです。宗教が対立したから、争いが起きたわけではないんです。それで一体誰が儲けたのか、誰が得するのか、最終的に。そういうことを考えていただきたいのです。それをやってる本人達は気がついているのかどうかはわかりません。しかし、少くとも直接にかかわってないものは冷静に判断をして、世界第二次大戦が起ころうとするのは中近東だと思います。イスラエルは恐らく、核爆弾を持っていると思います。やがてイラン、イラクも持ちだすでしょう。パキスタンが恐らく今年中に持つと思いますね。だから、あそこら付近で何かが起こる可能性がある。そして起こりますと、当然アメリカは動かざるを得なくなります。わかりましたね。アメリカの経済界、マスコミ界、あるいは政

治界の大半はもうユダヤが握っております。ですからイスラエルを応援するのは当然明らかであります。それに対抗する意味で、アラブ世界は当然ソビエトが応援いたしますアメリカが出てきますと、ソ連は絶対黙っておりません。あそこで引きがねが引かれますと、やがて米ソの対立というのは避けられなくなってまいります。そうすると、ちょうど中近東だけでなくて、そのあおりをくって、ヨーロッパあたりまで大変なことになる可能性が出てまいります。日本に直接かかわりないとお考えかもしれませんが、アメリカとソビエトの対立ということになりますと、当然日本も、日本に米軍の基地がありますし、ソビエトも一応その準備をしてシビアに展開しておりますから、当然日本もまきこまれるということになります。ですから何とかして、アメリカ、ソビエトの対立を今から手を打って、解決の方向に向わせないといけないと同時に、中近東におけるイスラエル対アラブの対立も、日本の皆さんの力で、全部解決できるとは思いませんけども、少なくとも緊張緩和の方向へ向かわせるような努力を今からしないと間に合いません。おそらく今世紀中にそういう状態がピークに達するというふうに思います。で、その前におそらく経済的な混乱が四、五年後にやってきます。世界中が大混乱に陥いる可能性は当然出てまいります。そういうことを考えて、ソビエトという国を見てまいりますとソビエトはかつては、ツアという王さまが治め、貴族がおさえていた農業国であったわけですが、それが共産革命によって、今まで社会の下になって虐げられていた農民、及び労働者、これが自分達の意志で政治決定をしてやっていく、新しいユートピアを築くためにやったというふうになっております。でその革命は一応成功いたしました。社会の体制は崩れました。その結果、本当に労働者や農民が自分の意志ですべてを決定して、政治・経済活動を行っているでしょうか。それはノーでありますね。誰が政治決定をし誰がすべての政治権力を行使しているかというと、一部の共産党の幹部であります。ですからツアをはじめとして、貴族階級が上で意志決定をして、おしつけたと全く変わらないことが、現在ソビエトに共産革命後新しい社会主義体制の名のもとに行われているわけであります。従って、生産性が向上するわけはありません。人身が荒廃しないわけはありません。不平、不満が出ないわけはありません。しかし、それが情報のコントロールという手段によって、どうやらかろうじて今までおさえてきたという実状であります。で、その不満をやがておさえきれないという時になって、現在のゴルバチョフのいろいろな改革がおこってきたわけです。これ以上このまま放っておいたら、内部崩壊するという危機に達してきているわけです。まず、経済問題、農業生産性の問題、工業生産性の問題、ということは最低のレベルまでいっております。農業生産がなぜ上らないかと、これはもうご存知だと思いますけど、すべて国家公務員でありますね。国家の資産であります。個人の私有物が一つもありません。たてまえ上は。ですから働いて増産

しようがしまいが、そんなことはかかわりないんです。ですから同じ給料をとっているならば、できるだけ楽をして適当に時間をつぶせばそれでよろしいという。いわゆる、悪い意味での官僚体質、それがしみついてしまったわけであります。だから何をやらしても工夫がない。努力をしない。そういう状態になってるんですね。ただ、そうやって生産性は下ってるんですけども、ただ一つ伸びたのは軍需生産、武器、兵器に核開発だけには異常な程の力を入れてきましたから。恐らく35%～40%国家予算がかけられているわけでありますから。かろうじて軍備だけは、アメリカにやや近い力を保つことができた。その他はどんどん落っこちているわけでありますね。それで、その軍需生産にどっから金を作り、つぎこんできたんだろうと、いうと、それは二つであります。一つは石油であります。もう一つは金であります。やはりいろいろ海外から技術、資材を入れないと新しい工業技術の発展も望めませんし、新しい科学技術も入れられませんから、外貨が必要であります。そういうものは石油を売り、金を売ることで得てきたわけでございます。ところが、石油の生産量が最近とみに下がってきております。どうして下がったのか。それは石油がたまってる地層というのは、地下何千mのところにあるわけです。二層三層になっているわけですね。だから一番上の層は、ほぼ取り尽くしたわけです。本来ならもっと深くやって、第二層をやるともっと出てくるわけですが、掘る技術がないですね。さらに、新しい掘削していく。第二層に到達する技術がない。それから掘削機自身新しいものはほとんどないです。部品がない。技術がないということで、生産量が下がってきております。おまけにオペックの戦略で第一次の場合は非常に石油の値段が上がりましたからよかった。生産量が落ちていても、かろうじて金額の上では保てたんですけど、石油の値段そのものがどんどん下がってきましたから、ものすごく減ったんですね、外貨が。じゃ金を売ればいいだろうと。この金は一年間出回る量というのはだいたい決まってます。これもある勢力がみんなコントロールしてるんですね。それ以上やると金の値段が暴落するのです。だから一定量以上は出せないんです。出せば出すほど金が下がりますから、あまり意味がないんですね。たくさんあるからといってたくさん出しても、たくさんお金が入るわけではないんですね。一定量しか出せない、こういうジレンマがあるわけです。そして食糧がどんどん減りますね。農業生産が減りますから。そうするとアメリカとカナダと南米から、大量の穀物を買わないといけないわけです。人間が食べる穀物と、牛、動物が食べる飼料を買わないといけないですね。これにまた大変な外貨が必要である。そうしてもうにっちもさっちもいかなくなるんですね。おもしろくない。で離婚率もアメリカを上まわって世界最高になってます。青年の問題も、今ものすごく不満が出てますけど、アメリカの映画であるとか、音楽には若者がそれに熱中して群がるという状態なんですね。そういったところへ現われてきたの

がゴルバチョフという若きリーダーですね。大変に愛国者です。力もあります。理想もあります。しかし、それをやる為に何をやるかというと、精神主義を説かざるを得ないわけです。もう一度建国の精神に立ちもどって一生懸命働こう。一生懸命がんばろうというしか手がないわけですね。金がないと新しい技術買えませんから。ですから最初にやったことは何かというと、ウォッカを飲むのを宣言しようということですね。それと地方の共産党の幹部、これを全部いっそうして新しいフレッシュな正直な党員に変えようと、今20万人裁判にかけられているわけです。汚職した連中は、そういう内部の動きが今あります。そういう改革を進める一方、どうしても外貨が欲しい、でないと食糧が変えない。新しい技術が買えない。そうするとどうするかというと、軍備費を削って、そちらに持ってこざるを得ないわけです。ですから、今ここで、さらに軍備にお金をかけることはできない。そうするとどうしても軍縮交渉をして、それで節約した金を、こういうものに投下していかなきゃならない。それが、ゴルバチョフが急きょ、レーガン大統領を呼んでレイキャビックで会談をしたという本当の意味なのです。ですから、それほど追いつめられているという状態になります。ですから、アメリカにＳＤＩというあれをやられたら、それを上まわる戦略と軍事研究を始めなきゃいけませんから、それはもう、とうていできる相談ではないんですね。必死になってＳＤＩをやめさせようやめさせようという、そういう工作をせざるを得ない。そういう状態です。一方、アメリカはどうかと言いますと、先程言いましたように、レーガンが力の政策を打ち出しましてね。政府の予算をどんどんどんどん節約しまして、小さい政府ということを心掛けましたけれども、どうしても税金の入る額が減りますから、それで軍備を増やせますから、今まで最恵国であったアメリカが、だんだん赤字に転落してきました。それだけでなく貿易が、外からは買いますけども、アメリカの品物はなかなか売れないんですね。売れない原因は二つあったんです。一つは、アメリカのドルがものすごく高くなり、どうして高くなったかというと、石油は全部ドルでしか買えないんです。他のお金では買えないんです。だから世界中で石油を買いたいところは全部ドルでやらなきゃいけない。そうしますと、ドルがどんどん中近東のオペックに入っていきますね。石油を買う為に、ドルの需要が高くなるとどうなるかというと、ドルの値断がどんどん高くなる。これは当然ですね。ドルが高くなるとどういうことになるかというと、アメリカで作った品物を外に売る場合、とても高い値断で売らなきゃいけない。今、円高で日本は困ってるでしょう。輸出する場合に売れなくて困ってるわけですね。それと同じ問題がおこったわけですね。アメリカで。ドルがどんどん高くなって、そしてその一方では、アメリカは発展途上国に金を貸していないといけないという問題もあったわけですね。借りた方は一方、借りるのはよかったけれども、今度返す場合にものすごいドルが高いものですか

ら、大変な負担を感ずる。アメリカのドルが不足してきますと、世界中がドルをかき集めないと、アメリカ自身ドルが足りなくなりますね。そうするとどうしたらよいかというと、アメリカの金利を高くするんです。そうすると日本で100万円の金が、1年間預けても7万円くらいしか利息がつかない。アメリカだと15万円くらいとなりますと、全部アメリカにドルを持ってきて、貯金するようになります。ですから、世界中からドルが集まってきますね。だから、実際アメリカの金じゃないんですけれども、他の国が預金した金でどうにか今までやってきたんです。アメリカは、自分自身の物が売れないし外国からの金で借りて、どうにか今までやってきたという状態なのですね。ですから、5年前までは大変な黒字国であったのが、今や毎年1600億ドルくらいの赤字をかかえることになってきた。その中で、日本が900億ドル、一年間アメリカとの貿易で稼ぐという状態になってきておりますから、日本が目の仇にされる。具体的な問題、これからどうなるかということ、特に経済の面から申し上げます。おそらく、このままの状態でいきますと、アメリカは制裁措置を考えてきます。そして、日本の経済、産業界は壊滅的な打撃をこうむる。そういう心配が、ここ数年のうちに出てきます。日本がよほど思いきった譲歩をしてない限りですよ。そうするとどうなるか。おそらく大変な不況がやってくるでしょうね。倒産、あるいは企業縮少、それから日本を縮少しないまでも、大企業、中小企業で力のあるところは海外へやらないと、企業的には成りたたなくなっていくと思いますね。そうすると産業の空洞化という現象が起きてきます。空洞化が起きるということはどうなるかと言いますと、みなさんの就職が失くなってくるということです。これから大変な社会不安が出てきます。現在、発展途上国では社会不安が出ているわけですね。特に若くして高等教育を受けた人達、そういう人達の就職がないために家で何もすることがなくて、しかも不平不満を持っていると何に走るか、というと、結局麻薬に走るということなんですね。麻薬の問題も大変深刻になっている。エイズの問題も大変ですけれども、麻薬の問題ももっと深刻です。これは、どこで生産し、どのルートを通って、どういうグループがやっているかということは、みんな調べがついているんです。それによってだれが儲けているのか。人の命を犠牲にしてもね。儲けようとしている人はだれなのか。というのもわかっているんです。それにもかかわらず、各国の政府は、警察機構は、末端の組織を押さえようと必死になります。肝心の生産している所でやっている人をなぜ押さえないのか。ということなんですね。その場所を知っているし、何千人くらいの人が従事しているかわかっているから、世界中が意志を結集して、そこに全部軍隊を派遣して、一網打尽にして、従事している人に補償金を与えて、他の職業に就かせれば、問題は解決するんです。世界中の麻薬はなくなるんです。それだけで。だれもそれをやろうとしない。だれも考えようとしない。実行しようとしない。

なぜか、という問題が一つあるわけです。そういう問題はさておきまして、経済不況、もう一つの引き金は、日本とアメリカの対立だけでなくて、第三世界、いわゆる発展途上国の借金が、どんどん膨れあがっております。かつては、石油とか、いろんな第一次資源を売って少しづつ利息を返してきました。ところが石油の値段がいっせいに下がると、同時に他の鉱物資源の値段もどんどん下がってきたわけです。ですから、全然儲けに、金にならないわけです。したがって、利息すら返せないという発展途上国の債務国が非常に増えてきています。そうすると、例えば、この前のブラジルのように、私達はもう払えませんからやめました、と宣言する国がある。今度は、最近地震があった南米のどこか忘れましたが、そこも地震のために返せませんからやめましたと。メキシコも3年前言ったんですが、弧立さすと大変だということで、世界中の銀行が集まって、とにかくつなぎの資金を出しましたから、どうにかもってますけどね。それが、もう4～5年頃にはいっせいに返せない状態になってくるのが続出するわけですね。そうすると借している国、年間の減耗が3分の1づつ減ってきます。みなさんが、今まで預金している3分の1くらいは返ってこないということになります。あるいは、ある特定の銀行だけに預けていたら、全部帰ってこないということになりかねません。今は、自分のことだけ考えていたんでは、自分のことすら守れないという時代になりつつあるんです。経済一つをとりあげてみても、環境破壊の問題、核実験の問題を取りあげてみても、自分一人のこと、自分一国のことだけ考えても、我々は生きられないという時代に入りつつある。だから今から自分の意識を変えて、第一原則と言いましたように、自分自身の問題として行動し、何かしなければいけないという時代になってきてるんです。そのために何をしたらいいのか。経済の問題一つを取りあげてみても、アメリカは、日本に内需を拡大じて、もっと品物を買えという。日本には、アメリカで買うものはほとんどないんです。これ以上買えと言ったって買うものはない。スーパーコンピュータを買え。電信設備を買え。飛行機を買え。と言ってますけど、これだって限度があるんです。牛肉を買え。米を入れろ。たとえ入れたところで、数億ドル違うだけです。今、900億ドル稼いでいたって何の役にもたちません。じゃ、いったいどうしたらいいのか。今まで儲かっている勢力があるんです。その勢力は、必死になって日本をつぶそうとかかる。つぶさないためにはその人達が他の方法で儲ける道を与えてやらなければならない。それは何か。他の市場を開拓してやるということです。どこにその市場があるか。先進国はだめです。日本もだめです。発展途上国しかないんですね。今、日本の個人一人の所得がいくらかわかりますか。15,000ドルですよ。バングラティッシュの所得、いくらかわかりますか。一人200ドルですよ。15,000ドルと200ドルの違いがあるんですよ私はインドの村でバングラティッシュの村で、二年間生活しました。一日いくらで生活

したと思いますか。40円で生活したんですよ。半年。ところが、それでも私はぜいたくなんです。その村の人は、20円で生活しているんです。考えられますか。そういう状態の人、例えば今のせめて倍の生活レベルに持っていくとしますと、もう一品何か食べられるようになるかもしれない。あるいは、もう一枚着物が買えるようになるかもしれない。それだけでアジアには25億の人口があるんです。その８割がそういう状態なんです。例えば、20億の人が一枚の着物を着る。もう一個の食べ物を食べられる状態にした。これは模大な需要がそこに生まれてきます。単に、その国が豊かであるだけじゃなくてねそれを売る市場もできるわけですね。今まで他の手段に儲けてきた人間を、それで人を喜ばせるために使うことができる。ですから発展途上国に、なんとかして私達はもう少しでも豊かになれるような協力をしなければならない。自分のこととしてね。我々は富めるものだから、貧しいものを助けるという態度じゃなくて、自分のこととして何かやらなきゃいけない。そのためには何が大事か。今までは金をやりました。技術をやりました。ノウハウを教えました。それも大事です。道路を作ってやりました。ダムを作ってやりました。それも大事です。そのほとんどが、３分の１がみんな高官のポケットに入っていくんです。実際に必要とする人には届いていないんです。だれが届けるのか。どうやったらいいのか。それは、結局昨日の萩原先生の話にあったように、技術や金やノウハウじゃないんです。人、自分の力で、自分の国の問題を解決して、何とかして、自分の力で、もう少しでも豊かになろうという意欲のある人を作るということなんですね。その人を作るために、我々が何が協力できるかということなのですね。それを私は20年間やってきました。とにかく、そういうことが必要です。それが、南北の問題、環境破壊の問題では緑がどんどん失くなっている。これは失くなると大変な気象の変化、砂漠化ということが起こってきます。その結果、苦しむのは自分自身であるということになるわけです。我々は、世界中からいろいろな野菜、魚、肉を輸入して毎日食膳を潤しております。食べる際、世界中の人々の恩思を受けて、我々は毎日自分の命を支えています。そういう目に見えない働きをしてくれる人々に、毎日、その人が幸せである。少しでも生活が豊かになるように祈ってあげる。そういう気持ちを持つことが、個人として必要ですね。それと同時に食べる際、野菜なり、魚なり、肉なり、自分が一番大事な命というものを犠牲にして、我々人間の命を支えてくれているわけですね。ですからその一番大事な命を犠牲にして、我々に尽くしてくれている野菜や魚や肉のために、我々人間が何をしなければならないか。地球の生命体を守るために、何をしなければならないか。そういう尊い食べ物となってくれた物、生物、動物に感謝をする。それに答えるために、人間として何をしなければならないかという意識を持つ。これが我々、今の日本人に限らないかもしれませんが、特に今の日本人、文化、品物を通してだけじゃな

くて、心を通して協力し、自分のこととして世界全人類、地球の生命を守るため、何かしていかなければならない時代になっているんじゃないか。

ご清聴ありがとうございました。

参加者感想文

A・A'グループ

松　岡　　勝

今回このセミナーに参加するにあたって、多くの不安がありました。それは今まで、自分はボランティア青年団活動等ほとんど経験も無く、興味もありませんでしたから、自分で話を理解できるかなと思ってました。

初日、不安は軽くなりました。Aグループの人達みんなええ人ばっかりみたいでしたし。みんながよく話す人達だったので、あまり話すのが上手でない自分としては、とてもらくちんだなと思いました。

二日目、松原先生の講演を聞き、これは自分はすごい場ちがいな所へ来たと思いました。前日「松原先生の言ったことは、10年ぐらいたってから理解できる部分もある」とか聞いてましたので、ちょっとむずかしいのかなとか思ってましたが、ちょっとどころではありませんでした。「ああなるほど」と思うことは多少ありましたが、ちょっと自分の頭では理解できなかったところもありました。

三日目、萩原先生の講演、これはとても身近なことに感じられ、とても楽しく聞かせていただきました。とても勉強になったと思いますし、何かやる気が出てきました。

その他レクリェーション、思索時間など余島でないとできないことがたくさんあり、またそれを利用できとてもよかったと思います。

四日間、講演、レクリェーションなどありましたが、何より多くの同世代の人達に出会えたことが、よかったと思います。自分は、小、中、高校そして今も地元に住んでますので、他県の人達との付き合いなど、めったにありませんでした（田舎ですし）。やっぱりこっちの人はむずかしい言葉をたくさん知ってますね、会話がちょっとレベルが高いように思います（ギャグも高等ですから）。

今後このようなセミナーなどありましたら、どんどん参加して行きたいと思います。

★★★★★★★★★★★

岩　佐　隆　之

このセミナーへの参加は、半強制的なものであり、また前日の学級編成会議で初めて6年生を担任することになったこともあって「喜こんで参加する」状態ではなかった。何か得られるものはあるだろうと、半分あきらめて余島に来たのであったが、最終日を迎えて、それまでの自分の心の狭さを痛感させられ、また新たな自分の在り方を発見した喜びでいっぱいである。「はや日常の繁忙さに帰らないといけない」という残念で、

もっと続けられればいいのにというのが実感である。

「心の狭さ」とは、いかに自分が多忙に追われて、心にゆとりをもっていなかったかということである。レクリェーションの時間、何の目的もなく、ソフトボール、テニス、アーチェリーと時間を過ごした。教職について一年間、目的もなく遊びに興ずるということなどのなかった。目前のことしか見ずに、目的をもつことにしか時間を費せなかった自分、何が時をムダにすごすことの大切さを忘れていたように思う。

この２日目午後の４時間は、最高にゆったりした時間であり、実にさわやかな時間であった。「時間は自分で作ること」このレクの時間、あるいは思索の時間で体験し、考えたことを、いかに忙しいとはいえ、毎日の生活の中に30分でも、自分を見つめ、目的なしに考え、行動する時間を設けたいと思う。

「新たな自分の在り方」とは、先生方からの講義や、夜の滕を交えての討論、その中でこれからの自分の人生の指標となるべきものを教えられたような気がする。その最大が「看脚下」であり、「足えを見直せ」であった。また「目的のために手段がある」こともしかりである。全く忘れていたことであり、改新して思い知らされたショックは大きかった。１年間真剣に子供たちのことを思い、実践してきましたが、その根本たるものを忘れがちでなかったが、１つ１つの方法が技術のみ考えて、その目的を把握した実践であったが、反省させられるところは大きかった。脚下を看ると、その目的とは、このＲＹＬＡの目的でもある「21世紀に生き、創造していく子供たちを生み出すこと」であると思う。この大前提をしっかり頭に入れて、今後の実践をしたい。「看脚下」は座右の銘にしたい。また町づくりでは、私自身、ふるさとを余り誇りに思わないことを恥じ、そんな教師に故郷を愛する子供など育てることができないことを痛感し、認識不足を恥じました。このことも大きな課題である。

また、バズセッションや夜の討論では、年代を越えて、また職業を越えた人達と出会い、ボランティアから教育、恋愛論まで幅広い話ができ、また聴かせてもらい、いい勉強をさせてもらいました。カウンセラーの方の経験に基づいた説得力のある話、同年代の人のしっかりした考えに触れるたびに、自分自身の甘さを思い知らされた。

フォーラムの時に、奈良先生の御意見に対し、思っていたことを言わせていただいた。その後、当の奈良先生はじめ、今井先生にも言葉をかけていただき、本当にうれしく思いました。これからもがんばっていく勇気を与えられたような気がしています。今井先生のその若さと力強さとやさしさに少しでも近付きたいように思います。

ただ一つ残念だったのは、バズセッションの時間が短かかったことである。２時から４時間じっくり話せれば、さらに有意義なものになったように思う。最初15分位、方法さえ示してくれれば、後は不要だったのではないか。この時は、時間のムダ使いを感じ

た。他が充実したものであっただけに、またキャンプファイヤーのスタンツも前日に準備しておくよう知らせてくれた方がよかった。

このセミナーに参加させてもらって、今、全日程を終えようとしている。参加に声をかけ、招いて下さった江藤ディーン、また許可してくれた校長、またカウンセラー始めロータリアンの皆様に感謝したいと思う。本当に有意義な4日間を送らせていただきました。ありがとうございました。

（とりとめのない、読みにくい文章ですみませんでした。）

★★★★★★★★★★★

木　内　哲　二

肌寒く、小雨降る中、小豆島からさらに小舟にゆられて、まるで島流しになった罪人の如く。（この際ざんげしようと決心し）何やら径しげな小島へ……。ところがどっこいこの島、潮がひくと小豆島と陸続きになるという、ロマンチックな所。初日こそ天候に恵まれなかったものの、2日、3日めと、春の陽ざしが暖かく、丘から瀬戸内をのぞむ眺めがすばらしい。スポーツ施設も充実している。結構近くに、こんな場もあったのかと、ディスカバージャパン（大昔国鉄というのがあって、そのキャッチフレーズの1つ、ああ懐しい言葉）した気分であった。

昼は、勉強（大家の先生方の感銘深い講演）させて頂き、夜は、盃を交しながら、先輩から人生の道標を示して頂き（おだてられ）、若い人からは勇気づけられ（ごますられ）、お蔭で朝がつらかった。

せんえつながら、ロータリークラブの活動、理念を探しきれなかったものの、おそらくは、住みいい家、住みいい地域、住みやすい国、そして世界。それも隣の人が、地域の人が、日本人が、いや世界中の人々にとって、そうあらなければならない。それが最終目標であろう。まったく同感です。

今後の世界のことを考え、世の中を見つめようと努力はしているつもりであったが、そのエネルギーの充電に参加させて頂いたと、感謝しています。つたない文章しかかけず嫌になります。

西　山　佳　宏

看脚下という言葉を聞いて、私は人間の「人」という文字を思い出しました。私は今まで「人」という文字は、人間が二本の足で、大地にしっかりと立っていることから、できていると考えていました。しかし、三泊四日のＲＹＬＡセミナーに参加して、別の考え方があることを発見しました。つまり、互いに助けあい、協力しあって、初めて「人」が作られ、そして人間になるのです。右に傾いている人を、別の人が右から支えていることから「人」という文字ができたのです。ＲＹＬＡセミナーに参加して「人」という文字に対するイメージが変わったように感じます。

★★★★★★★★★★★

大　森　英　史

いろいろな職業、いろいろな土地から出てきているため、ただの雑談でも、いろいろな考え方があり、ましてや、マジメな話では、ほんとにそれぞれの立場からの意見を聞くことができた。いろいろな人があつまったので本当にたのしかった。また、いろいろな先生のお話は、本当に勉強になった。このセミナーで一番感じたことは、「自分はもっともっと勉強しなければならない」ということでした。「他人のために何かをしよう」ということ以前に、「まず、自分をもっと高めなければならないのではないか」ということでした。その方が後に、より他人に為になると思いました。

★★★★★★★★★★★

小　垣　勝　範

◦人との出会い、それは、たいへんよいものだと痛感いたしました。

ＲＹＬＡセミナーに参加して、数々の人たちと出会い、語り合い、一緒に遊び、学んだんだ。これが自分にとっていい経験であり、またいい勉強になったと思います。今、ほんとうに参加してよかったと思っています。

◦少しながら３泊４日で感じたことを書かせていただきます。

プログラムに関して書かせていただきます。

４／２、余島に着いたとき雨が少しふっていました。雨にぬれながらフロントに行く

と、班分けの発表がありました。しかし、へや割はできてなかったのです。僕たち一行は、1時間近くまっていたのです。ここで、「準備不足だなー」と思いました。セミナーのスタッフの方々はお忙しい中で準備されたと思いますが……。

次に Opening party！　出されている食事を見てびっくりしました。『なんとごう華な食事だろ』とおもわず口にでてしまいました。なにかすごくぜいたくしているみたいで気が引けましたが、やっぱりうれしい！。

また、キャビンタイム、これは班の中でのアイスブレイク！　一日目の最も大切なプログラムであるので、これなしにはこのセミナーがなり立たないのではないですか？。ここで少しみんなの緊張ほぐれたのではないでしょうか？でも猫をかぶっている人も……ドキ！

4／3、— レクリェーション —　僕は、ソフトボール、ボート、テニスをしました。天気もよくレクリェーション日和だったナー。お昼からの4時間十分楽しむことができました。レクリェーションを通して、班の人とも徐々に親しくなっていくのがわかった時、うれしい気持でした。野外活動センターにテニスコート等あるのにはおどろきました。それから、レクリェーションの4時間を2日に分け2時間、2時間にしてもよいのでは？

— キャンプファイヤー —　自分はキャンプファイヤーをよくやるので、楽しみはプログラムの一つでした。どんなファイヤーをするのか、どんな意味をもたせるのか、エールマスターやキーパーの動き方は？　きたいで一杯だった。終ってみて、いろいろ考えさせられる部分もありました。でも、我々のやっているキャンプファイヤーは最高のものではないかと思っています。

— バズセッション —　これは一言でいって、主催側に問題あり！

僕たちは、テーマをきめるためにバズセッションするのではないということです。グループであるテーマでもってバズセッションするのではないでしょうか？。テーマをきめるのに2時間もかかっていては、グループでのバズセッションする時間が少なくなってあたりまえ。夜のフォーラムをもり上がらなかったのは、そこにも原因があると思います。それにせっかく班の人から、色々ないい話をきけるチャンスもなくなってしまうのではないでしょうか？。もう少しなんのためにやるのか考えなければならないのでしょうか。

— 講演 —　ほんとうにいい話しをきけてよかったと思います。自分自身の心に返ってくるものが数々あり、勉強になりました。特に萩原先生の講演には感動しました。

数々のえらそうなことを書きましたが、こういう機会を与えてくれたロータリークラブの方には心から感謝しています。

A班のみなさんありがとう。
カウンセラーの先生方ありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

植　村　　満

私は最近、こういった時間を持っていなかったのではないかと思うのです。毎日毎日仕事に追われ、休日には青年団活動といった日々、そんな中で自分を見つめなおすことの大切さを知った気がします。これからは、時々自分を見つめる時間を持って、今自分の行く道、方向付けを見付けていきたいと思います。

又、今回3名の先生より講演をいただきました。その中でも萩原茂裕先生の講演を聞き、その言葉一つ一つを自分に置き換え、今私の町では？　今自分は？　といった疑問をすなおに自分にといかけられました。

又、私はA班でしたが、メンバー全員いい人間で、いい友達が出来ました。3泊4日という短かい間でしたが、本当に腹を割って話しができる。話しがしたい、もっと語りたいと思える雰囲気が自然につくれたことに感謝したいと思います。又、菊沢カウンセラーと林カウンセラーに感謝したいと思います。

★★★★★★★★★★★

浦　上　良　樹

始めて参加させてもらいましたが、当初、あまり乗り気がなく、篠原さんとの約束を守るぐらいに思っていたのが、3日間過して、ここに来て良かったと云えるようになりました。

それは、施設、各々の気くばり、オーガナイザーの皆様の気ずかい、その中で講師、受講生、リーダーの出会い、ふれあい。

ここで得たものは何なのか、以後の生活の中でそれに報えるよう努力していきたいと考えています。

関係者の皆様有りがとうございました。

植　田　輝　彦

このセミナーで学んだことは、「ありがとう」という、ほんの５文字の言葉が、人と人とをつなぎとめるのにすごい役割をもっていたということです。

僕は言います。「良い話を聞けてありがとう」「キャンプファイヤーで演出を考えてくれてありがとう、「親しい友にめぐり合わせてくれてありがとう」「おいしいおいしいごはんをありがとう」、そして「このライラセミナーを企画、運営して下さった全ての人にありがとう」。

美しい自然、とりわけ浜辺の周囲をたどりつつ裏へまわった所の波のやさしさ、はげしさ。海の表情を久しく感じてなかった自分の心に、あたかも昨日口にした余島ワインのごとく、まろやかにしみ込んでいきました。都会のあわただしい雑踏の中で失いかけていた大切なものを再確認し、さらに回復できたと感じました。

★★★★★★★★★★★

一　柳　治　美

３泊４日のセミナーを終えて、この４日間の生活はとても充実していたと思いました。

全く未知の人達と出会い４日間寝食を共にすることによって、今ではもう随分も前から知り合いの友達の様に親しくなりました。年令も生活環境も違う人々の集まりなのにいつの間にか、心をくだいて話し合うことに驚きと何か熱いものを感じました。人と人との出会いの大切さを改めて感じさせられました。

また、時間の大切さも改めて実感しました。１時間、たった１人で自己を思索することは、最初はなんとなく不安なものでした。しかし、慣れるとこのことは自分を冷静に見つめ直し、心を落ち着けるようになり、人間にとっては、とても重要な時だと思いました。これからの日常生活にも、このような時間を取り入れると、生活がもっと充実したものになるのではないかと思いました。

このセミナーでは、本当に学ぶものが多々ありました。"自己・日本・世界を見つめる"というテーマでの講演では、各々共感するところはありましたが、自分では、日本・世界を見つめることは、まだまだの様に感じます。自己を見つめ直すことから試みていこうと思いました。そして、いつか日本（ふるさと）、世界のことに目を向けることができるよう努力していこうと思いました。

三　宅　恵　子

人との出会いとはすばらしいものですね。日常の雑事に追われ、自己を見失ない、人間の意味を見失ないがちな私にとって、多くの先生方、ロータリアンの方々、受講者の皆さんに出会い、意見を交換しあいお互いに自分を見つめ、人間社会を見つめていくことができたことは、心がなごむと同時に、少なからず明日からの私の生き方に大きな指針を与えてくださったような気がします。

私は必要上、R.Cの精神とはどういうものであるのかということを、少しでもわかればと思い、このセミナーに参加させていただきました。4日間を通して、ぼんやりとではありますが、理解できたと思っております。昨日のパストガバナーの「21世紀、全ての人類が共に豊かに（物質的な豊かさではない）生きる新しい社会をつくりあげていかなければならない、そのために今我々は何をなすべきかと考えていかなければならない」というお話がありました。この言葉に全てが集約されているような気がします。「共に豊かに生きることは決して1人の力では実現できない、1人1人がそれぞれの分野でこの目標に向って努力することが大切なのでしょう。「看脚下」という言葉が印象に残っておりますが、脚下に必ず今自分がすべき事があり、これを見つけ、実行していくことが大切なのでしょう。

私がこのセミナーで学んだことは数えきれませんが、このような自然の中で、まして思索の時間という私にとって目新しいが、すばらしい時間があったことは、取り入れた情報を消化するのにとても有益だったと思います。

ともあれ、このような学習の機会を与えて下さったロータリアンの方々に感謝するとともに、リーダーとしての自覚をもちつづけて、R.Cの精神を生かしていきたいと思っております。

★★★★★★★★★★★

大　槻　仁　美

何もわからずこのＲＹＬＡセミナーに参加してみて、たいへん充実した四日間を過ごすことができました。

ＲＹＬＡでなければ聴くことのできないようなすばらしい先生方の講演、教えられ、また考えさせられる事が多々ありました。深く心に留めて、将来何かの役に立てばと思っています。

思索時間、バズセッション、フォーラムなど、普段経験することの少ないことがプログラムに組み入れられており、とまどいながらも、良い時間の使い方を知りました。

同年令集団内でのかかわりあいが多い私自身にとって、幅広い年令層の方々と話し、生活を共にする経験は、いつもの視点からだけではなく、それぞれの状況、立場に自分を置き換えて見つめ直すことができました。若い私達のことって人生経験の豊かな方々と接するということは吸収する部分が多く、また主観的になりがちなものの見方を客観的にすることができると思います。それらすべてが良いというわけではありませんが、プラスになる部分がたいへん多いと思います。

今すぐ私が変わるということは無理かもしれませんが、いつか素直にその立場での見方ができるようになれば、それだけでいいと思います。

我がA班は、他の班より班内の結束が強かったように思えます。この三泊四日いっしょに考え、笑い合ったこの仲間達、そしてカウンセラーの菊沢さん、林さん、そしてスタッフのロータリアンの皆様に感謝するとともに、いつまでもこのつながりを大切にしていきたいと思います。

どうもありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

渡　海　千　裕

ＲＹＬＡという言葉を聞いたのははじめてで、このセミナーにどうしても参加したいと思ったわけではなく、半分仕方なく参加した、そんな感じです。

でも、こんなに色々な人達に出会え、色々な問題を語りあえた事は、私にとって素晴らしい何かを残してくれるそんな気がします。

四日間という短い期間の中で得た経験をこれからは、自分なりにいかして、少しでも役に立てるようにがんばりたいと思います。

このような企画を考えて下さった先生方、どうもありがとうございます。これからも１人でも多くの人がこのセミナーに参加し、意義のある経験ができますように、私も機会があれば、もう１度参加したいと思います。

稲　葉　里　美

ＲＹＬＡに来ていろんな話を聞き、人と出会い、そして他人の考え方を知り、すごく自分にとってプラスになったなと思った。

全く知らない人との交わりから、次第に仲間となり、お互いをさらけ出して話しあえたこと、ゲームをして共に笑えたこと、すっごく楽しかったし、うれしかった。

また何年かして、もう１度ＲＹＬＡで知り会えた人と出会い、話をしたいと思う。

★★★★★★★★★★★

松　下　久　美

３泊４日の余島でのセミナー……

はじめはスケジュールも知らなかったし、４日間も……と不安だったけれど、みんなと出会えて４日間がとても楽しかったし、短かく感じられた。

普段聴けない様な素晴しい話や、夜の討論ではみんなの本音が聴けた。この第９回ＲＹＬＡセミナーに参加できて、とてもうれしかったです。

今回吸収したことを、少しでも私のこれからの生き方に役立てることができる様に、と思います。

— みなさん、すてきな出会いをありがとうございます。 —

★★★★★★★★★★★

白　川　千　絵

はじめは長いと思っていた３泊４日が、あっという間に過ぎてしまい、とても楽しい有意義なものとなりました。

グループの人たちとの出会い、先生方のお話、討論、ゲーム等々あらためて、自己をみつめなおすきっかけになることと思います。

又、人と出会うということは、自分にいろいろなことを教えてくれる、すばらしいことなんだということを痛感しました。

ライラセミナーに参加して、本当によかったと思います。

ガバナーの方々をはじめとし、お世話くださった皆々様に深く感謝致します。本当に

ありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

菊　澤　建　明

第九回ライラにおける感動すべき事は、先づ三名の講師であろう、今回のテーマ「見つめる」にふさわしい講師が都合良く、よくも揃われたものだ。ライラに参加した青年リーダー達が、此の幸運に出会えた事をカウンセラーとして心より喜ぶと共に、ロータリアン全てに此の様な格調高い講師による講議を聞く事の出来る機会が出来る事を願ってやまない。今回特筆すべき事は、松野ガバナー夫妻の全日程ライラに参加された事だ。目立って見える事ではないが、参加ロータリアンが生き生き見えるのは、其の力の大きさを感じさせる。日を重ねると共に青年リーダー達も熱をおび、ライラの香りを身に付け若者らしい目の輝を感じ取る事が出来る。自分が此のプログラムの一員として何らかの形で役立っている事を神に感謝すると共に、此のプログラムの為に準備用意をして下さった地区青少年活動委員会の皆様、小豆島ロータリークラブの皆様、陰のご努力を下さった参加ロータリアンの皆様に心より感謝を申し上げたい気持で一杯。

今回特に此のライラを通じ、ライラ其のものの意味の広さを感じ取る事が出来た、それは「すべて出会う人によって磨かれる」と云う事である。

国際ロータリーとして、此の様な全てに取って有意義なプログラムの発見、情報として私達に流してくれる事に国際ロータリーの意味が有るのであろう。

A班の皆様の喜びの顔を浮べながら、感動と共に島を離れた、オリーブの苗を大事にかかえて。

★★★★★★★★★★★

林　　真　紀

春の晴天に恵まれ、幸せな第九回ライラでした。

昨年は水仙に飾られていた。

"人と出あい　神と交わり
愛の火の　もえるところ"

の石碑が、今年はつるキキョウによって、ふちどられていました。

センターの桜、ハタンキョウは花ひらき、山にはコバのミツバツツジが満開でした。わらびが芽を出し、余島はどこをみても、春！春！春！でした。ウグイスも鳴いていましたネ。皆様にとってライラは如何でしたか。まず全身で余島の自然を浴びて、そしてすばらしい出会いがあったのではと思います。ぎこちなかった皆様の態度が、時とともにとけ、急速に親しさをましていく様子は何度経験してもいいものです。皆様の一人一人の心の中で、どんな変化がおきたのでしょうか。

キャビンタイムでの沈黙のひととき、すてきでした。あのしりとりの時に、又ゲームの進行中に思わず息をのみ、20人がつくる静けさ、そしてはじける笑い声。気持のよいものでした。

若い人たちのすばらしさ、いつも胸一杯にいただいて帰りますが、今年は溢れんばかりです。本当に有難うございました。

ライラが、皆様の心の中で生きつづけてくださるよう祈って居ります。

お世話になりました皆々様に心より御礼申し上げます。

★★★★★★★★★★★

森　実　啓　典

このセミナーに参加して、特に自分にとって心に残ったものを3つあげてみたいと思います。

まず第1に、キャンプファイヤーで今井先生のおっしゃった"人間らしさ"という言葉です。おそらくこの言葉は、自分の人生において常に心の支えとなると思います。人のために何かする。今までは、やりたいと思っても、何かがブレーキをかけてました。でも、この"人間らしさ"という言葉が、これをとりはらってくれると思います。

次に、全くちがった職業、年齢の人達が、寝食をともにすることによって、こんなに親しく、心の底から自分の考えを述べ合うことができることです。わずか3、4日の短いつきあいなのに、ずっと前から知り合いだったのではないかと錯覚してしまうほど、みんなのつながりが密になりました。きっとこのセミナーがおわっても、ずっとつながりを持ち続けられるような気がします。

そして第3に、行政の立場にある者として、何を目的としていくべきかのヒントを得たことです。萩原茂裕先生の"町づくりは人づくり"という考え方、もっと足もとを見つめる"という考え方に、思わずひきこまれてしまいました。

最後に、このセミナーに私を派遣してくれた伊予三島市教育委員会に感謝すると同時

に、このセミナーを主催して下さったロータリークラブの方々、先生方に厚くお礼を申し上げたいと思います。

★★★★★★★★★★★★

松　本　信　道

ここへ来てみて思ったのは、食事は思っていたよりも数段よかったと思います。講演は、実にためになり、よかったと思います。ディスカッションは、三日目は、いろいろみんなの意見がきけて、ためになり、深く考えることができ、よかったと思います。

感想文など、高校以来全く書いた事もなく、かつまた、年がら年中文章については、だめという事をいわれてましたので、うまく書く事はできません。どうもすみません。

ＰＳ。まだ二日酔いで、頭がボーッとしています。

B・B'グループ

大　海　智　宣

ライラの目的とか、ロータリーについての認識を持たないまま、このセミナーに参加してよかったなと思います。

何よりもまず、様々な分野で努力されている人達と出会い、話し合って理解を深めることができたことが、大きな収穫でした。

自己を見つめて実のごとく自分を知り、自分の地域を愛し、限定することなく世界的な視野に立って考え行動する。このようなことを学びました。否定的な見方をするのではなく、あくまでも肯定的な態度で物事にのぞむこと。今の世界は大部分においていい方向にむかっているが、小さな部分で矛盾を持っている。この矛盾を私達の努力で正してゆかなければならない。そのためには、どの分野に進むかなどということはたいした問題ではないのではないかと思います。

４日間の島の生活で、１秒の長さと１時間の短かさというものをじっくり味わうことができました。

ライラセミナーで得た経験と仲間をこれからも大切にしてゆきたいと思います。

最後に、ライラセミナーに参加する機会を与え、色々とお世話下さいましたロータリアンの皆様、余島センターの皆様に心からお礼申し上げます。

★★★★★★★★★★★

池　田　善　史

このセミナーの目的はなんだったのだろうと考えると、それはやはり未来の平和な暮しのために正しい判断力を持ち、リーダーシップのとれる人間を育てることだろう。ところが正しい判断力というのは一つのことについて必ず一つあるとは限らないし、また一人の人の判断が、どの状況でも正しいとは限らない。一つの正しいと思われる判断によって行ったことが、その次の時代には全く違った判断だったと思われたことは多くある。ということは時と場合によって判断というものは変わるものだということになってしまう。どうすればよいのでしょうか。

講師の先生方やロータリークラブの方のお話を聞いてみると、感激することや納得することもある。しかし自分があまりに若いためかどうか、実感として100％は理解できないのが本音である。青少年活動一つとってみても経験が浅いか、表面でしかやっていないと、今理解したと思っていることは、低次元での理解でしかないでしよう。

今ここで学んだことは、今すぐに結論を出すことはできない。これから他の場面で経験と平行して学び、あるときここでのことが本当に理解できる時がくるでしょう。

★★★★★★★★★★★

市　原　幸　治

このセミナーに参加したことによって、自分はすごく大切なものを発見出来たような気がする。それは人との出会いである。出会いとはとても大切であって、又、重要なものであるというのが分かった様な気がする。いろいろな人とこの機会を通じ、すべての"わく"をとりのぞき、ざっくばらんにいろいろなことについて話し合う大切さ、そして楽しさを知りました。

又、このセミナーは自己を見直す良き機会であったと思います。1日目の松原先生の講演にはたくさん知らされたことがあったし、これから自分はどうして行かなければいけないか、どの様な人間でいるのが理想なのか、自分の認識の浅はかさというものが改めて思いなおされました。

一つ特に心に残った事があります。それは、3日目の奈良先生の講演の中で、先生に聞かしていただいた、あの音楽が耳から離れません。あの音楽を聞きながら目をとじると、何か神に祈りをささげなければいけない様な気持ちになり、すごく心が静まったひと時でした。

最後に、4日間Bグループの皆さんには、大変お世話になりました。再びの出会いを希望します。

このすばらしいＲＹＬＡセミナーがより発展し、そして末長く続きます様に。

★★★★★★★★★★★

一　色　泰　雄

長い様で短いセミナーだった。初めは不安だらけだったが、ロータリー精神、本当の奉仕は何なんだと、うっすらと見えかけてきた様な気もする。奉仕とめぐみは違うんだ。

そして講演

自己を見つめる

日本を見つめる

世界を見つめる

全て、すばらしい講演だった。本当にすごい。全て同じ共通点がある。あの講演の内容は心にきざみ付けておく。

又、Bグループのみなさん、迷惑をかけたこともありましたが、どうもすみませんでした。

最後に、ロータリーのみなさん、本当にありがとうございました。この短い4日間の中で感じたことを、地域にもどりなんとか頑張っていきたいと思います。

ロータリー　バンザイ！

青年団　　バンザイ！

★★★★★★★★★★★

大　西　　誠

第9回ライラセミナーを終えて、大きな充実感に包まれています。正直なところ、最初この余島に来た時これから4日間、本当にうまくやって行けるのか？　という不安があったが、今ではもっとこの島にいてもいいなあっていう気がしています。

プログラムに関してもユニークで、内容の濃い講演や思索の時間、又、レクリェーションやキャンプファイヤーと、どれを取ってもそれなりに楽しく充実していたと思う。多くの楽しい思い出もできたが、それ以上に私にとっては、このセミナーを通して、得るもの、大切な何かがありました。

3つの講演はそれぞれにたいへんすばらしいものであったが、本当に得るところが大きかったのは、夜、各県から来られた人たちとの心を割っての話の中にあった。会話することの大切さ、思索することの大切さを身をもって感じました。

このすばらしいセミナーを思い出に終わらせずに、ここから学んだことを手段にして大切な目的に向かいたいと思う。こんなにすばらしいライラセミナーをいつまでも続けていってほしいです。ライラを運営して下さった方々、カウンセラーの方々、また多くの友人たち、本当にありがとう。

小　林　長　司

この度は、私に第９回ＲＹＬＡセミナーに参加させていただく機会を与えてくださいました方々に、感謝とお礼を申しあげます。

青い海と緑にかこまれた余島の素晴らしい自然と、その自然の環境を生かした施設の中で、３人の講師先生方には、感銘深い基調講演を賜ることができました。そして、21世紀をになう若い世代の皆さんと３泊４日、寝食を共にしながら、人生経験豊富なカウンセラーの方々の適切な方向づけをいただき心強いものにふれることができました。

この余島での出会いと、数々の体験は、私の心の中に脈々と生きつづけることでしょう。

どうもありがとうございました。

★★★★★★★★★★★★

玉　田　秀　司

今回このセミナーに参加できたことは、僕にとってとてもラッキーだったと思います。夕食パーティー、個人・社会・国際をテーマとした３回の講演、キャンプファイヤー、我グループで深めた親ぼくなど、どれをとってもよかったと思えることばかりです。僕は、兵庫県加古川市から参加しましたが、加古川だけでなく他の地域の人々と話をし、そして、その人々の考え方や地域的にかかえている問題などを知り、全員でそれを話しあうことで、私自身がひとまわり大きな人間になれたような気がします。ただ残念だったのは、他のグループの人々とふれあう時間がほとんどなかった事です。それと、バズセッション・フォーラムのテーマがとりにくくて、意見があまり言えなかったこと。この２点だけが残念だった点です。

来年なさる時に、このことを参考にしていただきたいと思います。最後にこの場をかりてキャンプファイヤーでは、私のとんでもないゲームにみなさんおつきあいくださってありがとうございました。御礼申し上げます。住所をかいておきますので、何かあった時は連絡して下さい。よろしく。

〒675
兵庫県加古川市加古川町粟津467の１
TEL （0794） 22－5871

笠　井　慶　彦

僕は去年の４月から兵庫の川西でボーイスカウトの副長補をしています。一年間手伝いをしてきて、困ったことや、わからないことがいろいろありました。それを解決しようとして、このセミナーに参加したわけではないけれど、少しでも参考になれば、と思い参加させていただきました。

実際ライラに参加してみて本当によかったと思います。講師の先生のお話の中で「自分自身が目的意識を持たなくては、人作りはできない」。という話があり、僕は、自分がまずやらなくてはいけないことがわかりました。他の人の意見がたくさん聞けたこともとてもよかったと思います。今までボーイスカウト関係の人からしか、ボランティアについての話を聞いたことがなかった僕にとっては、青年団の方や子供会の方、それに他の団体の方々の活動内容や意見は、僕と共通点がいくつかあり、とても参考になりました。

お世話になったロータリアンやカウンセラーの皆様、本当に有難うございました。このセミナーで学んだことを、これからの活動にいかして頑張ります。

★★★★★★★★★★★

西　角　光　司

暗い、広漠たる宇宙空間のなかの、どろどろとしたガスのかたまり。
その中の紅炎をふき上げるひとつの原始太陽には、九個の惑星があった。
その三番目の惑星には、愚かな生物が生棲していた。
その星の大きな海の一隅に、ちっぽけな島が並んであり、古くから同じ顔をしたものが生きていた。
たえまなく続く争い、終わることのない貧困、どうしようもないおろかさ。
しかし、その人間と呼ばれる生物は、争いのなかから真理を求め、
やがて互いが手をたずさえて生きていくことを知った。
その人間が、はじめて宇宙から自分たちの住む星を見たとき、その星は美しかった。
海は青く、白い雲が流れ、山野は緑だった。すばらしき星、地球。
その星のひとつのちっぽけな国には、美しい島があり、すばらしい仲間がいた。
人々は喜びとともに生き、緑の山野には光が満ち、平和は終わることはない。

1987. 4. 5

ありがとうございました。

毎日仕事に追われて自分を見る。じっくりものごとを考えることを忘れていた気がします。

今回のセミナーで、自分自身を考え、地域社会を考え、世界の動きを考える。そうした気持ちに戻ることができた気がします。そして、それぞれユニークな個性を持った仲間との出会いも、自分自身の大切な財産が、また多くなったようです。

今回お世話いただいたＲＯＴＡＲＩＡＮの方々に心より感謝いたします。

★★★★★★★★★★★

中　島　萬　里

初めて歩く時は、どんな場所も、時も、新鮮であり、又逆に大きな不安を抱えている。上陸した時は雨だった。ライラのセミナーをはじめてから、いろいろな不都合、いたらない箇所を感じていた。他のセミナーとか、この様な体験を多々してこられた人は、もの足りなさを感じたかも知れない。それでもスロースターター気味に盛り上がっていった。余島という限られた場所 — しかも自然の真只中で、少数のグループが、三泊四日起床を共にして、一つの命題に対して、自己研鑽を行う。講師の話もさることながら、同時代若しくは、同じ人間として、青少年指導、ひいては社会の中の一員としての活動を具現するために、自身を見つめていく。グループの中での夜を徹しての話し合いが、有意義であった。それぞれ立場の違う人間が、それぞれの生活の中から討論し、対応していく。この基本的な営みの中で、私自身、ロータリアンとしての役割、意義に目ざめ、姿勢をつかみとっていくことができた。このような場をもっと利用し、もっとすばらしい人間に目ざめる一助になすこと。

ロータリーとしての境をこえて、人々と青年と触れあうことがいかに大事か、又当り前のことかを理解した。逆の意味での参加者の多くのロータリーに対する見方、考え方も、求解していったように思う。人間は、本来すばらしいものなんだと言うことを認識し、その人間の一人として、他にできることを模索し、行っていく。その生き方を教えてくれた。ボランティアとは、ただ、いやいやでもすることではなく、暖い人間の心を信じられるならば、誰でも簡単にできるものなのだ。人を信じること、そして、ロータリーのすばらしさも少し教えてくれた、このセミナーに、多大の感謝を表す。時を少し離れてみると、一層の感激と希望を会得す。合掌。

（本当にありがとうございました。関係者の御尽力に感謝致します。）

今　村　あゆみ

今回のセミナーで、私は横のつながりの大切さを痛感しました。これまで私達は、学校を選んだり、団体に属する事によって選別され、似たような考えを持つ人達と接して来ました。同じ考えを持って先に行動する事は大切ですが、自分の考えが受け入れられる事に慣れてしまい、「自分は正しい」と、自惚れてはいないでしようか？

まったく違う立場のリーダーの人達と出会い、皆がそれぞれ自分の活動に誇りを持っている事を知り、私は感動しました。その反面、全体のリーダーシップを取ろうとする人が出ると、「自分のやり方が間違いないのに……」と言う批判の声を、影で聞いたのは残念でした。

リーダーに求められているものは、お互いが協力し合える事だと思います。その意味でも、横のつながりを深める事は、大切です。

私はどちらかと言えば、リーダーのタイプではないので、一つの団体に甘んずる事なく、いつの日か、ＲＹＬＡで知り合った人達と、団体を越えた協力会を作るための土壌を作りたいと考えています。

★★★★★★★★★★★

松　本　喜代美

人と　出あい
神と　交わり
愛の　火の　もえるところ

ライラセミナーによせて

ライラって色にたとえると、何色だろうか？　物にたとえると、何だろう？
私にとって、ライラとは、太陽の下でひかり輝く魔法の小箱、
時には、やさしく、美しく、考えさせられたり、困ったり。
魔法の小箱をとじた時、私に何かをといかける!!
余島に集い、余島で語り、余島で学んだ想い出が、私に何かをといかける。
　自己を　　日本を　　世界を見つめ
　21世紀を見つめる事を……。

Ｂ班のみなさん、又、いつかおあいできる日を楽しみに。　さようなら

田　村　康　子

受講する前にお話しをうかがった時、４日間のセミナーと聞き、「長いなーと」思いました。しかし、振り返ってみれば、ものすごく短い日々でした。

お天気の方も、一日目だけ雨で後はずっと晴れて、瀬戸内余島の美しさをありありと見せつけられました。

講演の方も「自己を見つめる」から「世界を見つめる」と、発展していくテーマで、大変いいお話を聞かせて載きました。特に「自己を見つめる」の松原泰道先生のセイシュンのいろいろなあり方。盲目のお子さんが、母の絵をかいた時、手を何本もかいてその多くの手に一つ一つ愛情が宿っているなど、本当にいいお話しでした。

キャビンタイムも毎晩遅くまで話し、遊び、楽しい時間を過ごさせて載きました。年齢が、一つ違うだけなのに、大変しっかりした考えを持っていらっしゃる方。私も見習はねばと思いました。

私もこれからリーダーとして人を引っぱっていかなければなりません。まだ私には、人を引っぱっていく力はありません。しかし、ＲＹＬＡセミナーに参加し、他のリーダーの考え方をうかがい、やらねばっていう気持が強くなりました。

ここに来て、人との出会いを強く感じました。いろんな人がいます。県が違ったり、学生や社会人の違いがあります。私は、出会いは大好きな言葉であるし、好きなことです。そしていつも偶然から始まります。その偶然出会った人たちだから、それを大切にしていきたいと思います。ＢＢ′班の人と出会えてよかったです。

人と出会い
　神と交わり
　　愛の火のもゆるところ

この言葉にあたいするＲＹＬＡであり、本当に参加してよかったと思います。

ありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

倉　　千　里

今、心に思っていることは"やっぱり来て良かった"ということが実感です。先輩から絶対いいから行っておいでと送りだしてもらいました。やはり最初は不安で、どうなるのかなあという感じでしたが、３日目の夜を迎えて、本当に３日たったのって感じで

すごくはやかったのです。

何が良かったかというと、講演ですごく良い話が聞けたこと。自分自身一人になってじっくりと考えることができたことを、多くの人と話ができたこと。そして、いろんなあたたかい人、すばらしい自然に出会えたことなど、私にとってすばらしいものばかりにふれることができ4日間すごく充実できたことです。

私はこのライラセミナーに参加するにあたって、何がこれから自分自身何をしたらよいかということが見つかればなあと思って参加したのです。何をしたらよいかという具体的なことは見つからなかったけど、何か人のためにできることを自分なりに考えてやってみようと思います。とにかく失敗に関係なく、これは良いと思ったことはとにかくやってみようという感じで、今はすごく意欲に燃えています。

今日の気持ちを忘れずに、又迷った時にはこのセミナーをふりかえり、自分なりにがんばってみます。

このライラセミナーに参加させてくれた人、ライラセミナーで私に多くのことを学ばせてくれた人、そして余島に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

大富　　緑

ＲＹＬＡセミナーの具体的な内容をなにも知らず、目的もなく参加した私は、他の参加者のみなさんがきちんとした目的をもち、参加されているのを知り、大変はずかしく思いました。

初めは、知らない人たちばかりの中で4日間もやっていけるだろうかと、ちょっぴり不安でした。でも今、本当に来てよかったなと思います。3日間の講演では、すばらしい話を聞かせていただき、たくさん勉強させてもらいました。

また、班の人たちとたくさんの話ができました。年上の人たちとあまり話す機会のない私は、みなさんと話をすることにより、いろいろなことを教えられ、良い経験ができたと思っています。

そして、話をしてみなさんみんなそれぞれに自分の意見というものを、しっかりもっていらっしゃることを、私はうらやましく思いました。

私も、もう一度自分というものをみつめなおし、しっかりした自分の意見というものをこれからは持ちたいです。

4日間みなさんどうもありがとうございました。

B班の人としか仲よくなれなかったことは、ちょっと残念だったと思っています。もっとたくさんの人と話がしたかったです・・・・・。

本当にすばらしい4日間でした。もし機会があれば、もう一度参加したいと思っています。

B班のみなさん、またいつか会いましようね！。

★★★★★★★★★★★

渡　邊　ますみ

この3泊4日間を過したことを、これから大切にしていくと思います。多くのところから、それぞれちがった立場の、いろいろな目的を持った人たちが集まり、私にとっては、また新しいものの見方をみつけたような気がします。また講義では、まわりの現状に即していたので興味深く聞かせていただき、考えるべきことをたくさん提示して下さったように思います。

それらを通して、私自身を、地域を、もっと広いところを見つめるいい機会でした。研修を終えて、帰ってもう一人の私をみつけだそうと思います。

～ ありがとうございました ～

★★★★★★★★★★★

嘉　納　　洋

ライラが終って、暫くの時がたちました。皆様には御元気で御活躍の事と存じます。

何とはない不安と共に、瀬戸内の美しい小島、余島に立たれて桜の固い蕾が、暖かい日差しをあびて徐々に花開く様に大先輩や、仲間の温もりに触れ、皆様の心も次第に花開いたようだったと思います。いつの頃からか余島の桜のふくらみが、受講生の方々の心を象徴している様な気がして、着いた時は、今年も素晴しい様々な出会いのあります様に、帰路につく時は皆様の晴れやかな笑顔に、その成果を感謝しつつ桜をながめる様になりました。蕾でも、五分咲きでも、満開でも、皆様が各々の地であの桜の様に余島での思いを回りにほほえみかけて下さったら……と祈っています。

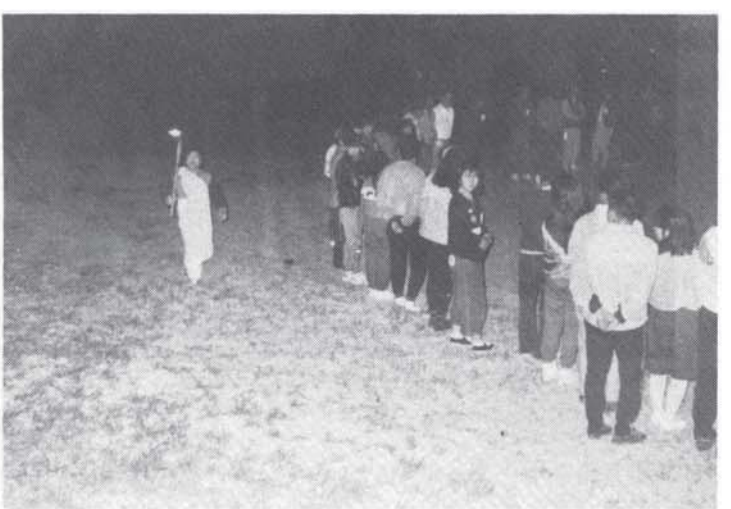
いつもの事ながら、全ての方々から頂くものの方が遥かに多い。一体私の役目は何？

と考えさせられて9年ですが、何十年か前、ヒョンな事から今井先生に御目にかかっていなかったら、余島も知らず、毎年こんな素晴しい経験もあったろうか。と「出会い」の不思議さ、素晴らしさを改めて考えさせられた今年の余島好きでした。

御一緒に組ませて載いたカウンセラーの御蔭か、とてもスムーズにいいグループの皆様に恵まれました。唯、残念だったのは、キャビンタイムがバズの様に小グループに別れての話し合いで、それぞれの悩みや喜びをグループ皆で分かち合う事の一晩もなかった事です。

全体の事に関しては、フォーラムのテーマが絞られていなかった為か、時には時間が足らなくなる程、意見が飛び交う事もあるのに、全く出なかった事、出せなかったかも知れません。せっかくのキャンプファイヤーも、もう一つ活気のなかったのは何故？しかし、これらは計画する方に責任があったかとも思います。

自分のグループ以外の人達との親睦がもてない、これも例年聴く不満の声です。グループの結束が固すぎるのでしょうか。他のグループの仲間やカウンセラーには挨拶もなしの光景も見受けました。あんなに良い講演を聞いたのに、と残念でした。小さな島の住人です。本当に皆仲良くなりたいと思います。ある年はソフトボール試合、テニス大会、缶けり等々、レクリェーションの時間に自らプランを練って、盛り上った事もありました。誰かの御膳立てを受け身で待つのではなく、又、不平不満はそれを踏み台に、自分達で道を切りひらく手もある事、憶えて欲しいと思います。一寸、御行儀の良すぎる九回生だったのでしょうか。私は、今年も皆様から色々なものを頂いて帰りました。心から感謝して居ります。有難うございました。



C・C'グループ

尾　崎　道　弘

青い海と緑一杯の自然にかこまれたここ余島での４日間に渡るライラセミナーが、今終わろうとしています。

自己を見つめ、考える上で最高の環境の中で、多くのことを学ぶことができました。「見つめる」ことをテーマに、自己・日本・世界の視野にて大変貴重な講義を受けることができ、特に時間に余裕のない生活をしてきた僕にとって、自己を、故郷を、そして社会を、と脚下から見つめることができたことは、大変勉強になりました。また、自分で考えるだけではなく、年齢層の違う多くのメンバーと共に、夜を徹して意見を交換しあい、素晴しい一時を過ごすことができました。

夜の語らい、キャンプファイヤー、レクリェーション、瀬戸内の島々、夜空に輝く満点の星、どれも思い出に残るものばかりです。

年齢層も違い、職業も全然違う人達が、こうして集い・意見を交換しあう機会は数少ないと思います。機会があれば、今度は受講する明確な目的を持って参加したいと思います。

★★★★★★★★★★★

井　上　賢　二

,87年４月２日より５日までの３泊４日。この日々は私に喜びと楽しみ、心の豊かさを与えてくれ、心の触れ合う素晴しい時間を過ごした。

２日、１時30分に小豆島ロータリーの人々に暖かく向かえていただき、銀波園に到着。多勢の若者たち。もちろん知らない者同志であり、それぞれが少々不安気な表情であった。それが４日たったらどうなったか。全員が生き生きと、まるで大学の４年間を共に過ごしたかの様に、いや、それ以上に心が結びつき、感動を持ち、言葉で表わせないようなすばらしい顔、顔、顔であった。

いや、なぜか？　その一番の原因は、全員が素直な心を持ち、昼に行われた講演について、恋愛、結婚、リーダー、人生とあらゆることについて、夜を徹して語り合い、激論をかわし、又、全員が１つとなって、飲み、歌い、おどり、さわぎ……。それぞれの本当の姿が見せたからではなかろうか。

私が属していたＣ班は、特に団結力があった。『みんながリーダー』を合言葉にして、キャンプファイヤーのスタンツも、リクリェーションも、食事も、講演も、もちろん夜

も一つとなっていた。その現れがあった。ファイヤーのスタンツが、私達は「ポキポキダンス」というのをしたのだが、その発案者であった浅貝さんに、又、フォーラムでの班の意見発表をした私に、みんなの感謝の現れとして金を集め合い、余島のトレーナーを買い送った。4日前に始めて会った若者達が、微笑みと「ありがとう」の言葉をもって……。私はうれしかった。本当に他の言葉では形容できない。

C班のみんなありがとう。他の参加のみなさんありがとう。ロータリアンのみなさん、すばらしい講演をしてくださった先生方、本当にありがとうございました。私はこの感激を忘れずに地域のリーダーとしてお役にたてるように努力します。そして、又、会いましょう。

最後に、こうした若者達の集いに参加する機会が多々あることを、これからもこのライラセミナーが失敗を乗り越えて、年々高まって続いていき、青少年に問題提起する場として発展することを望んで、私の感想を終わります。

★★★★★★★★★★★

兼　友　重　信

RYLA．OBの方々から、「ライラは、すばらしいセミナーだ」「大変良かった」と、聞いていましたが、本当にすばらしいセミナーでありました。

講演にしても、初日はまず自分を見つめなおし、そして地域を見つめ、最後に宇宙、地球的規模を見つめよう。と言う順をおった、大変すばらしい講演ばかりでした。

また、勉強ばかりではなく、様々なレクリェーションを通しての、意識の高め、そして夜を撤しての色々な話し合い、寝むさをわすれてしまうほどでした。キャンプファイヤー等、数えあげればきりがないほどです。そして何よりもすばらしかったのは、余島へ集まって来た、大変すばらしい仲間達です。

様々な地区から集まって来ても、考え方も同じで、そしてすばらしい協調性をもった人々ばかりでありました。つまり、明日の地域社会をかならずになっているりっぱな人々ばかりだと思うのです。このセミナーは、私が知っているどのセミナーよりも、一番最高でありました。4日間が、2日間ぐらいに思えます。

このセミナーで私が得たものは、「視点をちょっとかえて問題にとり組む」こと、そして「リーダーとしてのありかた」と言うようなことでした。これらを、さっそく明日からでも発揮して行こうと思います。

最後に、このすばらしいセミナーへ参加させていただいた、ロータリーのみな様、本

当にありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

笹　山　芳　宏

美しい自然の中で、のびやかにセミナーに参加できたことを感謝します。

ロータリアンの方々の熱意と情熱にふれ、青春の意味について認識を新たにしました。

また多くのすばらしい人達と知り合えたことは、本当にうれしいことでした。

そして、講師のお話しに、僕の血はなんどとなくあつくなりました。この感じを忘れずにいたいものです。できれば実践にうつしたいものです。

本当に皆様、お世話になりました。

どうか、また会う日まで、お元気で。

しかし、今日は頭がいたくて、ねむい。

★★★★★★★★★★★

中　村　哲　男

ＲＹＬＡセミナーに参加してみて、一言で言って、たいへんよかったです。人と人のふれあいがこんなにすばらしいとは、しみじみと思いました。夜のキャビンタイムなんかでも、酒をのみ、本音で話しあえる。とても最高でした。講演もとてもためになる話で、勉強になりました。このセミナーをこれからも続けて、リーダーをもっともっとつくってほしいと思います。でもスケジュールにちょっと不満がありましたので、来年は10周年ですし、もう少しスケジュールを考えてほしいと思います。キャンプファイヤーでがんばってくれた人たちに感謝しています。でも今井さんもう少し、話をみじかく話してください。たくさんいいたいことはあるでしょうが。

それでは、またお会いできることを楽しみにしています。

又、参加したいです。観音寺のロータリアンクラブの人達お願いします。

See You Again

Love　余島

中　村　好　伸

初日、小雨の中銀波園から見知らぬ友と期待と不安の気持ちで小船に乗り込み、数分で余島に着く。地元小豆島の私が余島に来たのはこれが初めてのことで"井の中の蛙"をつくづく感じたものです。

このセミナーに参加して、何が良かったか考えてみると、第1に思うのは、人と人との出会いの大切さです。

昨日まで知らなかった人と、今日は友達でいられる！　こんなすばらしいことはありません。そして、同じ教室で学び、食事をし、風呂にはいり、寝起きする。私にとって久しぶりの共同生活でしたが、とても充実した4日間でした。

今、私達のまわりにはテレビ、ラジオ、新聞、書物等から、種々の高いレベルの情報が得られるわけですが、何が自分を一番高めてくれるかというと、何が1番自分の心をうつかというと、それは人と人との出会い、生活の中から生まれる体験や、はだとはだのふれあい、ぬくもりではないでしょうか。

余島での生活は、机上学習ではなく、体験、ふれあいを通しての学習であり、人の暖かさを感じることのできるものでした。

兵庫県、四国四県の見知らぬ青年が集い、あるテーマについて討論したり、レクリェーション（スポーツ）に汗を流す。

人と人との出会い、若さとは本当にすばらしいものです。

次に、自分を改めてみつめる時間が持てたような気がします。仕事、仕事に追われ人と人とのつきあいの難しさを感じていた時ですから、集団生活ではありますが、毎日の自分の仕事、生活を離れて1人で考える時間が持てたことは、とても良かったなと思います。

最後にＲＹＬＡセミナーですが、講演内容等すばらしいものでしたし、ハイレベルのものだと思いました。

私の場合、仕事柄、萩原先生の話しは2度めですし、非常に仕事と密着しておりますので普通に講演を聞けましたが、3日間の講演を通して何がすばらしいのか、それは、同じ教室、同じ空間で講師の方と同じ時間をきょうゆうし、実際に生の声を聞くという、はだとはだのつきあいができたということです。

この高度化、情報化の進んだ社会で、私達はテレビ、ラジオ、新聞等からいつでも好きな、必要な情報を得られるわけですが、何に感動させられるかというと、それは、人の息、ぬくもり、熱意などから感じる実際のふれあいを感じた時ではないでしょうか。

そんな意味において余島での生活、講演、討論は人と人との血のかよった、机上学習

に終らない、貴重な体験、ふれあい学習といえるのではないでしょうか。

四日間お世話をいただいた全ての方にお礼を言います。ありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

尾　松　宗　夫

あくまでもさめた目でみ、代三者的な考えでいる。
また、その中からも、共通の物事を見つけて行く。
やらされるのでなく、やっていく。

★★★★★★★★★★★

橘　　敏　彦

私は、今回で２回目の参加でありますが、前回とくらべて、参加者の内容がだいぶん変化して来ているようである。

ＲＹＬＡの講演等の内容は、大変良いものでありますが、それを肥料にして、成長して良い地域社会の指導者になる人が何人ぐらいいるのかわかりませんが、全員がそうなることをいのります。

１人でも多くの指導者がそだつ様、今後共このような機会を多くあたえて下さい。

★★★★★★★★★★★

服　部　清　隆

短かい４日間でした。

本当にすばらしいセミナーであったと思います。

すばらしい講義、多くの仲間との出会い等、４日前の自分と今は確かに変わったと感じています。

講義、毎日毎日本当にすばらしく、はっきり言って、それまで眠い身体がいつの間にか、自分が吸い込まれ、メモを取る事、その時間さえも、もったいないと感じました。

ちょっとしたロータリーとの出会い。

ちょっとした軽い気持での参加。

このちょっとした事が、私の中でとんでもなく大きなものになったような気がします。ちょっとした事ではないのです。

私は、このセミナーを終えて、4日前の自分に戻らないように努力しなければなりません。そして、もっともっと成長して、その成果は……

21世紀がすばらしい世代になるようにガンバリましょう。

どうもありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

根　木　勝　也

初めてこのライラセミナーに参加するにあたって何をするのか？　参加さしてもらった。3泊4日と4日間のセミナーに参加してよかった。このセミナーはみんながリーダーだと開校式の時、ゆっていましたが、これほど難かしい物はなかった。今までは、リーダーがあり、子供たちがいましたが、今回の場合、同じ年令層の中でみんながリーダーだとゆわれて、やっていく時のリーダーの難かしさ、心構えをおしえてもらった。最後に個人的な意見ですが、バズセクション・フォラムにしてもやり方が間違っていたのではないか？　一部の人達の間ででていたが、その後に一部のグループにフォラム的みたいな話し合いがあった。それに参加していて、1つの「間違い？」をあとで話しあえたということが、自分としてはこれが真のねらいではないかと思えて仕方がない。

今日参加さしてもらい、いろんな仲間と知り合い、又、3人の講演の先生方、ガバナー・ディーン、そして関係者の方々に、このような会を開催してもらい、ありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

河　井　孝　文

私は、現在淡路ローターアクトクラブに入り、地域活動に取りくむ一人です。過去、このセミナーに参加した先輩たちから、ＲＹＬＡはたいへん勉強になって楽しい。チャンスがあれば、ぜひ参加したらよいと聞いておりました。

それで、今回このセミナーに参加したわけですが、これから感じたことを素直に書き

ます。

まず初めに、私にとって一番よかったのは講演でした。なかでも、2日目の松原先生は、むづかしくて、わかりにくく、とっつきにくい仏教の教えをわかりやすく説明してくれ、私に真実を教えてくれました。

3日目の萩原先生は、地方に住む私にとってとても興味深い話しでした。なかでも、いくらりっぱな施設をつくっても、そこに住む人がなければなにもならない。人づくりが大切である。なるほどと感心しました。

2番目に良かったのは、キャビンタイムで夜遅くまで酒をくみかわしながらの、いろいろな地域の人との自由な話しあい。私は、兵庫県からの参加ですので、日頃あまり交流のない四国の人と話ができたのは、良かった。

3番目に、日常のテレビ、新聞などのメディアから離れ、この小さな島での4日間の生活は、常日頃静かに思索することの少ない私は、たいへんリフレッシュできた。

4番目は気にいらなかったことです。それは、バズセッションとフォーラムでした。わかりきったような問題をわかりきったように答えるようで、おもしろ味がありませんでした。今後、やり方を考えたらいかがでしょう。

最後に、ここで学んだことを地域活動に役立てたい。ロータリークラブのみなさん、このセミナーに参加させてもらいまして、ありがとう。

★★★★★★★★★★★

黒　田　典　子

4日間と短かい期間でしたが、私自身、沢山の事を学び得る事が出来、充実した素晴らしいセミナーでした。

講演はもちろんの事、友人達との話し合いは、夜遅くまで続き、それぞれの人の考えなどを聞く事によって、驚きを感じたり、改めて考えさせられたりする事も幾度となくありました。

余島の恵まれた自然の中で友人達と新睦を深め合えた事は、本当に喜こばしい事と思います。今後、セミナーで得た友人達とのつながりを大切にしていきたいと思います。

今回のセミナーに参加できた事を、とてもうれしく思います。

最後になりましたが、このセミナーを行うにあたって、お世話して下さいました方々に、心より感謝申し上げます。

1987年4月5日

本　多　昭　子

４日間という短かい期間に得たもの　―　それは、とても大きなものであったと思います。不安と期待で始まったＲＹＬＡセミナーは、なんとなく日々を送ることに慣れ切った生活に稲妻のように走り、本当の意味での"生きる"ということを見つめ、考えさせてくれました。

講演はもちろん、素晴らしい仲間達とのコミュニケーションが、新しい自分、そして忘れていた自分というものを、大きな鏡に映し出し、まるで家族のように、又、それ以上に真剣に意見を述べてくれました。

このセミナーを終え、再び日常生活に戻ります。しかし、決して今までとは違う自分として生きることが、出来ると思います。自分のことだけでなく、他人のこと、社会のこと、たとえ、どんな小さなことでも考える、知る、見つめる、そんな人間へと一歩づつでも変わって行きたい。

偶然の重なりが作った出逢いを大切に、これからも仲間として親睦を深めて行きたいと思います。このセミナーで共有した多くの時間と心、忘れ難い宝物です。

最後に、ＲＣの方々、余島の方々に感謝したいと思います。

1987. 4. 5

★★★★★★★★★★★

木　本　美智代

Ｃ班は、最高に素敵なグループでよかった。楽しく３泊４日を過ごすことができたのも、グループの仲間の影響が大でした。

あまり日数的に余裕がないまま（何の下調べもせず）参加したライラセミナー。今は感激と感謝の気持ちでいっぱいです。このような研修会に参加できるのも、１人のロータリアンとの出会いからでした。衣食住を共にできる生活は、これからそう何回もあることではないと思います。素晴らしい公演をしてくださった先生方、ありがとうございました。涙が自然にあふれでてくるほど感激し、胸があつくなる思いがします。３時間という時間が短かく感じ、もっともっとお話しを聞きたいと……。私の出来る事は何か……？

まず、このライラセミナーに参加できた喜びを仲間に、これから私とかかわりあう人々に知ってもらいたいと思います。そして、親睦を深め、友情の輪を広げたいと……。

これからの私自身に、何か光をあたえてくれたような気がします。お世話になった皆様方、どうもありがとうございました。幸せな気持ちで余島を離れたいと思います。

★★★★★★★★★★★

浅　貝　智　子

私は、このＲＹＬＡセミナーに参加して本当によかったと思います。この３泊４日で数えきれないほど思い出ができました。日頃できないことも多く経験しました。夜遅くまで真剣に語り合ったり、夜な夜な宴会で、睡眠時間がほとんどとれなかったり、全員で何回もポキポキダンスをしたり、歌ったり、テニスをしたり、自然にふれたり、キャンプファイヤーをして盛り上がったり、すばらしい先生方のお話をお聞きしたり、いろいろな考え方をもった仲間やロータリアンの人々とめぐり会って、場面場面で学び得ることが数多くありました。

それから、グループにも恵まれていたと思います。みなさん素敵な人ばかりで、異常に明るいノリが最高に好きでした。日頃、あまりかかわりのない世代の人達と話し合えたのは、自分にとってプラスとなったような気がします。それと、Ｃグループのみなさんからいただいたトレーナー、私の一生の宝物にします。ありがとうございました。

また、いつか出会える日を夢見て、これでしめくくります。

Good　Luck！

★★★★★★★★★★★

小　林　久美子

ライラセミナーでは、素晴らしい人との出会いと、そして講演があり、私にとってと

てもプラスになりました。

そして、出身地、年齢、職業の異なるにもかかわらず、同じ班になった人たちと、楽しく騒いだり、話し合ったりと、いろんな人、それぞれの考え方を知ることができて、とてもよい体験が出来たと思います。

そして、講師の先生方の素晴らしいお話、時には深くうなづき、時には涙を、というように深く感銘しました。

このＲＹＬＡセミナーに参加して、多くのことを知り、学び、経験したことは、これからの長い私の人生の中で、一つの糧にしていこうと思います。

★★★★★★★★★★★

田　嶋　　愛

今回のセミナーに参加したことは、19歳の私にとって本当に良かったと思っています。成人をむかえる前に、もう一つの成人式をむかえたような気がするのです。

たくさんの年上の先輩たちから聞いた、なかみの濃い話を、今すぐにすべて実感することは難しいことです。

けれど、近いうちにきっと私の中で化学反応して、私の考え方を成長させられると思います。そして、今、こんなにも社会のことを考えている若者がいることを知って、とても驚いたし、うれしかったし、感動しました。

最初ここへ来た当日は、なんて大げさな夢のような理想ばかり言うのだろう、と思っていたけれど、３泊４日のこのセミナーが終わった今は違います。それは、今までの自分が、あまりにも物ごとを考えることもなく、いいかげんに毎日をおくっていたことがわかったからです。

たいへんな未来を背負うことになる私たちは、もっと欲をもって、理想高くいろんな面で生きなければいけないと思いました。

★★★★★★★★★★★

斎　藤　礼　子

毎日の生活からとびだして、ライラセミナーに参加した私。全く面識のない人々の中にとびこむことに、多くの期待と少しの不安を抱きながら、この余島にきた訳ですが、

そんな緊張した気持ちはすぐに消えてしまいました。

なんてすばらしい人達!! 日頃だと照れて話せないような話題も大まじめでいいあえる。励ましあえる。教えあえる。考えあえる。そして、みんなのすごい情熱!! 全く圧到される思いで、また同時に、これだけがんばろうという人がいるんだという仲間意識と自分への励みで、なんだかとても熱くなってしまいました。

今、自分は何をすべきか？ 自分に何ができるのか？ これが、今回のセミナーの間中、私の心の中でめぐっていました。まず、自分自身が広く大きい器にならなければ。私の甘えやわがままは、きっと子供に伝わってしまう。もっともっと私の人間形成をやりなおし、原点に戻り、目に見えぬものが見えてくる様なすてきなリーダーになりたい！

たくさんの事、人、思いがかけめぐり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。このすばらしい出会いに感謝し、この仲間と気持ちを大切に成長させていきたいと思います。どうもありがとうございました……。

D・D'グループ

片　桐　　一

小雨の降る肌寒い4月2日に、この余島に渡り3泊4日のプログラムでのセミナーに入り、今、無事に終わろうとしております。そこで、まず最初に、この歴史あるセミナーを支え、ご尽力いただき。私たちを暖かく見守っていただいた運営委員の方々、Fust Governer の方々、カウンセラーの方々、余島活動センターの方々、そして、この場に忙しい中参加させていただいた職場の方々に、心から感謝したいと思います。

ロータリークラブという名前は耳にしたことはありましたが、どのような活動をしているのか、またＲＹＬＡセミナーとは、どういうものか。予備知識をもたずに参加したのが現状でした。

まず、グループでの顔合せ後、プログラム通りに事が運ばれましたが、その時々で"何か場違いのところにいるのではないか"という不安が正直なところわいてきました。しかし、初対面にもかかわらず、そんなに年齢差がなく、様々な職種につかれている方々、学生の方々と discussion しているうちに気分も和らぎ、そのうえで、このセミナーの theme の1つである自己を別な観点から見つめることができ、そして改めて色々な考えをもった方々がいることに触れることができ、私にとって大変な収穫であったと思います。

同時に、言葉に表すことのできないくらい立派な3回の講演を聞くことにより、ちっぽけな自分に気づくとともに、少しは豊かになった気分を味わえることができ、幸せに感じております。

最後になりましたが、本当に有難うございました。皆さんお体を大切にして

I hope we'll see together again in near future !

★★★★★★★★★★★

赤　松　伸　二

1. すばらしい出会いがあった。

　　真剣な人。楽しい人。かわいい人。うそつきの人？

2. すばらしいふれあいがあった。

　　みんなけっこう真面目に話を深めた。

　　自由な立場でのふれあいがよかった。

　　カヌーで水をかけられ寒かった。

3. すばらしい食事があった。

メニューは忘れたけど、とてもおいしかった。

、　女性はあまりごはんを食べませんね。

4. すばらしい自然があった。

山から来たので、海がよかった。

離島の効果がよかった。

夏に来て泳ぎたい。

5. すばらしい講演があった。

ふるさとは本当にいいものだ。

人づくりに一役かいたいものだ。

世界情勢にうといことを反省。

6. すばらしいわかれがあった。

よき思い出をいっぱい胸に。

再来、再会を誓って……。

最後に、みなさんありがとうございました。

★★★★★★★★★★★

押　川　正　志

この度の第9回ライラセミナーに参加させてもらったのは、ＲＣに所属している高校野球部のＯＢの方から「国際ＲＣの主催するライラセミナーというのがあるんだけども、お前も参加してみないか？」と言われたのが、今年の2月のことでした。少し話しを聞いて、すぐに「私で良かったら是非参加させてください。」と返事をしました。と言うものの博多地区からは、初の参加者なので不安でいっぱいでした。

4月2日高松に来て、フェリーに乗って、小学校の修学旅行以来2度目の小豆島に足をおろすまで不安でした。でも、その日の晩になるにつれて、気心が知れるにつれて、少しずつ不安感が消えていきました。友達づくりという軽い気持ちで余島に来て、寝、食、飲を共にして、皆なしっかりした考えを持っていて、日本の将来について少し安心し、話しを交わして、本当に貴重な4日間でした。涙を誘う講演を始めて聞かせていただきました。楽しい時間をありがとうございました。このセミナーで私の運命、私と接した方々みんなの運命、良い方向へ変わって行くように祈ります。素晴らしい人生をありがとう、と言えるようなセミナーを永遠に続けてもらいたいと思います。明日の日本

を少しでも支える人間づくりのセミナーを続けてもらいたいと思います。

最後に、この出会いの場、ライラセミナーのお世話をしていただいた余島野外活動センターの所長、職員の方々、ディーン、ガバナー、ロータリアン、顧問、カウンセラーの方々、こういう機会を与えてくれた中村南ＲＣの方々に感謝を申し上げて、私の感想とさせていただきます。

★★★★★★★★★★★

岡　本　重　男

春の余島、小雨の中に浮ぶ島、私の住む町から遠く離れた島、それは距離だけでなく時間においても、私自身のための時間を持つ島。初めて会う人たちと語ることへの自分自身の考えの再確認と、今まで自分が引き出せなかった自分の未知の部分への発見。知らず知らずのうちに自分の目だけで見ること。自分の耳だけで聞くことになっていた自分に気づきました。１日目の「人間に生まれ、人間に育ち、本当の人間になる」この心を持っていきたい。２日目の「自分の住むまちを愛する。」行動をしたい。そして、３日目の「相手の立場で考える。自分の立場で考える。」この目で情報を見ていきたい。そして、リーダーとなるには相手を知ることが一番大切なことと感じました。

時間をいただいた講師、ロータリーの皆様、余島のＹＭＣＡの職員の皆様ありがとうございました。最後にＤ班の仲間、その他の研修生の皆さん、いつまでも今の心で頑張りましょう。

★★★★★★★★★★★

松　崎　　繁

三泊四日のセミナーでの一番の成果は、諸先生方の講演もさることながら、改めて!!「人間と出合」という、人と人のつながりの大切さを学びました。これまで一地域の人々、しかも自分の身近の人間とのふれあいだけで過ごして来た自分が恥かしく、このライラーで各地のリーダーをなさっている人。またこれからリーダーになろうとする人達と語り、話し合えた事で自分なりに理解を深める事ができたこと。本当に感謝致します。

このライラーに参加させて載いたＲＯＴＡＲＹアン、ＹＭＣＡ、余島の方々、ほんとうにありがとうございました。

三　好　規　弘

あっという間に時が過ぎ、３泊４日のセミナーが終りました。軽い気持ちで参加したＲＹＬＡでしたが、その内容は驚く程充実していました。特によかったのは、各分野の一流の講師による３日間にわたる講演でした。

１日目の松原先生の講演では、もう一度自分の足もとを見つめ直すこと、ものを判断する眼を持つことなど、心が洗れるような思いがしました。２日目の萩原先生の講演は、行政にたずさわる者として、今最大の関心事である街づくりについて素晴しいお話しを聞くことができました。そして３日目の奈良先生の講演では、日頃狭い地域の中で日常生活に追われている私にとって、忘れかけていた広い視野に立って、ものを考えるということを教えていただきました。

これらのお話しは、地域へ帰ってからの活動に、そしてこれからの私の生き方の大きな指針となるものと思います。

春の余島の美しい自然の中で、人と出会い、人の心とふれ合い、４日間寝食を共にした多くの仲間と友情の輪で結ばれ、ロータリーアンの皆様のお人柄に接し、ロータリークラブを知り得たことは、大きな喜びであると共に、深い想い出として、いつまでも心に残ると思います。

このような素晴しいＲＹＬＡセミナーを企画され、お世話いただいたロータリークラブの皆様、またこのような機会を与えて下さった小豆島ロータリーの皆様に深く感謝申し上げるとともに、機会が与えられるなら、もう１度来てみたいと思っております。ありがとうございました。

★★★★★★★★★★★★

中　　則　雄

私は、活動を５年間、大学を卒業してからつづけています。４Ｈクラブ（兵庫県農業青年クラブ連絡協議会）という所で、４Ｈとは、ハンド、ヘッド、ハート、ヘルスの理念で活動をやってきました。

その中で、農業が中心の活動であったため、活動がマンネリ化になりつつあります。今回、このライラセミナーに参加して、多くの人達、そしていろんな活動を知る事が出来、そして、いい講演を聞く事が出来ました。

農業青年は、地域に根だしたリーダーとして、自己啓発するにはいい機会だと思いま

した。

私は、このセミナーを一つのふし目として、足もとを見つめて、地域の人と共に、いろんな視点で物事を考えて、これからも活動をつづけて行きたいと思います。

最後に、いい出会いをあたえてくれたロータリーのみなさまに感謝いたします。

★★★★★★★★★★★

一貫田　達　也

私は、二度目のライラーセミナーの参加でした。でも内容は、以前の時と同じしんせんなものでした。

3人の先生の講演とても私の心をうつものがありました。特に萩原先生の講溝は、印象に残っております。角度を変えてものをみる。このことは、人との接し方にもつながると思います。

相手を理解するということで、特に必要なことではないでしょうか。

3泊4日の研修会で出会うことのできた友よありがとう。これからも、頑張って生きていきます。

★★★★★★★★★★★

有　政　　進

今回のセミナーで、私は今までに経験したことのないものを頂きました。

先ず、すてきなロータリアンの方々に出会う事を頂いた。私、ここに来るまでは、ロータリークラブは何か、本当に知りませんでした。私の様な者とは、まったく縁のない方々のレクの会だと思っていました。しかし自分の浅知恵にはじるとともに、みなさまのご努力に本当に頭のさがる思いです。

第2に、すてきな研修生（若いリーダー）に出会う事を頂きました。

私、子供会の指導者ですが、私共の今までの研修会では、今回の様に若いリーダーの方々といっしょになった事はありません。ですから今回のセミナーでの4日間、若い方々の考えているものを、ひざ付合せて本音で話し合う事が出来、多くの事を学ばせて頂きました。

第3に、すばらしい自然に出会う事を頂きました。青い空、潮の香りの本当においし

い海、木々のささやきが聞こえて来る木間のキャビン、ただすばらしいとしか言い様のない自然の中での４日間、私にとって二度とない思い出を頂いたこと、本当にありがとうございました。

セミナーで学んだ色々なもの全部はとても出来ませんが、私なりに一つでも、二つでも出来る様に努力いたします。

★★★★★★★★★★★

釜　谷　泰　造

「万物これみな我が師である」

「無からの人間性の創造」

この２つを再認識できたことに、このＲＹＬＡの意義を認めたく思う。

★★★★★★★★★★★

定　作　栄　子

４月の余島の桜は、ふくらんだ蕾をいっぱいにつけて、今にも一勢に開けそうでした。３泊４日の短い期間でしたが、こうしてＲＹＬＡセミナーに参加させて頂いて、本当にうれしく思います。この４日間を振り返って、なにか心に残る素晴らしいものを得たように思います。余島で出会い、新しい仲間の輪を広げ、ひとつになって笑い、考え、時間のたつのも忘れて話し合ったり、ほんとうに有意義でした。それぞれ違った地域、職場から集った人達が、ひとつのテーマを話し合うことによって、見方、考え方が違っていて、こう言う考え方があるのだなと勉強になりました。

また、今までロータリーとは無縁でしたが、これをきっかけに少しでも人のために何か役立つことを、大きなことはできませんが、小さなことからやっていきたいと思います。明日から職場にもどりますが、この気持ちを持って仕事に望みたいです。

最後になりましたが、Ｄ班の皆さん、カウンセラー、ロータリアンの皆さん、ありがとうございました。

美しい島、余島よバンザイ!!

Ｓ 62. 4. 5

— 余島にて —

小　森　敦　子

先輩たちに、ＲＹＬＡに参加することになったというと、今までに参加したことのない先輩も「ＲＹＬＡはすごくいい経験になるらしいから、よかったね。」とおっしゃいました。昨年参加した先輩の「もう一度行きたい。」言葉を聞いて、何がそんなにいいのだろうと思いました。しかし、今は参加できてよかったと思います。年齢も違う、初対面の人たちと話せて、いろいろな考え方を聞くことのできる機会は、なかなかないものだし、たくさんの人とも知り合えることができたからです。また、人の意見を聞くということは、自分を知ることにもつながるし、成長させるのに必要なものだと思いました。

この４日間、私にとって新鮮なことばかりでした。とても楽しかったし、充実していました。これから、ＲＹＬＡでの経験を大切にして、生かせたらと思います。そして、もっとたくさんの人に、この経験をしてほしいと思います。

★★★★★★★★★★★

黒　田　喜　美

余島に着いたとたん、変わらない余島の美しさにうれしくなりました。そして多くの人と出あい、いろんな生き方を知りました。講演でも自分の考えをもう一度見直し、しっかりとすることができました。また他の人と交わることにより、自分のみつめ方のヒントもみつけた気がします。

こんな素晴しい場にこれたことに感謝しつつ、学んだことを経験をとうして体にしみこませていきたいです。完璧にするのではなく、できる限り、人間になろうと努力し続けたいです。

最後の夜、浜辺で見上げた星空や海の音と共に、この余島の思い出を大切にしてゆきます。

★★★★★★★★★★★

大　西　美喜子

毎日仕事に追われた生活をしていた私には、ライラセミナーにおいて大変良い勉強を

させて頂きました。経験豊かな方々の意見などは、生活に流されてた自分自身に、改めて（自分という）人間の存在を見直させる良い機会になりました。

社会に出て、何か大切なものを知らない間に忘れている方が増えてきている今だからこそより多くの人に参加をしてもらい、それが何かを見つけ出して、少しでも前へ進んでいきたいという意欲を持って欲しい。

私にも、まだまだ得なければならない事が数多くあります。

ＲＹＬＡセミナーや他の活動を通しての人との出会いを大切にしていきたい。

★★★★★★★★★★★

楠　田　恵　美

この３日間、思い出してみるとしきりに胸がドキドキ！　とっても気持ちいいよ。夢みてたみたい。初めての体験、出会い、時間、本当にありがとう。非合理なエネルギーを体いっぱいにつめ込んで帰ります。そして、又、ファイトです。がんばるぞ。

Ｄ班の皆様、楽しかったね。又必ず会おうね。そして、私に新たな燃料を与えて下さいね。

♡　あ・り・が・と・う・♡

★★★★★★★★★★★

廣　田　紀代美

ＲＹＬＡ — うわさには"とても楽しかった。""もう一度行きたい。"と先輩たちから聞いてはいたけど、内心、ひとりで全く知らない、年齢も異なった中に入るのは、大変不安でした。心から打ちとけて、楽しく過ごすことができるのか。ところが、とてもすんなりと班の中に入ることもでき、のんびりとした、そして充実した時間が過ぎたようです。アーチェリーなど、初めての経験もさせていただき、外界のわずらわしい物に邪魔されることなく、孤島で波の音を聞きながら、自分自身をみつめ直すことができたような気がします。松原先生のお話の中で、"鏡をみる"ことは真実の自己をみることであるということがありました。今の私にとっては、このお話が一番勉強になったのではと思います。住んでいる所も年も違ういろいろな方から、こんなにも、じっくりとさまざまな考え方をお聞きすることができ、素晴らしい自然の中で４日間も過ごさせて

いただいた　この貴重な経験をこれからの生活、そして、私たちの活動の中に生かし、つまづいた時には、ＲＹＬＡで過ごした日々を思い出して頑張っていきたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。また、会える日を楽しみにしています。

★★★★★★★★★★★

大　橋　慶　子

ＲＹＬＡとは、"ロータリー青少年指導者養成セミナー"のことである。ということを知ったのは、恥ずかしい話ですが、この余島へ渡ってからでした。

ディーンの先生や、ロータリアンの方々からいろいろなお話を伺うにつれ、又、スケジュールを消化していくうちに、このセミナーに参加して本当によかった、と感じているところです。

現在の自分が置かれている生活環境を見渡してみますと、非常に狭い社会であるように思います。人数の多少や規模の大小の問題ではなく、各々の考え方の共通部分が多い為に、どうしても視野の狭い社会に、そして自分になってしまうと感じるからです。何かの問題提議があった場合には、討議をしても、ほぼ自分の考え通りに進んでしまうということは、確かにある意味で安心出来る関係だと言えます。しかし、それ以上の考え方の進歩は得られないのです。そう感じ始めたのは、20才代前半の頃でした。

それ以来、多くの人達と出会える機会があれば、極力その中に入っていく姿勢を続けているつもりです。勿論、今後も続けたいと願っています。

このセミナーでは80余名の若者が、寝食を共にし、夜を撤して友と語り合い、又、心を開いて議論を戦わせることによって、自分とは違った観点での物の見方、考え方を知ることが出来たことと思います。４日間とは、非常に短い期間ですが、参加者それぞれが得たものは、とても大きな心の財産であると信じます。そして、これからの時代、私達の時代に、各人がその会得した"心の財産"を何らかの形で生かしていく努力をしなければならないと、今、痛切に感じています。

第9回ＲＹＬＡセミナー運営委員会

顧　問　今井鎮雄（神戸西）
梶浦暲一（松　山）
辻　忠夫（豊　岡）
牟禮米一（高松南）

R.I.第268地区

宇賀芳樹（神戸須磨）　篠原慶弘（姫　路）
井口　仁（姫　路）　下岡節三（川西猪名川）
鹿間虹美（高砂青松）　村田伸一（明石南）
深川純一（伊　丹）　山本修三（宝　塚）

R.I.第267地区

江藤一明（小松島）　吉本　功（高知東）
谷口修平（松山西）　酒井純孝（宇和島）
平地保治（小豆島）　臼井寿一（高知北）
坂本　勉（小豆島）　元広武志（徳島北）
伊藤逸夫（東　予）

カウンセラー

村田伸一（明石南）　嘉納　洋
鹿間虹美（高砂青松）　林　真紀
菊沢建明（伊　予）　橋本知詠子
篠原成行（北　条）　関　淑子